

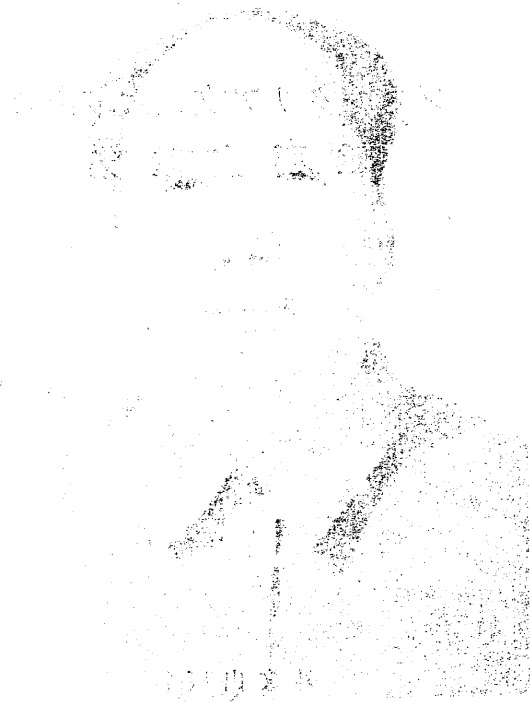
プロレタリア文化大革命の
重要文献集

プロレタリア文化大革命の
重要文献集

外文出版社
北京

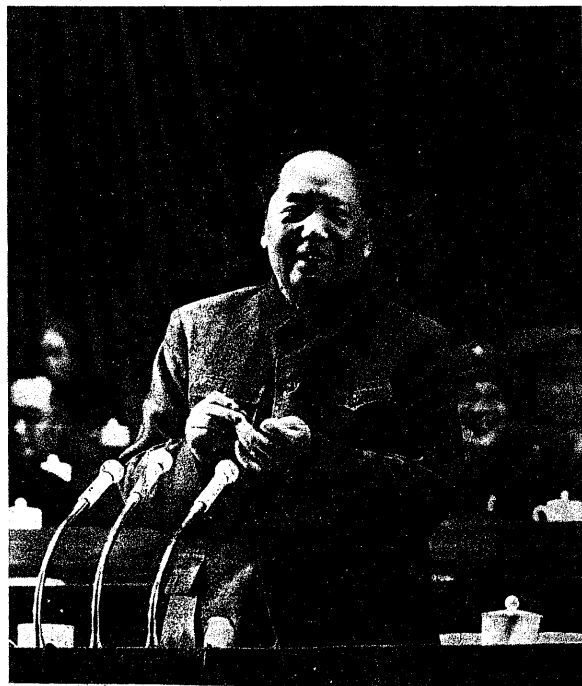


われわれの偉大な指導者毛主席





偉大な指導者毛主席は、1966年8月18日、プロレタリア文化大革命の中心地——北京で、全国各地から上京した紅衛兵およびその他の革命的な大衆と第一回目の会見をおこなった。



中国共産党第九回全国代表大会できわめて重要な演説をおこなうわれわれの偉大な指導者毛主席



1966年11月3日、北京の天安門城楼で文化革命の大軍を闖兵する偉大な指導者毛主席とその親密な戦友林彪副主席。

こんどのプロレタリア文化大革命は、
プロレタリア階級独裁をうちかため、資
本主義の復活を防ぎ、社会主義を建設す
るうえで、まったく必要なものであり、
きわめて時宜にかなつたものである。

毛
沢
東

社会主義社会は相当長期にわたる歴史的段階である。社会主義というこの歴史的段階においては、なお階級、階級矛盾と階級闘争が存在し、社会主義と資本主義との二つの道の闘争が存在し、資本主義復活の危険性が存在している。このような闘争の長期性と複雑性を認識しなければならぬ。警戒心を高めなければならぬ。社会主義教育をおこなわなければならない。階級矛盾と階級闘争の問題を正しく理解し、処理し、敵味方の矛盾

盾と人民内部の矛盾を正しく区別し、処理しなければならぬ。さもなければ、われわれのこのよ
うな社会主義国は、その反対の側に向かい、変
質し、復活があらわれることになる。われわれは
いまから、この問題について、毎年語り、毎月語
り、毎日語って、われわれが比較的はつきりした
認識をもつようにし、マルクス・レーニン主義の
路線をもたなければならぬ。

毛 沢 東

われわれはすでに偉大な勝利をかちとった。し
かし、敗北した階級は、なおあがきをつづけるも
のである。これらの連中はまだ生きており、この
階級はまだ存在している。だから、われわれは最
終的勝利を口にしてはならない。数十年のあい
だ、このことばを口にしてはならない。警戒心を
なくしてはならない。レーニン主義の観点にした
がえば、ひとつの社会主義国の最終的勝利は、自
国のプロレタリア階級と広範な人民大衆の努力が

必要であるばかりでなく、世界革命の勝利に期すべきであり、人が人を搾取する制度が全地球から消滅されて、全人類が解放されるのに期すべきである。したがって、わが国の革命の最終的勝利をかるがるしく口にするのは、まちがいであり、レーニン主義に反しており、事実にも合致していない。

毛 沢 東

目 次

中国共産党第九回全国代表大会における報告……………林彪…1	
(一九六九年四月一日に報告、四月十四日に採択)	
通 知……………117	
中国共産党中央委員会(一九六六年五月十六日)	
中国共産党中央委員会の	
プロレタリア文化大革命についての決定……………143	
(一九六六年八月八日採択)	
中国共産党第八期中央委員会第十一回総会の公報……………175	
(一九六六年八月十二日採択)	
中国共産党第八期中央委員会第十二回拡大総会の公報……………199	
(一九六八年十月三十一日採択)	

林彪同志が中国共産党中央

軍事委員会常務委員にあてた手紙……………221

(一九六六年三月二十二日)

林彪同志の委託によって江青同志がひらいた、

部隊の文学・芸術活動についての座談会の記録要綱……………225

(一九六六年二月二日—二月二十日)

林彪同志が工業・交通戦線での

毛主席著作活学活用についてかいた手紙……………269

(一九六六年三月十一日)

プロレタリア文化大革命を祝う

大衆大会における林彪同志の演説……………273

(一九六六年八月十八日)

各地から上京した革命的教員・学生と

会見するための大会における林彪同志の演説……………283

(一九六六年八月三十一日)

全国各地から上京した革命的教員・学生と

会見するための大会における林彪同志の演説……………291

(一九六六年九月十五日)

中華人民共和国成立十七周年祝賀大会における

林彪同志の演説……………299

(一九六六年十月一日)

全国各地から上京した革命的教員・学生と

会見するための大会における林彪同志の演説……………311

(一九六六年十一月三日)

中華人民共和国成立十八周年祝賀大会における

林彪同志の演説……………

321

(一九六七年十月一日)

首都人民の十月革命五十周年記念集会における

林彪同志の演説……………

333

(一九六七年十一月六日)

中華人民共和国成立十九周年祝賀大会における

林彪同志の演説……………

353

(一九六八年十月一日)

中華人民共和国成立二十周年祝賀大会における

林彪副主席の演説……………

361

(一九六九年十月一日)

中国共産党第九回

全国代表大会における報告

(一九六九年四月一日に報告、四月十四日に採択)

林 彪

同志のみなさん！

中国共産党第九回全国代表大会は、わが党の歴史において深遠な影響をもつ代表大会となるであろう。

われわれの今回の代表大会は、毛主席がみずからおこし指導しているプロレタリア文化大革命が偉大な勝利をおさめたときにひらか

れたものである。この偉大な革命のあらしは、裏切り者、敵のまわし者、労働者階級の奸賊劉少奇をかしらとするブルジョア階級司令部をたたきつぶし、劉少奇を総代表とする党内のひとにぎりの裏切り者、特務、あくまでも悔い改めない資本主義の道をあゆむ実権派をあげきだし、かれらの資本主義復活の陰謀をうちくだし、わが国のプロレタリア階級独裁を大いに強化し、われわれの党を大いに強化して、政治、思想、組織の面から今回の代表大会のために十分な条件をととのえた。

一 プロレタリア文化大革命の準備について

わが国のプロレタリア文化大革命は、大規模な、真のプロレタリ

ア階級の革命である。

毛主席は、この大革命の必要性について、「こんどのプロレタリア文化大革命は、プロレタリア階級独裁をうちかため、資本主義の復活を防ぎ、社会主義を建設するうえで、まったく必要なものであり、きわめて時宜にかなったものである」と簡潔なことばで説明したことがある。毛主席のこの科学的論断を十分に認識するためには、われわれは、プロレタリア階級独裁のもつてひきつづき革命をおこなうことについての毛主席の学説を深く理解すべきである。

党の第八回全国代表大会がおわってまもなく、一九五七年に、毛主席は『人民内部の矛盾を正しく処理する問題について』という偉大な著作を発表し、『中国共産党第七期中央委員会第二回総会での

報告』につづいて、全面的に、プロレタリア階級独裁の条件のもとでの矛盾、階級、階級闘争を提起し、社会主義社会に敵味方の矛盾と人民内部の矛盾という性質の異なる二種類の矛盾が存在するという学説を提起し、プロレタリア階級独裁のもとでひきつづき革命をおこなうという偉大な理論を提起した。この偉大な著作は、さんぜんたる光をはなつ灯台のように、わが国の社会主義革命と社会主義建設の針路を照らしており、またこんどのプロレタリア文化大革命のために理論的基礎をきざした。

毛主席の偉大な歴史的貢献をいっそう深く認識するためには、国際共産主義運動の歴史的経験をおとよりふりかえてみる必要がある。

一八五二年、マルクスは、「わたしよりもずっとまえに、ブルジョア歴史学者たちはこの階級闘争の歴史的発展をのべていたし、ブルジョア経済学者たちは各階級にたいして経済的解剖をおこなっていた。わたしが新しくやったことは、つぎの点を証明したことである。(一)各階級の存在は、生産の特定の歴史的発展段階だけにむすびついたものであるということ、(二)階級闘争は、必然的にプロレタリア階級独裁へみちびくということ、(三)この独裁そのものは、いっさいの階級の廃絶と無階級社会とにいたる過渡をなすにすぎないということ、これである」(『マルクス・エンゲルス書簡

選集』中国語版、第六三ページ)とのべた。マルクスのプロレタリア階級独裁の学説によって、科学的社会主義は、空想的社会主義や

種々さまざまのエセ「社会主義」と一線を画すことになった。マルクス、エンゲルスはこれらのことのために生涯奮闘した。

マルクスとエンゲルスの死後、第二インターの諸党は、レーニンの指導するボリシェビキ党をのぞいて、ほとんどすべてがマルクス主義を裏切った。レーニンは第二インターの修正主義との闘争のなかで、マルクス主義をうけつぎ、守り、発展させた。闘争の焦点は、ほかでもなく、プロレタリア階級独裁の問題であった。レーニンは古株の修正主義者をきびしく糾弾したとき、「階級闘争を承認するにすぎないものは、まだマルクス主義者ではない」、「階級闘争を承認し、同時にプロレタリア階級独裁をも承認するものだけが、マルクス主義者である」(「レーニン全集」中国語版、第二十五

巻、第三九九ページ)とくりかえし指摘した。

レーニンは、ロシアのプロレタリア階級を指導して偉大な十月社会主義革命の勝利をたたかいとり、最初の社会主義国家を樹立した。レーニンは、プロレタリア階級独裁を指導した偉大な革命的実践にもとづいて、資本主義復活の危険性と階級闘争の長期性を見抜き、「資本主義から共産主義への移行は、歴史的一時代である。この時代が終わらないあいだは、搾取者には必然的に復活の望みがない」といって、この望みは復活の行動に転化する(「レーニン全集」中国語版、第二十八巻、第二三五ページ)とのべている。

レーニンは、「ブルジョア階級の反抗は、かれらが打倒される(たとえ一国内であれ)ことによって十倍にも狂暴になる。かれら

の強大さは、国際資本の力、かれらのもつさまざまな国際的連係の力と強固さにあるばかりでなく、習慣の力、小規模生産の力にもある。なぜなら、小規模生産は残念ながら、いまなお、この世におびただしくのこっていて、この小規模生産が資本主義とブルジョア階級を、たえず、毎日、毎時、自然発生的に、大規模に生み出してゐるからである」と指摘している。「すべてこういう理由からして、プロレタリア階級の独裁は必要である」(『レーニン全集』中国語版、第三十一巻、第六ページ)というのがレーニンの結論である。

レーニンはまた、「新しいブルジョア階級が」「われわれのソビエトの職員のなから生まれ」(『レーニン全集』中国語版、第二十九巻、第一六二ページ)つつある、と指摘した。

レーニンは、復活の危険性は資本主義の包囲からもきていると指摘し、帝国主義国は「かれらのいわゆる軍事干渉、つまりソビエト権力絞殺のためには、どんな機会をものがすまいとしている」

(『レーニン全集』中国語版、第三十一巻、第四二三ページ)とのべた。

ソ連修正主義裏切り者集団は、レーニンのこれらの輝かしい教えに徹底的にそむいた。フルシチョフからブレジネフにいたる手合はみな、はやくからソ連共産党の内部にひそんでいた資本主義の道をあゆむ実権派である。かれらは政権の座につくやいなや、ブルジョア階級の「復活の望み」を「復活の行動」に変え、レーニン、スターリンの党をのっとり、世界最初のプロレタリア階級独裁の国家を、暗黒な、ファシズムの、ブルジョア階級独裁の国家に「平和的

に転化」させた。

毛主席は、ソ連修正主義裏切り者集団を中心とする現代修正主義とまっとうから対決する闘争をおこなって、プロレタリア革命とプロレタリア階級独裁についてのマルクス・レーニン主義の理論をうけつぎ、守り、発展させた。毛主席は、プロレタリア階級独裁の正反両面の歴史的経験を全面的に総括し、資本主義の復活を防ぐために、プロレタリア階級独裁のもとでひきつづき革命をおこなう理論を提起した。

毛主席は、はやくも中国革命が新民主主義革命から社会主義革命に転換する前夜、つまり一九四九年三月、党の第七期中央委員会第二回総会での報告のなかで、プロレタリア階級が全国の国家権力を

奪取したあと、国内の主要な矛盾は「労働者階級とブルジョア階級との矛盾」であり、闘争の中心は依然として国家権力の問題であることを明確に指摘した。毛主席は、「銃をもった敵が消滅されてからも、銃をもたない敵は依然として存在する。かれららはかならずわれわれに死にもの狂いのたたかいをいどんでくる。われわれはけっしてこれらの敵をみくびってはならない。現在、このように問題を提起し、問題を認識しないなら、われわれはきわめて大きなあやまりをおかすことになる」と、とくにわれわれの注意を喚起している。毛主席は、プロレタリア階級独裁樹立後の、プロレタリア階級とブルジョア階級とのあいだの階級闘争の長期性と複雑性を予見して、政治、思想、経済、文化、外交の領域で、帝国主義、国民党、

ブルジョア階級にたいして闘争をすすめるという戦闘任務を全党に提起した。

わが党は、第七期中央委員会第二回総会の決議にもとづき、毛主席のさだめた過渡期における党の総路線にもとづいて、はりつめた戦闘をすすめた。そして、一九五六年には、農業、手工業、資本主義工商業にたいする生産手段所有制の面での社会主義的改造を基本的になしとげた。これは、社会主義革命がひきつづき前進できるかどうかの決定的瞬間であつた。毛主席は、国際共産主義運動における修正主義の狂暴りとわが国の階級闘争の新しい動向にかんがみ、『人民内部の矛盾を正しく処理する問題について』という偉大な著作のなかで、「わが国では、社会主義的改造が所有制の面では

基本的になしとげられたが」、「しかし、くつがえされた地主・買弁階級の残存分子はまだ存在しており、ブルジョア階級もまだ存在しており、小ブルジョア階級はやっと改造されはじめたばかりである」と全党に注意をうながしている。一九五六年に劉少奇がもちだした「わが国で社会主義と資本主義との、どちらがどちらにうち勝つかという問題は、現在すでに解決された」などというでたらめな論調にまっこうから対決して、毛主席は「社会主義と資本主義とのあいだの、どちらが勝ち、どちらが負けるかという問題は、まだほんとうには解決されていない。」「プロレタリア階級とブルジョア階級とのあいだの階級闘争、各政治勢力のあいだの階級闘争、プロレタリア階級とブルジョア階級とのあいだのイデオロギー面で

の階級闘争は、なお長期にわたる、曲折したたかいであり、ときにはひじょうに激しいものであつた」ととくに指摘した。これは、生産手段所有制の社会主義的改造が基本的になしとげられたのちにも、階級と階級闘争がなお存在し、プロレタリア階級はなおひきつづき革命をおこなわなければならないということを、国際共産主義運動の理論と実践のなかではじめて明確に提起したものである。

毛主席をはじめとするプロレタリア階級司令部は、広範な大衆をひきい、毛主席のさし示したこの方向にそつて、ひきつづき偉大な闘争をすすめた。一九五七年ブルジョア右派分子に反対した闘争から一九五九年廬山会議で彭徳懷反党集団をあばき出した闘争にいた

るまで、また党の社会主義建設の総路線についての大弁論から社会主義教育運動における二つの路線の闘争にいたるまで、闘争の中心は、ほかでもなく、社会主義の道をあゆむか資本主義の道をあゆむかという問題であり、プロレタリア階級独裁を堅持するかブルジョア階級独裁を復活させるかという問題であつた。

毛主席のプロレタリア革命路線がおさめたどの勝利も、党がブルジョア階級に反対しておこしたどの重要な大戦役の勝利もみな、劉少奇に代表される右の、もしくは形は「左」だが実際は右の修正主義路線を粉砕して、はじめてかちとられたものである。

すでに調査によつて判明したように、劉少奇は、はやくも第一次国内革命戦争の時期から、裏切つて敵に投降し、敵のまわし者、劣

働者階級の奸賊になりさがっており、かれはおびただしい犯罪行為をかさねた、帝国主義、現代修正主義、国民党反動派の手先であり、資本主義の道をあゆむ実権派の総代表であった。かれは、中国で資本主義を復活させて、中国を帝国主義、修正主義の植民地に交えようとたくらむ政治路線をもっていた。かれはさらに、その反革命の政治路線に奉仕する組織路線をもっていた。長年らい、劉少奇は、敵に投降したものとや変節者をかかえこみ、一群の裏切り者、特務、資本主義の道をあゆむ実権派をかきあつめてきた。かれらは、自分たちの反革命の政治的経歴をひたかくしにかくし、互いにかばいあい、ぐるになって悪事をはたらき、党と国家の重要なポストをかすめとり、中央から地方にいたるまでの多くの単位の指導権をに

ぎり、地下のブルジョア階級司令部をつくって、毛主席をはじめとするプロレタリア階級司令部にたてついたのである。かれらは、帝国主義、現代修正主義、国民党反動派と結託して、アメリカ帝国主義、ソ連修正主義、各国反動派がはたしえない破壊的役割をはたしたのである。

一九三九年、毛主席の指導する抗日民族解放戦争がすさまじい勢いで発展しているまさにそのとき、劉少奇はかれの黒い『修養』をもちだした。この本の急所はプロレタリア階級独裁にそむくことにあった。『修養』は、日本帝国主義の打倒については何ひとつ語らず、国民党反動派といかにたたかうかについては何ひとつ語らず、武力で国家権力を奪取するというマルクス・レーニン主義の根本原

理については何ひとつ語らず、逆に、共産党員が偉大な革命の実践から離れて観念論的な「修養」なるものをするようにしむけ、実際には、共産党員が「修養」をすることによって、帝国主義、国民党反動派の反革命独裁に膝を屈して投降する奴僕になりさがるようにしむけたのである。

抗日戦争の勝利後、アメリカ帝国主義が蒋介石の反革命軍隊を武装し、解放区にたいして大挙攻撃をかける準備をしているそのとき、劉少奇はアメリカ・蒋介石反動派の必要にこたえて、「中国は平和と民主の新しい段階にはいった」などという投降主義路線をもちだし、毛主席のうちだした「思いきって大衆を立ちあがらせ、人民の力を強大にし、わが党の指導のもとに、侵略者をうちやぶり、

新しい中国をきずきあげる」という総路線と、アメリカ・蒋介石反動派の進攻にたいしては「まっこうから対決し、一寸の土地もかならず争う」という方針をとることに反対し、「中国革命のおもな闘争形態はいま、武装闘争から、非武装の大衆的議会闘争に転換した」などと鼓吹し、人民の軍隊にたいする党の指導を解消し、人民解放軍の前身である八路军、新四軍を蒋介石の「国軍」に「統一」させようとし、さらには、党の指導する労働者・農民の子弟兵を大量に復員させようとし、こうして根本から人民の軍隊を解体して、中国革命を葬りさり、中国人民が血を流して奪いかえした勝利の果実を国民党にうやうやしくささげようとたくらんだのである。

一九四九年四月、中国人民解放軍が長江渡河を準備し、中国の新

民主主義革命が全国的勝利をかちとる前夜、劉少奇はこともあろうに天津にかけつけて、いきなり資本家のふところにくびをつつこんだ。かれは、閉会したばかりの党の第七期中央委員会第二回総会が決議した、私的資本主義工業にたいする利用、制限、改造の方針に「狂気のように対抗し、「こんにちの中国の資本主義はまだ青年時代にあり」、無制限に「大いに発展させる」べきであり、「こんにち資本主義による搾取は、罪悪でないばかりか、功績がある」といつて大いに吹きまくり、恥知らずにも、「搾取が多ければ多いほど、功績も大きい」などといってブルジョア階級をもちあげ、修正主義の唯生産力論をさかんに吹聴し、中国を資本主義の道へひきいれようとたくらんだのである。

要するに、新民主主義革命と社会主義革命の多くの重大な歴史的瞬間に、劉少奇一味はいつも、毛主席のプロレタリア革命路線に狂気のように反対し、反革命の陰謀破壊活動をおこなったのである。しかし、かれらが反革命である以上、かれらの陰謀は暴露せざるをえない。フルシチョフが登場して以後、とりわけソ連修正主義がアメリカ帝国主義、インドなどの国の反動派と結託して、大々的に反中国をおこなうようになると、かれらはいっそうたけり狂ってきたのである。

毛主席はだれよりもやく劉少奇一味の反革命の陰謀の危険性に気づいた。一九六二年一月の中央工作会议で、毛主席は、修正主義があらわれるのを警戒すべきであるという問題を提起した。一九六

二年八月の北戴河の中央工作會議と九月の党の第八期中央委員会第十回總會で、毛主席はいっそう完べきに、社会主義の全歴史的段階におけるわが党の基本路線をうち出した。毛主席は、「社会主義社会は相当長期にわたる歴史的段階である。社会主義といふこの歴史的段階においては、なお階級、階級矛盾と階級闘争が存在し、社会主義と資本主義との二つの道の闘争が存在し、資本主義復活の危険性が存在している。このような闘争の長期性と複雑性を認識しなければならぬ。警戒心を高めなければならぬ。社会主義教育をおこなわなければならない。階級矛盾と階級闘争の問題を正しく理解し、処理し、敵味方の矛盾と人民内部の矛盾を正しく区別し、処理しなければならない。さもなければ、われわれのこのような社会主

義国は、その反対の側に向かい、変質し、復活があらわれることになる。われわれはいまから、この問題について、毎年語り、毎月語り、毎日語って、われわれが比較的はつきりした認識をもつようにし、マルクス・レーニン主義の路線をもたなければならない」と提起している。毛主席の提起したこのマルクス・レーニン主義の路線は、わが党の生命線である。

つづいて、一九六三年五月、毛主席はみずから主宰して、『中国共産党中央の、当面の農村工作におけるいくつかの問題についての決定（草案）』（すなわち『十カ条』）を制定し、社会主義教育運動における党の路線、方針、政策を定めた。毛主席はさらに、全党にたいし、もし階級と階級闘争を忘れ、プロレタリア階級独裁を忘

れるなら、「それほど長い期間がたたなくても、つまり、短くて数年、十数年、長くて数十年もたてば、不可避免的に全国的規模の反革命の復活があらわれることになり、マルクス・レーニン主義の党はきつと修正主義の党にかわってしまい、ファシストの党にかわってしまい、中国全体が変色してしまうであろう。同志諸君に考えてもらいたい、これはなんと危険な情景であろうか！」と警告を発した。毛主席はその時すでに、資本主義復活の危険性をいっそうはつきりと全党と全国人民のまえに提起したのである！

これらすべての警告と闘争によって、劉少奇一味の反動的な階級的本性は、いささかも改められることはなかったし、また改められるものでもなかった。一九六四年、偉大な社会主義教育運動のなか

で、劉少奇はとびだしてきて、大衆を弾圧し、資本主義の道をあゆむ実権派をかばうとともに、毛主席が先頭にたつて提唱した、社会の情況について調査研究をおこなうというマルクス主義の科学的方法を、すでに「時代おくれ」になったといつて公然と攻撃し、劉少奇の路線を實行しないものは、もう「指導幹部になる資格はない」などとうそぶいた。かれらは、しびれを切らしてすぐにも資本主義を復活させようとしたのである。一九六四年末に、毛主席は中央工作会議を召集し、みずから主宰して『農村の社会主義教育運動のなかで、当面提起されているいくつかの問題』（すなわち『二十三カ条』）を制定し、劉少奇の、形は「左」だが実際は右のブルジョア反動路線をきびしく糾弾し、劉少奇の「党内外の矛盾の交叉」、

「四清と四不清の矛盾」などという奇怪な論調を批判し、「今回の運動の重点は、党内の例の資本主義の道をあゆむ実権派をたたくことにある」ということをはじめて明確に提起した。毛主席が国内、国際のプロレタリア階級独裁の歴史的経験を総括してえたこの新しい結論は、社会主義教育運動の針路を正し、まさにおとずれようとしていたプロレタリア文化大革命の方向をはっきりとさし示したものである。

この間の歴史をふりかえってみると、幾億もの革命的大衆が参加したこんどのプロレタリア文化大革命は、けっして偶然におこったものでないことがわかる。これは、社会主義社会に存在する二つの階級、二つの道、二つの路線の長期にわたる鋭い闘争の必然的な結

果である。これは、「プロレタリア階級がブルジョア階級とすべての搾取階級に反対する政治大革命であり、中国共産党およびその指導下にある広範な革命的人民大衆と国民党反動派との長期にわたる闘争の継続であり、プロレタリア階級とブルジョア階級との階級闘争の継続である」。偉大な指導者毛主席にしっかりとしたがって社会主義の道をあゆむことを決意している英雄的な中国のプロレタリア階級、貧農・下層中農、人民解放軍、革命的幹部および革命的知識分子は、劉少奇一味の復活の策動にこれ以上がまんできなくなり、ついに階級の大格闘が不可避となったのである。

まさに毛主席が一九六七年二月にある談話のなかで指摘したように、「これまで、われわれは農村での闘争、工場での闘争、文化界

での闘争をおこない、社会主義教育運動をすすめてきたが、しかし、問題を解決することができなかった。なぜなら、公然と、全面的に、下から上へと広範な大衆をたち上らせて、われわれの暗い面をあばきだすようなひとつの形態、ひとつの方式を見つけたせなかったからである。」いま、われわれはこのような形態を見つけた。それはほかでもなく、プロレタリア文化大革命である。幾億もの大衆をたち上らせて、大いに見解をのべ、思うぞんぶん意見を発表し、大字報をはり、大弁論をおこなうようにさせてこそ、はじめて党内にもぐりこんでいる裏切り者、特務、資本主義の道をあゆむ実権派をあばきだし、かれらの資本主義復活の陰謀を粉碎することができるのである。劉少奇というこの裏切り者、敵のまわし者、

労働者階級の奸賊の一貫した反革命の正体は、ほかでもなく、広範な大衆が審査に参加したことによって、はじめてあきらかにされたのである。党の第八期中央委員会第十二回拡大総会は、劉少奇の党内外におけるあらゆる職務を解任し、かれを永遠に党から除名することを決定した。これは幾億もの大衆の偉大な勝利である。われわれの偉大な教師毛主席が、プロレタリア階級独裁のもとでひきつづき革命をおこなう学説にもとづいて、こんどのプロレタリア文化大革命をみずからおこし指導したことは、まぎれもなく、「まったく必要なものであり、きわめて時宜にかなったものであって」、マルクス・レーニン主義の理論と実践にたいする偉大な新しい貢献である。

二 プロレタリア文化大革命の過程について

こんどのプロレタリア文化大革命は、プロレタリア階級独裁の条件のもとで、われわれの偉大な指導者毛主席がみずからおこし指導している政治大革命であり、上部構造の領域における大革命である。われわれの目的は、修正主義を粉碎し、ブルジョア階級にとられていたその部分の権力をうばいかえし、文化の各領域をふくむ上部構造で全面的なプロレタリア階級独裁を実行し、社会主義の経済的土台をうちかため、強化し、わが国がひきつづき社会主義の道にそって大きなあしどりで前進するのを保証することである。

毛主席は、すでに一九六二年、党の第八期中央委員会第十回総会

で、「おおよそ国家権力をうち倒そうとすれば、まず世論をつくりださなければならず、まずイデオロギーの分野における活動をおこなわなければならぬ。革命の階級もそのとおりであるし、反革命の階級もまたそのとおりである」と指摘した。毛主席のことばは、劉少奇反革命修正主義集団の急所をついた。かれらは、あのように必死になってイデオロギーをつかみ、上部構造をつかみ、そのおさえていた各部門でプロレタリア階級にたいし狂気じみた反革命の独裁をおこない、毒草を大いにまきちらしてきたが、その目的はただひとつ、プロレタリア階級独裁をくつがえすために世論を準備することにあった。われわれは、政治の面からかれらをうち倒すには、やはりなによりもまず革命の世論でかれらの反革命の世論を粉

碎しなければならない。

毛主席は、従来からイデオロギーの闘争をひじょうに重視してきた。全国が解放されてからは、映画『武訓伝』にたいする批判、胡風反革命集団にたいする批判、『紅樓夢研究』にたいする批判など、いくどとなく批判をおこしてきた。こんどもまた、毛主席が全党を指導して劉少奇一味の巣くっていたブルジョア階級の陣地に攻撃をおこした。毛主席は、『人間の正しい思想はどこからくるのか』という有名な論文とその他の文献をかいて、劉少奇のブルジョア観念論と形而上学を批判し、劉少奇のおさえていた文学・芸術部門が「いまなお『亡者』に支配されており」、文化部が「もし改めないなら、帝王將相部、才子佳人部、あるいは外国の亡者部と改

称し、衛生部も「都市のだんな衛生部」と改称すべきであると批判した。毛主席の号令のもとに、プロレタリア階級はまさきに京劇、バレエ、交響音楽など、地主・ブルジョア階級が神聖不可侵としていたこれらの領域で革命をおこした。これは、つばぜりあいの格闘であった。劉少奇一味があらゆる手だてをつくしてこれに対抗し、破壊をおこなったにもかかわらず、プロレタリア階級は困難にみちたたたかいをへて、ついに重要な戦果をかちとった。一連の輝かしい革命的模範作品が生まれ、労働者、農民、兵士の英雄像が「舞台のうえに立ちあがった。つづいて、毛主席はまた、『海瑞の免官』などの大毒草にたいする批判をおこし、そのホコ先を直接修正主義集団の巢窟——劉少奇のおさえていた例の針一本とおさせ

ず、水一滴しみこませない「独立王国」、つまり旧北京市党委員会にむけた。

毛主席がみずから主宰して制定した一九六六年五月十六日の『通知』は、こんどのプロレタリア文化大革命のために理論、路線、方針、政策を確定し、運動全体の偉大な綱領となった。この『通知』は、劉少奇のブルジョア階級司令部がこの大革命を弾圧するためにもちだした「二月綱要」を徹底的に批判し、全党と全国人民に、闘争のホコ先を党内にもぐりこんでいるブルジョア階級の代表者にむけ、「いまわれわれの身邊にひそんでいる」「フルシチョフ式の人物」をあばきだすことにとくに注意をほううよう、よびかけている。これは、政治大革命をくりひろげるよう全国人民にむかって発

せられた偉大な動員令である。この『通知』で成立することになった中央文化革命小組は、毛主席のプロレタリア革命路線をだんこ実行した。

毛主席のプロレタリア革命路線にみちびかれて、広範な革命的大衆は戦闘に身を投じた。北京大学では、中央のよびかけにこたえた一枚の大字報をかけた。ブルジョア反動思想を批判する大字報はみるみるうちに全国をうずめつくした。つづいて、紅衛兵がつぎつぎと立ちあがり、革命的青少年は勇敢な闘将となった。劉少奇集団はあわてふためいて、あたふたとブルジョア反動路線をもちだし、青年学生 of 革命運動に残酷な弾圧をくわえた。しかし、これも滅亡にひんしたかれらにいくばくも生きながらえる時間をあたえはしな

った。毛主席は、みずから主宰して党の第八期中央委員会第十一回総会をひらいた。総会は、『中国共産党中央委員会のプロレタリア文化大革命についての決定』（すなわち『十六カ条』）というこの綱領的な文献を採択した。毛主席は、『司令部を砲撃しよう』という大字報を発表して、劉少奇のこのブルジョア階級司令部のかくれみのをひきはがした。毛主席は、紅衛兵にあてた手紙のなかで、紅衛兵の革命的行動は、「労働者、農民、革命的知識分子、革命的党派を搾取し抑圧しているすべての地主階級、ブルジョア階級、帝国主義、修正主義とかれらの手先にたいしていきどおりと糾弾を示していることを物語っており、反動派にたいする造反には道理があるということ」を物語っている。わたしは、あなたがたに熱烈な支持を

表明する」と指摘した。つづいて、毛主席は、首都の天安門で、全国からあつまつた千三百万の紅衛兵およびその他の革命的大衆に八回にわたって接見し、全国人民の革命の闘志をふるいたさせた。革命的な労働者の運動、農民の運動、および機関の革命的幹部の運動は、みるみるうちに発展していった。大字報はいよいよ多くなつて、さながら燎原の火のようにもえひろがり、いつせいに鳴りひびく砲声のようにとどろいて、「反動派にたいする造反には道理がある」というスローガンが全国にこだました。劉少奇のブルジョア階級司令部を砲撃する幾億もの大衆の戦闘は、すさまじい勢いでくりひろげられた。

いかなる反動的階級も、けっして自分からすすんで歴史の舞台を

ひきさがるようなことはありえない。革命がブルジョア階級のかすめとつていたその部分の権力にふれると、階級闘争はいちだんと鋭くなった。劉少奇が倒れたあと、劉少奇修正主義集団とその各地における代理人は、たえず手口をかえ、「すべてを疑い」「すべてを打倒する」などという、形は「左」だが実際は右のスローガンをもちだしてきて、ひきつづき大勢のものに打撃をあたえ、かれらひとにぎりのものを保護しようとしたくらんだ。かれらはまた、革命的大衆を分裂させ、一部の大衆をあやつり、あざむいて、かれら自身を保護した。そして、プロレタリア革命派がこれらの陰謀を粉碎したあとも、かれらはふたたび狂気じみたまきかえしに乗りだしてきだ。これがつまり、一九六六年の冬から一九六七年の春にかけてあ

らわれた例の逆流である。

この逆流は、毛主席をはじめとするプロレタリア階級司令部にそのホコ先をむけていた。その一般的綱領は、つぎの一点につきる。つまり、党の第八期中央委員会第十一回総会の採択した決議をくつがえし、すでに打倒されていた劉少奇をかしらとするブルジョア階級司令部のために罪状をくつがえし、すでに広範な大衆によって鼻もちならないまでに批判されていたブルジョア反動路線のために罪状をくつがえし、革命的大衆運動にたいして弾圧と報復をくわえるということである。しかし、この逆流は毛主席のきびしい批判と広範な革命的大衆の抵抗をうけ、結局は革命的大衆運動の主流が滔々と流れるのをさえぎることはできなかった。

革命運動の数回にわたる曲折と反復は広範な大衆に、国家権力の重要性、つまり劉少奇一味が悪事をはたらくことができたのは、主としてかれらが多くの単位と地方のプロレタリア階級の権力をかすめとっていったからであり、革命的大衆が抑圧をうけていたのは、主としてその権力がプロレタリア階級の手にながられていなかったからである、ということはいちだと理解させた。一部の単位は、形の上では社会主義的所有制だが、実際の指導権はひとにぎりの裏切り者、特務、資本主義の道をあゆむ実権派にのっとられていたか、もしくは依然としてもとの資本家の手ににぎられていた。とくに、資本主義の道をあゆむ実権派が「生産に力をいれる」という口実で革命をおさえつけようとした陰謀に失敗し、犯罪的な反革命経

済主義のよこしまな風を吹かしたとき、広範な大衆は、資本主義の道をあゆむ実権派を根底からうちまかすには、失った権力を奪いかえすよりほかはない、ということをいっそう理解するようになった。革命的伝統をもつ上海の労働者階級は、毛主席と毛主席をはじめとするプロレタリア階級司令部の指導と支持のもとに、身を挺して立ちあがり、広範な革命的大衆、革命的幹部と連合して、一九六七年一月、下から上へと旧上海市党委員会、旧上海市人民委員会のなかの資本主義の道をあゆむ実権派の権力を奪った。

毛主席は、上海の一月革命のあらしの経験を適時に総括し、「プロレタリア革命派は連合して、党内のひとにぎりの資本主義の道をあゆむ実権派から権力を奪取しよう！」と全国によびかけた。つづ

いて、毛主席はまた、「人民解放軍は左派の広範な大衆を支持すべきである」という指示をだした。毛主席は、ひきつづき黒竜江省など一部の省、市の経験を総括し、革命的幹部の代表、人民解放軍の代表、革命的大衆の代表が参加した、革命的三結合を实行する革命委員会をうちたてるという方針、政策を確定し、全国の奪権闘争を推進した。

プロレタリア階級とブルジョア階級とのあいだの奪権と反奪権の闘争は、食うか食われるかの闘争である。一九六七年の上海の一月革命のあらしから、一九六八年九月西藏、新疆に革命委員会が成立するまでの一年九ヵ月間に、二つの階級、二つの路線は政治的対決をくりかえし、プロレタリア思想と非プロレタリア思想ははげしい

闘争をくりひろげ、きわめて複雑な情況があらわれた。まさに毛主席が指摘しているように、「以前、われわれは全国各地に転戦したからである。こんどのプロレタリア文化大革命は、そういう戦争よりもはるかにむずかしい。」「問題は、思想上のあやまりを犯したものと敵味方の矛盾にぞくするものがまざりあって、ここしばらくは、はっきり見分けがつかないことにある。」しかし、われわれは毛主席の英明な指導にたよって、ついにこのような困難を克服した。一九六七年の夏、毛主席は、長江の南北を視察し、きわめて重要な指示をおこなって、広範な革命的大衆がしだいに敵味方の矛盾と人民内部の矛盾をはっきりと区別し、革命的大連合と革命的三結

合を一步すすんで実現するようにみちびき、小ブルジョア階級の思想をプロレタリア革命の軌道にのせていった。こうして、この闘争の過程においては、敵だけが乱れ、広範な大衆は鍛えられたのである。

大衆のなかに潜伏しているひとにぎりの裏切り者、特務、改造しても立場をあらためない地主分子・富農分子・反革命分子・悪質分子・右派分子、現行反革命分子、ブルジョア野心家、二面派は、一定の気候にならないと正体をあらわさないものである。一九六七年の夏と一九六八年の春、かれらはいま一度右の方と極「左」の方から、罪状をくつがえそうとする反動的なよこしまな風を吹かした。かれらは、ホコ先を、毛主席をはじめとするプロレタリア階級司令

部に向け、人民解放軍に向け、新生の革命委員会に向けるとともに、大衆を挑発してたがいなたたかわせ、反革命陰謀集団を組織して、プロレタリア階級にたいする反奪権をおこなおうとした。しかし、このひとにぎりの悪人は、ついにかれらの頭目劉少奇と同じようにあばき出された。これはプロレタリア文化大革命の大勝利であった。

三 闘争・批判・改革を真剣に

りっぱにやりとげることについて

こんどの上部構造の領域における大革命では、すべての革命と同様に、根本問題は国家権力の問題であり、指導権がどの階級の手

にぎられるかの問題である。全国の省、市、自治区（台湾省以外）のすべてに革命委員会が成立したことは、この革命が偉大な、決定的な勝利をおさめたことを示している。しかし、革命は終わってはいない。プロレタリア階級は、ひきつづき前進し、「闘争・批判・改革を真剣にりっぱにやりとげ」、上部構造の領域における社会主義革命を最後までやりぬく必要がある。

毛主席は、「三結合の革命委員会の樹立、大批判、階級隊列の純潔化、党の整頓、機構の簡素化・不合理な規則と制度の改革・課室要員の生産現場への下放——工場の闘争・批判・改革は大体このようなくつかの段階を経る」と指摘している。われわれは、毛主席の指示にしたがって、一つひとつの工場、一つひとつの学校、一

つひとつの人民公社、一つひとつの単位で、深くほりさげて、きめこまかく、着実に、合理的にこれらの任務を達成しなければならぬ。

革命委員会の活動はいりくんではいるが、ぜひとも根本をつかまなければならず、毛沢東思想を活学活用することを諸活動の首位におき、毛沢東思想ですべてを統帥しなければならぬ。数十年このかた、毛主席の思想はずっと全党と全国人民の革命の方向をさし示してきた。しかし、劉少奇ら反革命修正主義分子一味が毛主席の指示を封鎖したため、広範な革命の大衆は毛主席の声を直接耳にすることが困難であった。こんどの大革命のあらしによって例の大小さまざまな伏魔殿がたたきつぶされ、毛主席の思想が直接広範な革命

の大衆に伝えられるようになった。これは偉大な勝利である。毛沢東思想が七億の人口を擁する大國でこれほど広く普及するようになったことは、こんどのプロレタリア文化大革命のもっとも大きな収穫である。プロレタリア文化大革命のなかで、幾億もの人民は『毛主席語録』を肌身はなさずもち、これを真剣に学習し、真剣に運用しており、最新指示が発表されると、ただちに宣伝し、ただちに行動をおこなっている。このようなもっとも貴い作風をしつかりしたものにし、堅持していかなければならない。われわれは毛沢東思想を活学活用する大衆運動を深くくりひろげ、さまざまの型の毛沢東思想学習班をひきつづきりっぱに運営し、毛主席の一九六六年の『五・七指示』にもとづいて、われわれの全国を真に毛沢東思想の

大きな学校にきずきあげなければならない。

すべての革命的同志は、思想・政治の領域における階級闘争はけっして停止することはない、ということ冷靜に見てとらなければならぬ。われわれが権力を奪取したからといって、プロレタリア階級とブルジョア階級との闘争が消失するといふものではけっしてない。われわれはひきつづき革命的な批判の旗を高くかけ、毛沢東思想をもってブルジョア階級を批判し、修正主義を批判し、毛主席のプロレタリア革命路線にそむく右の、もしくは極「左」のさまざまなあやまった思想を批判し、ブルジョア個人主義を批判し、「多中心論つまり無中心論」を批判しなければならない。われわれはひきつづき裏切り者、敵のまわし者、労働者階級の奸賊劉少奇の

実行した一連の買弁・洋奴哲学、牛歩主義を批判してこれをうち倒し、鼻もちならないものにし、毛主席の「独立自主、自力更生」の思想を広範な幹部と大衆のなかにしっかりと確立し、われわれの事業がひきつづき毛主席のさし示した方向にそって前進するよう保証しなければならぬ。

毛主席は「革命委員会は一元化した指導を実行し、重複する行政機構をうち碎き、人員の精鋭化と行政の簡素化をおこない、革命化され、大衆と結びついた指導グループを組織しなければならぬ」と指摘している。これは、上部構造が社会主義の経済的土台によりよく奉仕するよううながす一つの根本原則である。大衆から浮きあがった重複する行政機構、大衆の革命的積極性を抑圧し束

縛する煩瑣哲学、見えつ張りや形式主義を追求する地主・ブルジョア階級の作風は、いずれも社会主義の経済的土台を破壊するものである。各級の国家権力機関とその他の組織は、いずれも毛主席の指示にもとづいて、大衆と密接に結びつかなければならず、なによりもまず、労働者階級と貧農・下層中農などの基本的大衆と密接に結びつかなければならぬ。新旧の幹部はみな、つねに官僚主義のほこりをはらいおとさなければならず、「役人風やだんな風を吹かす」悪習に染まってはならない。節約して革命をおこない、勤儉をむねとしてすべての社会主義事業を運営することを堅持し、派手ごのみや浪費に反対し、ブルジョア階級の糖衣弾による襲撃を警戒

しなければならない。幹部の集団的生産労働への参加の制度を堅持しなければならない。人民大衆の生活に関心をよせなければならぬ。毛主席の教えにもとづいて、みずから調査研究の活動をおこない、雀を一羽ないし数羽解剖して、たえず経験を総括しなければならぬ。つねに批判と自己批判をくりひろげ、毛主席の、革命の継承者についての五つの条件にもとづいて、「私心とたたかい、修正主義を批判し」、自己の世界観を真剣に改造しなければならない。

人民解放軍はプロレタリア階級独裁の強固な支柱である。毛主席は、マルクス主義の観点からみれば、国家の主要な構成部分には軍隊である、とくりかえし指摘している。毛主席がみずからつくりあげ、指導している中国人民解放軍は、労働者・農民の子弟兵であ

り、プロレタリア階級の軍隊であって、帝国主義、封建主義、官僚資本主義という三つの大きな山をくつがえす闘争のなかで、また祖国防衛、抗米援朝および帝国主義、修正主義、各国反動派の侵略粉碎の闘争のなかで、偉大な歴史的功績をたてた。プロレタリア文化大革命のなかで、大勢の指揮員・戦闘員は三支両軍（すなわち工業支援、農業支援、左派の広範な大衆への支持、軍事管制、軍事・政治訓練）にたずさわり、軍隊の代表は三結合に参加して、いずれも階級闘争の鍛練をうけ、大衆と密接に結びつき、軍隊の思想の革命化をうながし、人民のために新しい功績をたてた。これはまた、戦争への最上の備えでもある。われわれは「擁政愛民」、「擁軍愛民」のはえある伝統を发扬し、軍民の団結をつよめ、民兵の建設をつよ

め、国防の建設をつよめ、諸活動をいっそうりっぱにおこなわなければならぬ。ここ三年らい、裏切り者、特務、あくまでも悔い改めない資本主義の道をあゆむ実権派、反革命分子は、われわれのこの偉大な人民の軍隊を破壊しようとたくらんできたが、そのたくらみをとげることはできなかった。これはほかでもなく、人民が軍隊を擁護し、軍隊が人民を保護したからである。

上部構造の領域において、文化、芸術、教育、報道、医療衛生などの部門はきわめて重要な地位をしめている。第七期中央委員会第二期総会では、「誠心誠意労働者階級に依拠しなければならぬ」という路線が決定された。こんどは、毛主席の「労働者階級がすべてを指導しなければならぬ」という号令のもとに、プロレタリア

革命の主力軍である労働者階級とその強固な同盟軍である貧農・下層中農が、上部構造の闘争・批判・改革の政治舞台にのぼった。一九六八年七月二十七日から、労働者階級は意気さかんに堂々と、例の資本主義の道をあゆむ実権派が長期にわたって支配していたところにはいっていき、知識分子がかたまっているすべてのところにはいっていった。これは偉大な革命的行動である。プロレタリア階級が文化・教育の陣地をしっかりと占領し、毛沢東思想でそれらを改造することができるかどうかは、プロレタリア文化大革命を最後までやりぬくことができるかどうかの鍵となる問題である。毛主席はこの面の活動をひじょうに重視し、みずから典型をつかんで、われわれに輝かしい手本をしめした。われわれは思想・文化・教育戦線

を軽視する一部の同志のあやまった傾向をかならず克服しなければならず、毛主席にすっかりとしたがって、持続的な、骨のおれる、きめのこまかい活動をおこなわなければならない。「労働者階級も闘争のなかで自己の政治的自覚をたえず高めていくべきであり」、上部構造における闘争・批判・改革を指導する経験を含括し、この戦線でのたたかいをりっばにすすめていかなければならない。

四 プロレタリア文化大革命の政策について

上部構造の領域における革命をひきつづきおこなうには、毛主席のプロレタリア階級の諸政策を真剣に実行しなければならない。はやくも一九六六年五月十六日の『通知』と八月の『十六カ条』

のなかで、プロレタリア文化大革命の政策についての明確な規定がおこなわれた。「プロレタリア文化大革命の闘争・批判・改革の段階では、政策に真剣に注意しなければならない」ことなど、毛主席の一連の最新指示によって、諸政策はいっそう具体的なものとなった。

当面のおもな問題は実行にうつすことである。

知識分子についての政策、幹部政策、「教育によって立ちなおれる子女」(罪をおかした人やあやまりをおかした人の子女をさす——訳注)についての政策、大衆組織に対処する政策、対敵闘争の政策、経済政策などをふくむ党の諸政策の眼目は、とりもなおさず、敵味方の矛盾と人民内部の矛盾という性質の異なる二種類の矛盾を正しく処

理する問題である。

ふるい型の学校で養成された知識分子の多数あるいは大多数は、労働者、農民、兵士と結びつくことができるか、もしくはそうすることを願っている。毛主席の正しい路線のみちびきのもとで、労働者、農民、兵士がかれらに「再教育」をほどこすべきであり、りっぱに結びついているものや、積極的に農山村におもむいた紅衛兵や知識青年にたいしては、激励をあたえなければならぬ。

毛主席はわれわれに、「教育面を広くし、打撃面を小さくしなければならぬ」、また、「全人類を解放してのみ、プロレタリア階級は自己を最終的に解放することができる、というマルクスの教えを「実行し」なければならぬ、とくりかえし教えている。あやまりを

犯した人にたいしては、教育と再教育に重点をおき、しんぼう強きめのこまかい思想・政治工作をおこない、真に、「思想の面からもはっきりさせ、また同志とも団結する」という二つの目的をたつするため、前のあやまりを後のいましめとし、病をなおして人を救うという方針を「実行す」べきである。本質的にはよい人間だが、資本主義の道をあゆむというあやまりを犯したものにたいしては、われわれは、かれらが自覚を高め、大衆の諒解をえたのちに、時をうつさずかれらを解放して、適当な仕事をあたえるときに、労働者・農民大衆のなかにはいつて世界観を改造するようはげまさなければならぬ。わずかながらも進歩をとげ、いくらか自覚をみせはじめた人びとにたいしては、団結の観点から出発して、ひきつづき援助

をあたえなければならぬ。毛主席は、さいきん、「プロレタリア階級は、人類の歴史においてもっとも偉大な階級である。この階級は、思想の面でも、政治の面でも、力の面でも、もっとも強大な革命的階級であり、圧倒的多数の人びとを自己のまわりに結集して、最大限にひとにぎりの敵を孤立させ、これに打撃をあたえることができるし、またそうしなければならぬ」と指摘している。

対敵闘争のなかでは、毛主席が従来から主張している「矛盾を利用し、多数を獲得し、少数に反対し、各個に撃破する」という政策を実行しなければならぬ。「証拠をおもんじ、調査研究をおもんじるべきであって、強迫して自供させ、それを信じるようなことはかたく禁じなければならない。」毛主席のうちだした、「自白した

ものは寛大に処理し、あくまで反抗するものは嚴重に処分する」、「活路をあたえる」という政策を実行しなければならない。われわれは主として、広範な人民大衆に依拠して敵にたいする独裁を実行するのである。階級隊列の純潔化の運動のなかで調査判明した悪人、あるいはうたがわしいものには、確実な証拠のある殺人、放火、毒薬投入などをはたらいた現行反革命分子を法にてらして処分すべきほかは、すべて「一人も殺さず、大部分は逮捕しない」という政策をとるべきである。

ブルジョア階級の反動的學術權威者にたいしては、一に批判し、二に観察する、あるいは一に批判し、二に使用する、あるいは一に批判し、二に養うという政策を実行する。要するに、思想を批判し

て、活路をあたえるのである。この部分の敵味方の矛盾を人民内部の矛盾として処理することは、プロレタリア階級独裁をうちかためるのに有利であり、敵を分化、瓦解させるのに有利である。

党の諸政策を実行にうつすばあいには、所属単位的情況を具体的に研究しなければならぬ。およそ革命的大連合がまだ十分にうちかためられていないところでは、われわれは、広範な革命的大衆が革命的原則のもとに系統別、業種別、クラス別の革命的大連合を実行し、団結してともに敵にあたるよう、援助すべきである。およそ階級隊列の純潔化の仕事がまだはじまっていないか、もしくはいまはじまったばかりの単位は、党の政策にしたがって、これに力をいれ、これをりっぱにおこなうべきである。純潔化の仕事がほぼ完了

した単位では、毛主席が闘争・批判・改革の各段階についておこなった指示にもとづいて、その他の諸活動に力をいれるべきである。同時に、階級闘争の新しい動向によく注意をはらわなければならぬ。悪人がふたたびのさばりだしたらどうすればよいだろうか。毛主席のことばに、「徹底した唯物論者はなにものをもおそれない」という名言がある。階級敵がふたたびことをおこしたならば、大衆をたち上らせて、いま一度かれらを闘争にかけ、うち倒すまでである。

『十六カ条』が指摘しているように、「プロレタリア文化大革命は、わが国の社会的生産力を発展させる強大な推進力である。」わが国では、農業生産の面で連年豊作をあげており、工業生産、科学

技術の面でも、活気にみちたすばらしい局面があらわれている。広範な勤労人民の革命と生産の積極性はかつてなく高まっており、多くの工場・鉱山・企業はたえず生産記録を更新し、史上最高の生産水準をうみだし、技術革命がたえず発展している。市場は活況を呈し、物価は安定している。一九六八年の年末までに、われわれは公債を全部返済した。わが国はすでに、国内の債務もなければ国外の債務もない社会主義国となっている。

「革命に力をいれて、生産をうながす」というこの方針は、まったく正しい。この方針は、革命と生産、精神と物質、上部構造と経済的土台、生産関係と生産力の関係に正しい回答をあたえた。毛主席はつねに、「政治工作はすべての経済工作の生命線である」と

われわれに教えている。レーニンはかつて、政治の面から問題を見ることに反対する日和見主義者をきびしく糾弾して、「政治は経済にたいして優位を占めざるをえない。この点を肯定しないのは、マルクス主義のイロハを忘れたことを意味する」（『レーニン全集』中国語版、第三十二巻、第七二ページ）とのべた。レーニンはさらに、もし政治と経済を同列におくなら、これまた「マルクス主義のイロハを忘れた」（上に同じ）ものである、と指摘している。政治は経済の集中的表現である。もし上部構造で革命をやらず、広範な労働者・農民大衆をたち上がらせず、修正主義路線を批判せず、ひとにぎりの裏切り者、特務、資本主義の道をあゆむ実権派、反革命分子をあばき出さず、プロレタリア階級の指導権をうちかためないな

ら、どうして社会主義の経済的土台をいっそううちかため、社会主義の生産力をいっそう発展させることができるだろうか。これはけっして革命を生産にとってかわらせるのではなく、革命をもって生産を統帥し、生産を促進し、生産を先導しなければならないということである。われわれは、毛主席の「大いに意気こみ、つねに高い目標をめざし、多く、はやく、りっぱに、むだなく社会主義を建設する」という総路線にもとづき、また「戦争にそなえ、自然災害にそなえ、人民のために」という偉大な戦略思想、「農業を基礎とし、工業を導き手とする」などの一連の方針にもとづいて、調査研究をおこない、経済戦線における闘争・批判・改革の多くの政策問題を積極的かつ妥当に解決しなければならない。各民族の人民大衆の革

命的積極性と創意性を十分に発揮させ、革命に思いきり力をいれて、生産を大いに促進し、国民経済発展計画を達成または超過達成しなければならない。プロレタリア文化大革命の偉大な勝利は、経済戦線とわれわれの社会主義建設事業全体に新たな躍進があらわれ、そのをひきつづきうながすにちがいない、と断定することができる。

五 わが国の革命の最終的勝利について

わが国のプロレタリア文化大革命の勝利は、たしかに偉大なものである。しかし、けっして、枕をたかくして寝てもよい、と考えるはならない。毛主席は一九六八年十月のある談話のなかで、「われわれはすでに偉大な勝利をかちとった。しかし、敗北した階級は、

なおあがきをつづけるものである。これらの連中はまだ生きており、この階級はまだ存在している。だから、われわれは最終的勝利を口にしてはならない。数十年のあいだ、このことばを口にしてはならない。警戒心をなくしてはならない。レーニン主義の観点にしたがえば、ひとつの社会主義国の最終的勝利は、自国のプロレタリア階級と広範な人民大衆の努力が必要であるばかりでなく、世界革命の勝利に期すべきであり、人が人を搾取する制度が全地球から消滅されて、全人類が解放されるのに期すべきである。したがって、わが国の革命の最終的勝利をかるるしく口にするのは、まちがいであり、レーニン主義に反しており、事実にも合致していない」と指摘した。階級闘争には、なお反復があるだろう。われわれは、

絶対に階級闘争を忘れてはならず、絶対にプロレタリア階級独裁を忘れてはならない。当面、政策を実行にうつす過程には、依然として二つの路線の闘争が存在し、「左」あるいは右からの妨害が存在している。闘争・批判・改革の各段階の活動をりっぱにやりとげるには、なおおひょうに大きな力をそそがなければならない。われわれは毛主席にしっかりとしたが、広範な革命的大衆にしっかりと依拠し、前進途上の困難と曲折を克服して社会主義事業のいっそう大きな勝利をたたかいたらなければならない。

六 党の整頓と建設について

プロレタリア文化大革命の勝利は、プロレタリア階級独裁の条件

のもので、いかに党の建設をすすめるかについて、われわれに貴重な経験をあたえてくれた。毛主席が全党にたいして指摘しているように、「党組織はプロレタリア階級の先進分子によって構成されなければならず、プロレタリア階級と革命的大衆を指導して階級敵と戦うことのできる、生気はつらつとした前衛組織でなければならぬ。」毛主席の指示は、われわれの党の整頓、党の建設の政治方向を確定している。

中国共産党は、われわれの偉大な指導者毛主席につちかわれて建設された党である。一九二一年に創立されていらい、われわれの党は、武力で国家権力を奪取しプロレタリア階級独裁をうちかためる長期の闘争をへてきた。毛主席の指導のもとに、わが党は終始、革

命戦争と革命闘争の最前線にたってきた。まさに毛主席の正しい路線にみちびかれて、わが党は、国内外の敵がきわめて強大で情況がひじょうに複雑であるという環境のなかで、中国のプロレタリア階級と広範な人民大衆を指導して、**独立自主、自力更生**の方針を堅持し、プロレタリア国際主義を堅持し、先人烈士のしかばねをのりこえ、英雄的に奮闘してきたからこそ、最初数十人のメンバーしかいなかった共産主義グループから、こんにちのように、強大な中華人民共和国を指導する、偉大な、光榮ある、正しい党になるまでに発展してきたのである。人民の武装闘争からはなれては、こんにちの中国共産党はありえず、こんにちの中華人民共和国はありえないということ、われわれはふかく理解している。「血をもってあがな

われたこの経験を全党の同志はわすれてはならない」という毛主席の教えを、われわれは永遠に銘記しておかなければならない。

中国共産党のすべての成果はみな、毛主席の英明な指導のためであり、毛沢東思想の勝利である。半世紀このかた、毛主席は、中国各民族人民の新民主主義革命達成の偉大な闘争を指導するなかで、わが国の社会主義革命と社会主義建設の偉大な闘争を指導するなかで、また現代の国際共産主義運動の、帝国主義に反対し、現代修正主義に反対し、各国反動派に反対する偉大な闘争のなかで、マルクス・レーニン主義の普遍的真理を革命の具体的実践と結びつけ、政治、軍事、経済、文化、哲学などの各分野で、マルクス・レーニン主義をうけつぎ、守り、発展させて、マルクス・レーニン

主義をまったく新しい段階に高めた。毛沢東思想は、帝国主義が全面的崩壊にむかい、社会主義が全世界的勝利にむかう時代のマルクス・レーニン主義である。わが党の全歴史は、つぎの真理を立証している。毛主席の指導からはなれ、毛沢東思想からはなれたなら、われわれの党は挫折し、失敗する。毛主席にしっかりとしたが、毛沢東思想にもとづいて事をはこぶなら、われわれの党は前進し、勝利する。われわれは、この経験を永遠に銘記しておかなければならない。いかなるとき、いかなるばあいでも、毛主席に反対し、毛沢東思想に反対するものがいれば、それが誰であろうと、全党がこぞってこれを糾弾し、全国をあげてこれを討伐するのである。

毛主席は、党の整頓、党の建設について言及したさい、「人間は動脈、静脈があって、心臓をつうじて血液循環をおこない、さらに肺をつうじて呼吸をし、炭酸ガスを吐きだし、新鮮な酸素を吸いこむ、これがつまり、ふるいものを吐きだし、新しいものをとり入れることである。プロレタリア階級の党もふるいものを吐きだし、新しいものをとり入れてはじめて、生氣はつらつとしたものになる。廢物をとりのぞかず、新鮮な血液を吸収しなければ、党は生氣を失ってしまふ」とのべた。毛主席はこの生きいきとした比喩を用いて、党内矛盾の弁証法をいいあらわしたのである。「事物の矛盾の法則、すなわち対立面の統一の法則は、唯物弁証法のもっとも根本的な法則である」。党内の二つの路線の対立と闘争は、社会の階級

矛盾および新しい事物とふるい事物との矛盾が、党内に反映したものである。もし、党内に矛盾と、矛盾を解決するための闘争がなければ、また、ふるいものを吐きだし、新しいものをとり入れなければ、党の生命もとまってしまう。毛主席の党内矛盾についての理論は、こんご党を整頓し、党を建設していくうえでの根本的な指導思想である。

中国共産党の歴史は、ほかでもなく、毛主席のマルクス・レーニン主義路線と、党内の右翼と「左」翼の日和見主義路線との闘争の歴史である。毛主席の指導のもとに、わが党は、陳独秀の右翼日和見主義路線にうちかち、瞿秋白、李立三の「左」翼日和見主義路線にうちかち、王明の、始めは「左」翼、後は右翼の日和見主義路線

にうちかち、張国燾の、赤軍を分裂させる路線にうちかち、彭徳懷、高崗、饒漱石らの右翼日和見主義の反党連盟にうちかち、さらに、長期にわたる闘争をへて、劉少奇の反革命修正主義路線を粉砕した。わが党は、まさに二つの路線の闘争のなかで、わけても、党にもっとも大きな危害をあたえた陳独秀、王明、劉少奇ら三つの裏切り者集団にうちかち闘争のなかで、強固になり、発展し、強大になつてきたのである。

プロレタリア階級独裁の新しい歴史的時期において、プロレタリア階級のおこなう独裁と、そのすべての活動にたいする指導は、プロレタリア階級の前衛部隊である共産党をつうじて実現されるのである。プロレタリア階級独裁からはなれ、プロレタリア階級独裁の

もとでひきつづき革命をおこなうことからはなれては、党建設の問題、つまりどのような党を建設し、どのように党を建設するかという問題を、正しく解決することはできない。

劉少奇の修正主義の党建設路線は、ほかでもなく、マルクス・レーニン主義のプロレタリア階級独裁の学説と党建設の理論に根本からそむくものである。中国の社会主義革命がふかまり発展し、階級闘争が激烈をきわめているその重要なときに、劉少奇はまたもかれの黒い『修養』をあらためて出版した。その目的は、わが国のプロレタリア階級独裁をくつがえし、ブルジョア階級独裁を復活させることであつた。劉少奇は、われわれがさきに引証した、プロレタリア階級独裁の必要性にかんするレーニンのあの一節のことはをかき

ぬいたさい、「プロレタリア階級独裁は必要である」というこのもつとも重要な結論をふたたび故意に削除し、これによって、プロレタリア階級独裁を裏切ったかれ自身の反革命の正体をはっきりとさらけ出したのである。また、劉少奇が「階級闘争消失論」、「従順な道具論」、「大衆落後論」、「入党出世論」、「党内平和論」、「公私融合論」（つまり「少し損をしてうんと得をする」）などといった反動的な、でたらめな論調をひきつづきまきちらしたのは、ほかでもなく、われわれの党を腐蝕、瓦解させて、党員が「修養」すればするほど修正主義に走るようにし、マルクス・レーニン主義の党を修正主義の党に「平和的に転化」させ、プロレタリア階級独裁をブルジョア階級独裁に「平和的に転化」させようともくろんで

いたためである。われわれは、ひきつづき革命的大批判をくりひろげて、その悪影響を徹底的に一掃しなければならぬ。

こんどのプロレタリア文化大革命は、わが党の歴史上、もつとも広範で、もつともふかく掘りさげた整党運動である。各級の党組織、広範な共産党員は、二つの路線のはげしい闘争にたえ、大規模な階級闘争の試練にたえ、党内外の革命的大衆の審査にたえた。これによって党員と幹部は風雨にさらされ、世間を知り、階級的自覚と二つの路線の闘争についての自覚を高めた。この大革命は、われわれにつきのことを教えている。プロレタリア階級独裁のもつとで、われわれはかならず広範な党員にたいし、階級、階級闘争、二つの路線の闘争と、ひきつづき革命をおこなうことについての教育をほ

どこさなければならぬ。党内外において、修正主義に反対する闘争をすすめて、裏切り者、特務および搾取階級の利益を代表するものを党から一掃し、はげしい風波のなかで試練をうけた真のプロレタリア階級の先進分子を党に吸収しなければならぬ。各級の党組織の指導権を真にマルクス主義者の手ににぎらせるよう努めなければならぬ。われわれは、党員が真に理論と実践とをむすびつけ、大衆と密接にむすびつき、批判と自己批判を勇敢におこなうようにさせなければならぬ。われわれは、党員が永遠に謙虚で、つつしみぶかく、おごらず、あせらない作風と、刻苦奮闘の作風を保つようにさせなければならぬ。こうしてこそ、党はプロレタリア階級と革命的大衆を指導して、社会主義革命を最後までやりぬくことができるのである。

さるのである。

毛主席はわれわれに、「歴史の経験には注意をはらう必要がある。ひとつの路線、ひとつの観点については、つねに語り、くりかえし語らなければならない。少数の人に語るだけではだめで、広範な革命的大衆がみな知るようにならなければならない」と教えている。こんどのプロレタリア文化大革命の基本的経験の学習と宣伝、二つの路線の闘争史の学習と宣伝、プロレタリア階級独裁のもとでひきつづき革命をおこなうことについての毛主席の学説の学習と宣伝は、いずれも一回おこなうだけではだめで、くりかえし語り、毎年語り、毎月語り、毎日語らなければならない。こうしてこそ、あやまった路線とあやまった傾向がめばえたとき、広範な党員と人民

大衆がただちにこれを批判し、排斥するようになり、これによってわが党が終始毛主席のさし示した正しい航路にそって勝利のうちに前進するのを保証することができるのである。

党の第九回全国代表大会の重要な議事日程のひとつに、党規約の改正がある。中央はすでに党規約草案を大会の討議にかけた。この草案は、全党と全国の革命的大衆がともに参加して起草したものである。一九六七年十一月、毛主席が党の基層組織の党規約改正への参加を提起してிரらい、中央は数千にのぼる草案をうけとった。党の第八期中央委員会第十二回拡大総会はこれを基礎に党規約草案を作成したのち、全党、全軍、全国の広範な革命的大衆は、いまだ一度、熱烈で真剣な討論をおこなった。新しい党規約草案は、偉大な

指導者毛主席の英明な指導と広範な大衆との結合によってうみだされたものであって、全党、全軍、全国の広範な革命的大衆の意志を反映しており、党が一貫して堅持している民主集中制と大衆路線の生きいきとしたあらわれであるといえる。とりわけ重要なことは、党規約草案が、党の思想をみちびく理論的基礎はマルクス主義・レーニン主義・毛沢東思想であるとあらためて明確に規定したことである。これは、プロレタリア文化大革命が劉少奇の修正主義の党建設路線を粉砕しておさめた偉大な勝利であり、マルクス主義・レーニン主義・毛沢東思想の偉大な勝利である。中央は、われわれの党がかならず代表大会の討議をへて採択された新しい党規約の規定にまるとづいて、さらに偉大な、さらに光栄ある、さらに正しい党に建

設されるにちがいないと信じている。

七 わが国と外国との関係について

ここで、われわれはさらに、わが国と外国との関係の問題について重点的にのべようと思う。

世界のプロレタリア階級と被抑圧人民、被抑圧民族の革命闘争は、もともと互いに支持しあうものである。わが国のプロレタリア文化大革命にたいして、アルバニア労働党およびすべての真のマルクス・レーニン主義の兄弟党と兄弟組織、全世界の広範なプロレタリア階級と革命的な人民、多くの友好的な国々に、友好的な団体と人びとはみな、熱情をこめて称賛をおくり支持をあたえている。わた

しはここに、偉大な指導者毛主席と党の第九回全国代表大会を代表して、かれらに深い感謝の意をあらわすものである。われわれは、中国共産党と中国人民がかならず、自己のプロレタリア国際主義の義務をはたし、かれらとともに、帝国主義に反対し、現代修正主義に反対し、各国反動派に反対する偉大な闘争を最後までやりぬくことをかたく約束するものである。

当面の世界の全般的な趨勢は、依然として毛主席がのべた言葉にあるとおり、「敵は日一日と腐ってゆき、われわれは日一日とよくなっている。」一方では、全世界のプロレタリア階級と各国人民の革命運動が、すさまじい勢いでもりあがっている。ベトナム南部、ラオス、タイ、ビルマ、マラヤ、インドネシア、インド、パレスチ

ナおよびアジア、アフリカ、ラテンアメリカのその他の国ぐにと地域の人民の武装闘争は、日ましに、強大になっている。「鉄砲から国家権力が生まれる」という真理は、日一日と広範な被抑圧人民、被抑圧民族によって把握されている。日本、西欧、北米など資本主義の「心臓」部では、これまでに見られなかった大規模な革命的大衆運動がまきおこっている。ますます多くの人民がいま目ざめつつある。真のマルクス・レーニン主義の兄弟党と兄弟組織は、マルクス・レーニン主義を自国の具体的な革命の実践と結びつける過程で、一步一步発展してきている。他方では、アメリカ帝国主義とソ修社会帝国主義が、政治危機と経済危機におちいり、内外ともに苦境にたたされ、まったくゆきづまっている。かれらは、世界の再分

割を夢みており、互いに結託もすれば、互いに争奪もしている。反中国、反共、反人民、民族解放運動弾圧および侵略戦争をすすめる面では、かれらは互いに呼応しあい、ぐるになって悪事をはたらしている。原料、市場、従属国、戦略要地、勢力圏を争奪する面では、かれらは相手の腹をさぐりながら、いがみあい、排斥しあっている。かれらは、それぞれ自己の野望を実現するため、軍備拡張と戦争準備をすすめている。

レーニンは、つぎのように指摘している。帝国主義とはつまり戦争である。「生産手段の私的所有制が存在しているかぎり、このような経済的土台のうえでは帝国主義戦争は絶対避けられないものである。」(「レーニン全集」中国語版、第二十二卷、第一八二ページ)

レーニンは一歩すすんで「帝國主義戦争は社会主義革命の前夜である」(『レーニン全集』中国語版、第二十五卷、第三四九ページ)と指摘している。レーニンのこれらの科学的論断は、けっして、時代おくれのものになってはいない。

毛主席は最近つぎのように指摘している。「世界大戦の問題については、二つの可能性しかない。一つは戦争が革命をひきおこすことであり、一つは革命が戦争をおしとどめることである。」なぜなら、現代の世界には、被抑圧民族と帝國主義、社会帝國主義とのあいだの矛盾、資本主義国、修正主義国内部のプロレタリア階級とブルジョア階級とのあいだの矛盾、帝國主義国と社会帝國主義国とのあいだ、各帝國主義国のあいだの矛盾、社会主義国と帝國主義、社

会帝國主義とのあいだの矛盾という四つの大きな矛盾が存在しているからである。これらの矛盾の存在と発展は、必然的に革命をひきおこすのである。第一次、第二次の世界大戦の歴史的経験にもとづいて、つぎのように断定することができる。もし帝國主義、修正主義、各国反動派が第三次世界大戦を世界人民におしつけるなら、これらの矛盾の発展を大いにはやめ、全世界の人民が革命にたちあがるよううながし、すべての帝國主義、修正主義、各国反動派をのこらず葬りさるだけである。

毛主席は、「すべての反動派はハリコの虎である。」「われわれは戦略上ではいっさいの敵を蔑視しなければならず、戦術上ではいっさいの敵を重視しなければならない」と教えている。毛主席が

指摘したこの偉大な真理は、全世界人民の革命の闘志をふるいたたせ、われわれが帝国主義、修正主義、各国反動派にたいする闘いのなかでたえず勝利をかちとるようみちびいている。

アメリカ帝国主義のハリコ虎の本質は、とくに全世界人民によつてあばき出されている。アメリカ帝国主義というこの全世界人民のもつとも凶悪な敵は、ますます下り坂をたどっている。ニクソンは登場後、穴だらけのボロ屋台をかかえてぬけだすことのできない経済危機に直面し、全世界人民と国内の人民大衆の大きな反抗に直面し、帝国主義諸国が四分五裂におちいって、アメリカ帝国主義の指揮棒がますますきめをうしなうという難局に直面している。ニクソンは、問題を解決するいかなる方法をも持ち出せないの

で、かれの前任者と同じように、ひきつづき反革命の二つの手口をもてあそぶほかはなく、うわべでは「平和を愛する」ポーズをとる。実際には、さらに大規模な軍備拡張と戦争準備をすすめている。アメリカの軍事費の支出は、年をおって増加している。アメリカ帝国主義はいまなおわが国の領土台湾を不法に占領している。アメリカ帝国主義は、多くの国々に侵略軍を派遣し、また世界各地にいく百いく千もの軍事基地と軍事施設をもうけている。アメリカ帝国主義はあれほど多くの飛行機と大砲を製造し、あれほど多くの原水爆とミサイルを製造しているが、これらすべてはなんのためのものだろうか。それは人民を威嚇し、人民を弾圧し、人民を殺戮し、世界を制覇するために使われるものである。しかし、そのよう

にした結果、アメリカ帝国主義は、いたるところで人民に敵対する立場においこまれ、全世界の広範なプロレタリア階級と人民大衆から包囲され、痛撃をあびせられており、またそれはかならず全世界で、いつそう大規模な革命をひきおこすにちがいない。

ソ連修正主義裏切り者集団もやはりハリコの虎である。その社会帝国主義の正体はますますはつきり暴露されてきている。フルシチョフ修正主義が頭をもたげたばかりのときに、われわれの偉大な指導者毛主席はすでに、世界革命事業にもたらす現代修正主義のゆゆしい危害を見てとった。毛主席は全党を指導して、偉大なマルクス・レーニン主義者エンベル・ホッジャ同志をはじめとするアルバニア労働党および全世界の眞のマルクス・レーニン主義者とともに、

思想、理論、政治の面からソ連修正主義を中心とする現代修正主義とだんことした闘争をすすめ、全世界の人民に闘争のなかでほんものとにせもののマルクス・レーニン主義、ほんものとにせものの社会主義をみわけけることを一步一步学びとらせ、フルシチョフ修正主義を破産させた。これと同時に、毛主席はわが党を指導して、劉少奇の帝国主義、修正主義、各国反動派に投降し、各国の革命運動をおしつぶす修正主義路線をだんこ批判し、劉少奇反革命修正主義集団をたたきつぶして、わが党のプロレタリア国際主義の義務をはたした。

ブレジネフが政権の座についてから、ソ連修正主義裏切り者集団の指揮棒はますますききめを失い、内外の困難はますます深刻なも

のとなつてゐる。そのため、かれらはいっそう狂氣のように社会帝国主義、社会ファシズムをおしすすめてゐる。国内では、ソ連人民にたいする弾圧をつよめ、資本主義の全面的復活に拍車をかけてゐる。対外的には、アメリカ帝国主義との結託をつよめ、各国人民の革命闘争への弾圧に拍車をかけ、東ヨーロッパ諸国とモンゴル人民共和国にたいする支配と搾取を強化し、アメリカ帝国主義とのあいだで中東やその他の地域を争奪することに血道をあげ、わが国にたいする侵略の脅威をつよめてゐる。数十万の軍隊をくりだしてチェコスロバキアを占領したごとく、わが国の領土珍宝島に武力挑発をかけたことは、ソ連修正主義が最近二回にわたつて見せたみにくい演技にほかならない。かれらは、その侵略と掠奪を弁護するため、

(4)

「有限主権論」、「国際独裁論」、「社会主義大家庭論」なるものを鼓吹してゐる。こういつたしろものは何を意味してゐるのか。それはつまりこうである。きみの主権は「有限」であるが、かれの主権は無限である。きみが服従しないなら、かれは、きみにたいして「国際独裁」、つまり各国人民にたいする独裁を実行し、これによつて、ヒトラーの「ヨーロッパの新秩序」、日本軍国主義の「大東亜共栄圏」、アメリカの「自由世界の大家庭」と同じような、新しいツアアが支配する「社会主義大家庭」、つまり社会帝国主義の植民地をきざきあげるといふのである。レーニンは、第二インターの裏切り者どもを「口先での社会主義、実際の帝国主義であり、日・和・見・主・義・が・成・長・し・て・帝・国・主・義・に・な・つ・た・も・の・で・あ・る」(「レーニン全

集」中国語版、第二十九卷、第四五八ページ）ときびしく糾弾した。これは、こんにちのひとにぎりの資本主義の道をあゆむ実権派からなるソ連修正主義裏切り者集団にもまったくあてはまるものである。われわれは、光榮ある革命的伝統をもつソ連のプロレタリア階級と広範な人民が、かならずたち上がってこれらひとにぎりの裏切り者集団を打倒するものと、かたく信じている。まさに毛主席が、「ソ連は、最初の社会主義国であり、ソ連共産党はレーニンがつくりあげた党である。ソ連の党と国家の指導権はいま、修正主義者にとられられているとはいえ、わたしは同志たちに、ソ連の広範な人民、広範な党員と幹部はよい人びとであり、革命を求めており、修正主義の支配はそう長く続くものではないということをかたく信じても

らいたい」と指摘しているとおりである。

ソ連政府がわが国の領土珍宝島を武力で侵犯する事件を一手にくりだしたため、中ソ境界問題は全世界の注目をあつめた。中ソ境界問題は、わが国とその他のいくつかの隣国とのあいだの境界問題と同じように、歴史がのこした問題である。これらの問題については、わが党とわが国政府は、外交ルートをつうじて交渉をおこなひ、公平かつ合理的な解決をはかること、それが解決されるまでは、境界の現状を維持し、衝突をさけることを一貫して主張してきた。この主張にもとづいて、わが国はビルマ、ネパール、パキスタン、モンゴル人民共和国、アフガニスタンなどの隣国と境界問題をあい前後して円満に解決した。ソ連、インドとわが国との境界問題を

だけがいまなお解決されないままになっている。

中印境界問題については、わが国政府はインド政府と何回も交渉をおこなった。インド反動政府はイギリス帝国主義の侵略政策をうけついで、旧中国の歴代の反動政府でさえ承認しなかつた不法な「マクマホン・ライン」をわれわれに承認させようとしたばかりでなく、さらに一步すすんで、これまでずっとわが国の管轄下にある阿克賽欽地区をも侵略、占領しようとしたため、中印境界問題の交渉は破壊された。これは周知のとおりである。

中ソ境界問題は、中国にたいするツァー・ロシア帝国主義の侵略によってつくりだされたものである。十九世紀の後半、当時、中国、ロシア両国人民はいずれも権力をもたぬ状態にあつた。ツァー

政府は中国を分割するという帝国主義の侵略行動をとり、中国に一連の不平等条約をおしつけ、広大な中国の領土をもぎとり、また多くの地方で、不平等条約によってきめられた境界線を越え、一步すすんで中国の領土を侵略、占領した。こうした強盗行為は、マルクス、エンゲルスとレーニンの怒りをこめた糾弾をうけた。一九二〇年九月二十七日、偉大なレーニンの指導するソビエト政府は、「これまでロシアの歴代政府が中国と締結したすべての条約を全部無効にし、これまで中国から奪いとつたすべての領土と中国領内のすべてのロシア租界を放棄し、ツァー政府とロシア・ブルジョア階級が横暴にも中国から奪いとつたすべてのものを無償で永久に中国に返還する。」（「ロシア・ソビエト連邦社会主義共和国政府の中国政府

にたいする宣言」を参照）とおごそかに宣言した。当時の歴史的條件によつて、レーニンのこのプロレタリア階級の政策は実現されなかつた。

わが国政府は、境界問題にかんする一貫した立場にもとづいて、はやくも一九六〇年の八月二十二日と九月二十一日の二回にわたつて、ソ連政府に中ソ境界問題を解決するための交渉をおこなうことをすすんで提案した。一九六四年、中ソ双方は北京で交渉を始めた。現在の中ソ境界にかんする条約はツァーが中国人民におしつけた不平等条約であるにもかかわらず、われわれは中ソ両国人民の革命的友情をまもる願ひから、やはりこれらの条約を基礎に、境界問題を解決することを主張した。しかしソ連修正主義裏切り者集団

は、レーニンのプロレタリア階級の政策にそむき、新しいツァーの社会帝国主義の立場を固持し、これらの条約が不平等なものであるということをあくまで認めようとせず、さらに、かれらが条約に違反して侵略、占領した、または侵略、占領しようとしたくらんでいる中国の領土はみなソ連に属しているということを、かたくなにわが国に認めさせようとした。ソ連政府のこのような大国排外主義と社会帝国主義の立場によつて、交渉は破壊された。

ブレジネフが登場して以来、ソ連修正主義裏切り者集団は前よりもいっそうひどく境界の現状を破壊し、再三にわたつて境界事件をひきおこし、身に寸鉄をおびないわが国の漁民や農民を射殺し、わが国の主権を侵犯している。最近では、なおさらのこと、かれら

はわが国の領土珍宝島にたいしつづけざまに武力侵犯をおこなっている。わが辺境守備部隊は、これ以上がまんができません、自衛のための反撃をおこない、侵略者に当然うけるべき打撃をあたえ、勝利のうちにはわが国の神聖な領土を守りぬいた。コスイギンはかれらの狼狽した状態からのがれるため、三月二十一日、わが国の指導幹部と電話で話したいと申しでてきた。三月二十二日、わが国政府はただちに覚書でかれらに回答し、「当面の中ソ兩國の関係からいって、通話方式で連絡をとることは、すでに適当でなくなっている。もしソ連政府が何かいいたいことがあれば、外交ルートをつうじて正式に中国政府に提出してほしい」と言明した。三月二十九日、ソ連政府は声明を発表して、一方では依然としてその頑迷な侵略者の立場

を固持するとともに、他方では「協議」を再開したいと表明した。これにたいして、わが国政府はその回答を考慮中である。

わが党と政府の対外政策は一貫している。それは、プロレタリア国際主義の原則のもとに、社会主義諸国との友好相互援助協力関係を発展させること、すべての被抑圧人民と被抑圧民族の革命闘争を支援すること、領土保全と主権の相互尊重、相互不可侵、相互内政不干渉、平等互恵、平和共存という五原則の基礎のうえに、社会制度の異なる国々にとの平和共存をかちとり、帝国主義の侵略政策と戦争政策に反対することである。われわれのプロレタリア階級の対外政策は、一時的、便宜的なものではなく、長期にわたってあくまでも実行する政策である。われわれはこれまでもこのように実行し

てきたし、今後もおこのように実行しつづけるものである。

われわれはこれまでずっと、各国の内部の事がらは各国の人民が自分自身で解決することを主張してきている。大国、小国をとわず、大きな党、小さな党をとわず、すべて平等と相互内政不干渉の原則のうえに相互関係をうち立てなければならぬ。中国共産党はこれらのマルクス・レーニン主義の原則を守るため、ソ連修正主義裏切り者集団のみにくい大国排外主義と長期にわたってたたかってきた。これは周知の事実である。ソ連修正主義裏切り者集団は口をひらけば「兄弟党」、「兄弟国」といいながら、実際には自分をおやじ党とみなし、勝手気ままに他国の領土を侵略、占領してもよい新しいツァーとみなしている。かれらは中国共産党、アルバニア労

働党などの真のマルクス・レーニン主義政党にたいして、破壊、転覆活動をおこなっているばかりでなく、およそ少しでも異なった意見をもつ党にたいしては、また、かれらのいわゆる「社会主義大家庭」のなかの、およそ少しでも異なった意見をもつ国ぐににたいしては、凶悪な形相をみせて、弾圧、破壊、転覆活動をすすめ、さらには軍隊をくりだしてかれらのいわゆる「兄弟国」を侵略、占領し、かれらのいわゆる「兄弟党」の成員を拉致することまでし、悪事のかぎりをはたらいている。かれらのこうしたファシズムの強盗行為は、かれらの覆滅の末路を運命づけている。

アメリカ帝国主義とソ連修正主義は、つねに中国を「孤立」させようと考えているが、これは中国にとって光栄なことである。かれ

らの狂気じみた反中国は、われわれを少しも損うことはできず、逆にわが国人民の、独立自主、自力更生、発奮して富強をはかるといふ意志をかきたて、また全世界にむかつて、中国がアメリカ帝國主義、ソ連修正主義とはつきり一線を画していることを立証している。こんにち世界の運命を決定するものは、帝國主義、修正主義、各国反動派ではなくて、プロレタリア階級と各国の革命的人民である。プロレタリア階級の先進分子によつて構成される各国の眞のマルクス・レーニン主義の政党と組織は、新生の勢力であつて、はたしなく広大な前途をもっている。中国共産党はだんことしてかれらと一つに団結し、ともにたたかうものである。われわれは、アルバニア人民の帝國主義に反対し修正主義に反対する闘争をだんこ支

持し、ベトナム人民が抗米救国の戦争を最後までおしすすめるのをだんこ支持し、ラオス、タイ、ビルマ、マラヤ、インドネシア、インド、パレスチナおよびアジア、アフリカ、ラテンアメリカのその他の国ぐにと地域の人民の革命闘争をだんこ支持し、アメリカ支配集団に反対するアメリカのプロレタリア階級、青年学生、黒人大衆の正義の闘争をだんこ支持し、ソ連修正主義裏切り者集団をくつがえすソ連のプロレタリア階級と勤労人民の正義の闘争をだんこ支持し、ソ修社会帝國主義に反対するチェコスロバキアとその他の国ぐにの人民の正義の闘争をだんこ支持し、日本、西欧、大洋州の諸国人民の革命闘争をだんこ支持し、世界各国人民の革命闘争をだんこ支持し、アメリカ帝國主義とソ連修正主義の侵略と抑圧に反抗する

すべての正義の闘争をだんこ支持するものである。アメリカ帝国主義、ソ連修正主義の侵略、支配、干渉、侮辱をうけているすべての国ぐにと人民は団結して、もっとも広範な統一戦線を結成し、われわれの共同の敵を打倒しよう！

われわれは、勝利したからといって決して自己の革命的警戒心をゆるめてはならず、アメリカ帝国主義、ソ連修正主義が大規模な侵略戦争をひきおこす危険性をけつして軽視してはならない。われわれは、十分な準備をととのえておかなければならず、かれらが大規模な戦争をしかけてくるのにそなえ、また、早いうちに戦争をしかけてくるのにそなえておかなければならない。かれらが通常兵器による戦争をしかけてくるのにそなえるとともに、かれらが核兵器

による大規模な戦争をしかけてくるのにもそなえておかなければならない。要するに、われわれにはそなえがなければならぬ。毛主席はやくから、相手が侵してこなければこちらも侵さない、相手が侵してくればこちらもかならず侵す、とのべている。かれらがあくまで戦争をしかけてくるなら、われわれは最後までつきあう。中国革命の勝利は、戦ってかちとられたものである。毛沢東思想で武装し、プロレタリア文化大革命によってきたえられた幾億もの中国人民と中国人民解放軍は、自分たちの神聖な領土台湾をかならず解放し、あえて侵犯してくるすべての侵略者をかならず断固として、徹底的に、きれいに、のこらず消滅するという決意をすでに固めており、その勝利の確信にみちている！

われわれの偉大な指導者毛主席は、「ソ連修正主義とアメリカ帝国主義はぐるになって、これほど多くの悪事をはたらき、恥ずべきことをやってきたが、全世界の革命的人民は、かれらをゆるすはずがない。世界各国の人民はいま、立ちあがりつつある。アメリカ帝国主義とソ連修正主義に反対する新しい歴史的時期がすでに始まっている」と指摘している。戦争が革命をひきおこすにせよ、革命が戦争をおしとどめるにせよ、アメリカ帝国主義、ソ連修正主義の寿命はそう長くはない！万国のプロレタリア団結せよ！全世界のプロレタリア階級と被抑圧人民、被抑圧民族は団結せよ！アメリカ帝国主義、ソ連修正主義とかれらの手先を葬りさろう！

八 全党、全国人民は団結して いっそう大きな勝利をかちとろう

党の第九回全国代表大会は、わが党が歴史的に発展する重要なときに、わが国のプロレタリア階級独裁がうちかためられ、発展する重要なときに、世界共産主義運動と世界革命が発展する重要なときにひらかれた。われわれの大会の代表のなかには、一代先輩のプロレタリア革命家もいれば、大量の新鮮な血液もふくまれている。産業労働者の党員代表、貧農・下層中農の党員代表、婦人の代表の数が多きことは、わが党のこれまでのどの代表大会にもみられなかったことである。人民解放軍の党員代表のなかには、赤軍時代からの

古い戦士もいれば、新しい戦士もいる。紅衛兵のなかの党員代表はじめて党の全国代表大会に参加した。これほど多くの代表が全国の津々浦々から北京にやってきて、偉大な指導者毛主席の身中に集まり、党と国家の大事をとりに相談し、決定するということは、われわれの代表大会が生気はつらつとした大会であり、団結の大会であり、勝利の大会であることを示している。

毛主席はわれわれに、「国家の統一、人民の団結、国内諸民族の団結、これは、われわれの事業がかならず勝利するための基本的な保証である」と教えている。プロレタリア文化大革命をへて、毛沢東思想の偉大な赤旗のもとに、われわれの祖国はかつて見られなかったほど統一し、わが国の人民はきわめて広範な革命的大団結を

実現した。この大団結は、プロレタリア階級が指導する、労農同盟を基礎としたものであって、それには、兄弟の各民族がふくまれ、長期にわたって、祖国の革命と建設の事業のために有益なことをした愛国的民主人士がふくまれ、広範な海外の愛国的華僑の同胞と香港・澳門の愛国的同胞がふくまれ、アメリカ・蒋介石反動派の抑圧と搾取のもとにおかれている台湾の愛国的同胞がふくまれ、社会主義を擁護し、社会主義祖国を熱愛するすべての人びとがふくまれてくる。今回の党の全国代表大会のあと、われわれ全国各民族の人民は、偉大な指導者毛主席の指導のもとに、いちだんとかたく団結し、われわれの共通の敵に反対する闘争のなかで、強大な社会主義祖国を建設する事業のなかで、いつそう大きな勝利をかちとるにち

がないと、われわれは信じている。

毛主席は一九六二年に、「いまから五十年前後ないし百年前後は、世界で社会制度が徹底的に変化する偉大な時代であり、天地もくつがえるような時代であって、過去のいかなる歴史の時代もくらべものにはならない。このような時代にあつて、われわれは過去の時代の闘争形態とは異なる多くの特徴をもつ偉大な闘争をおこなう用意がなければならない」とのべた。毛主席のこの、高い見地にたつて遠くまで見とおす壮大な展望は、われわれの今後の前進の道を照らし、すべての真のマルクス・レーニン主義者が共産主義の偉大な理想を実現するため勇敢に奮闘するようはげましている。

全党は団結し、全国人民は団結して、毛沢東思想の偉大な赤旗を

高くかかげ、決意をかため、犠牲をおそれず、万難を排して、勝利をたたかいたろう！

プロレタリア文化大革命の偉大な勝利万歳！

プロレタリア階級独裁万歳！

党の第九回全国代表大会万歳！

偉大な、光栄ある、正しい中国共産党万歳！

偉大なマルクス主義・レーニン主義・毛沢東思想万歳！

われわれの偉大な指導者毛主席万歳！ 万歳！ 万万歳！

通 知

中国共産党中央委員会

(一九六六年五月十六日)

各中央局、各省・市・自治区党委員会、中央各部党委員会、国家機関各部門および各人民団体の党組、党委員会、人民解放軍總政治部

中央は、一九六六年二月十二日に批准・通達した『当面の學術討論に関する文化革命五人小組の報告綱要』を取り消すこと、もとの

「文化革命五人小組」とその事務機構を廃止し、あらためて文化革命小組をもうけ、これを政治局常務委員会のもとにおくことを決定した。いわゆる「五人小組」の報告綱要は根本的に誤ったものであり、中央と毛沢東同志のうち出した社会主義文化革命の路線に反するものであり、一九六二年の党の第八期中央委員会第十回総会の、社会主義社会における階級と階級闘争の問題についての指導方針に反するものである。この綱要は、毛沢東同志がみずから指導しおこしたこの文化大革命にたいし、また一九六五年九月から十月にかけておこなわれた中央工作会議（つまり各中央局の責任ある同志が参加した中央政治局常務委員会議）で毛沢東同志がおこなった呉晗批判についての指示にたいして、面従腹背の態度をとり、極力反抗し

ている。

いわゆる「五人小組」の報告綱要は、実際には、彭真ひとりの報告綱要であり、彭真が「五人小組」の成員である康生同志やその他の同志にかくれ、かれ自身の見解にもとづいてつくりあげたものである。社会主義革命の全局という重大問題にかかわるこのような文書にたいし、彭真は「五人小組」のなかで全然討論も相談もしておらず、地方のどの党委員会からも意見をもとめておらず、中央の正式文書として、中央の審査をうけるとは説明しておらず、中央委員会主席毛沢東同志の同意はなおさら得ていないのである。かれはきわめて不当な手段をとり、独断専行し、職権を濫用し、中央の名をかたって、そそくさとこれを全党に通達したのである。

この綱要の主要な誤りはつぎのとおりである。

(一) この綱要はブルジョア階級の立場に立ち、ブルジョア世界観をもって当面の学術批判の情勢と性格を考察しており、敵味方の関係を根本的に転倒させている。わが国はいま偉大なプロレタリア文化革命の高まりを迎えている。この高まりは、ブルジョア階級と封建的残余勢力がいまだに温存しているすべての腐敗した思想の陣地と文化の陣地に力づよい衝撃をあたえている。この綱要は、全党が広はんな労働兵大衆とプロレタリア階級の文化戦士を思いきって立ちあがらせて、ひきつづき敵陣にむかって突進させるよう鼓舞するものではなくて、なんとかしてこの運動を右旋回させようとするものである。この綱要は、混乱した、自己矛盾の、偽善的な字句を

用いて、当面の文化・思想戦線における先鋭な階級闘争をあいまいにしており、とくにこの大闘争の目的が、呉晗およびその他大勢の反党・反社会主義のブルジョア階級の代表人物（中央と中央の各機関、各省・市・自治区には、みなこのような一群のブルジョア階級の代表人物がいる）にたいする批判にあることをあいまいにしている。この綱要は、呉晗の『海瑞の免官』の核心が免官問題にあると毛主席が再三指摘した点にふれず、この闘争の重大な政治的性格をおおいかくしている。

(二) この綱要は、すべての階級闘争は政治闘争であるというマルクス主義の基本的論点にそむいている。新聞・雑誌が呉晗の『海瑞の免官』の政治問題にふれはじめたばかりのとき、綱要の作者た

ちは、あろうことか、「新聞・雑誌上での討論は政治問題に局限せず、各種の学術理論にふれる問題についても、十分に討論を展開しなければならぬ」といった。かれらはまたいろいろな場合に、呉晗にたいする批判では、核心の問題について語ることを許さず、一九五九年の廬山会議における右翼日和見主義分子の免官問題にふれることを許さず、呉晗らの反党・反社会主義の問題についてのべることを許さない、と公言した。毛沢東同志はつねに、イデオロギーの面におけるブルジョア階級との闘争は、長期にわたる階級闘争であって、そそくさと政治的結論をくだせばそれで解決できるというようなものではない、とわれわれに教えている。彭真は意識的にデマをとばし、呉晗にたいする批判は二ヵ月後に政治的結論をくだ

すことができる。と主席は考えている、と多くの人にいつていた。また、二ヵ月後にあらためて政治問題について語ろうともいつていた。かれのねらいは、文化領域の政治闘争を、ブルジョア階級がつねに宣伝しているいわゆる「純学術」討論のワク内にひきいれることにあつた。これがプロレタリア階級の政治を前面におし出すことに反対して、ブルジョア階級の政治を前面におし出すものであることは、きわめて明白である。

(三) 綱要は、いわゆる「放」をとくに強調しているが、問題の本質をすりかえるという手口をつかつて、一九五七年三月毛沢東同志が党の全国宣伝工作会議でのべた放の方針を根底からねじまげ、放の階級的内容をまっ殺している。毛沢東同志はちょうどこの問題

にふれたとき、「われわれは、ブルジョア階級、小ブルジョア階級の思想にたいして、なお長期にわたる闘争をすすめなければならぬ。こうした状況を理解しないで、思想闘争を放棄するならば、それはあやまりである。およそ誤った思想であり、およそ毒草であり、およそ妖怪変化であるかぎり、すべて批判しなければならず、それらが思うままにはびこるのを絶対にゆるしてはならない」と指摘している。毛沢東同志はまた、「放というのはこうである。つまり、人びとが大胆にものをいい、大胆に批判し、大胆に論争するようになり、思いきってみんなに意見をのべさせることである」とのべている。ところが、この綱要は、「放」をプロレタリア階級がブルジョア階級の反動的立場を暴露することと対立させている。この綱要の

いわゆる「放」とは、ブルジョアの自由化であって、ブルジョア階級にだけ放を許し、プロレタリア階級には放を許さず、プロレタリア階級がブルジョア階級に反撃をくわえることを許さないことであり、呉晗のたぐいの反動的なブルジョア階級の代表人物をひ護することである。この綱要のいわゆる「放」は、毛沢東思想に反するものであり、ブルジョア階級の必要にこたえたものである。

(四) われわれがブルジョア階級の気違いじみた進攻に反撃の火ぶたを切ると、綱要の作者たちは、「真理のまえには誰も平等だ」などといい出した。このスローガンはブルジョア階級のスローガンである。かれらはこのスローガンによってブルジョア階級を保護し、プロレタリア階級に反対し、マルクス・レーニン主義に反対

し、毛沢東思想に反対し、真理の階級性を根底から否定している。プロレタリア階級とブルジョア階級との闘争、マルクス主義の真理とブルジョア階級およびその他すべての搾取階級の謬論との闘争は、東風が西風を圧倒するのでなければ、西風が東風を圧倒するのであって、平等などまったく問題にならないのである。プロレタリア階級がブルジョア階級と闘争すること、プロレタリア階級がブルジョア階級にたいして独裁をおこなうこと、プロレタリア階級が文化の各領域をふくむ上部構造で独裁をおこなうこと、プロレタリア階級が、共産党内にもぐりこみ赤旗をかかげて赤旗に反対するブルジョア階級の代表人物をひきつづき一掃することなど、こうした基本的な問題で、平等などというものが許されるだろうか。数十年ら

いのふるい社会民主主義政党、十数年らしい現代修正主義は、ブルジョア階級との平等などというものをプロレタリア階級に許したためしかなかった。かれらは、数千年にわたる人類の歴史が階級闘争の歴史であったことを根本から否定し、プロレタリア階級のブルジョア階級にたいする階級闘争を根本から否定し、プロレタリア階級のブルジョア階級にたいする革命とブルジョア階級にたいする独裁を根本から否定している。それとは反対に、かれらはブルジョア階級や帝国主義の忠実な手先であり、ブルジョア階級や帝国主義といっしょになって、プロレタリア階級を抑圧、搾取するブルジョア階級の思想体系と資本主義の社会制度を固執し、マルクス・レーニン主義の思想体系と社会主義の社会制度に反対している。かれらは反

共、反人民の一群の反革命分子であり、かれらとわれわれとの闘争は食うか食われるかの闘争であって、平等などまったく問題にならない。したがって、われわれのかれらにたいする闘争も食うか食われるかの闘争でしかありえないし、われわれのかれらにたいする関係はけっして平等などという関係ではなくて、一つの階級がもう一つの階級を抑圧する関係、つまりプロレタリア階級がブルジョア階級にたいして専制あるいは独裁をおこなう関係であり、これとは違つたなんらかの関係、たとえば、いわゆる平等の関係、被搾取階級と搾取階級との平和共存の関係、仁義道德の関係などというものはありえない。

(五) 綱要は、「政治の面で相手を圧倒するばかりでなく、学術

と業務の水準の面でも、真に大いに相手をしのぎ、圧倒しなければならぬ」とのべている。学術にたいして階級的境界線をひかないこのような思想もひじょうに誤つたものである。プロレタリア階級が学術の面で把握している真理、マルクス・レーニン主義の真理、毛沢東思想の真理は、はやくからブルジョア階級を大いにしのぎ、圧倒している。綱要の提起のしかたは、作者がブルジョア階級のいわゆる「学術権威者」をほめちぎり、もちあげ、学術界におけるプロレタリア階級を代表するわれわれの戦闘的な新生の力を敵視し、おさえつけようとしていることを示している。

(六) 毛主席はつねにいっている。うち破らなければうち立てられない。うち破るとは、批判することであり、革命をおこなうこと

である。うち破るには、道理を説かなければならず、道理を説くことがうち立てることである。うち破ることを第一とすれば、うち立てることもおのずからそのなかにある、と。マルクス・レーニン主義、毛沢東思想は、ほかでもなく、ブルジョア階級の思想体系をうち破る闘争のなかでうち立てられ、たえず発展してきたのである。ところが、この綱要は「うち立てることがなければ、真に徹底的にうち破ることはできない」と強調している。これは、事実上、ブルジョア思想にたいしてはうち破ることを許さず、プロレタリア思想にたいしてはうち立てることを許さないということであり、毛主席の思想とは真向から対立するのであり、われわれが文化戦線ですすめているブルジョア階級のイデオロギーを大いにうち破る革命闘争

に逆行するものであり、プロレタリア階級に革命を許さないということである。

(七) 綱要は、「学閥のように独断と威圧にたよってはならない」とのべ、さらに、「左派の学術工作者がブルジョア専門家、学閥の道にふみこまないように警戒しなければならない」とのべている。いったい、なにが「学閥」なのか。だれが「学閥」なのか。プロレタリア階級は独裁を實行すべきでなく、ブルジョア階級を圧倒すべきでないともいうのだろうか。プロレタリア階級の学術はブルジョア階級の学術を圧倒し、消滅すべきでないものだろうか。プロレタリア階級の学術はブルジョア階級の学術がブルジョア階級の学術を圧倒し、消滅することがつまり「学閥」だともいうのだろうか。綱要が反

対のほこ先をむけているのはプロレタリア左派である。綱要がマルクス・レーニン主義者に「学閥」というレッテルをはりつけて、逆に真のブルジョア学閥を支持し、崩壊にひんしているかれらの学術界における独占的地位を維持しようとしていることはあきらかである。その実、ブルジョア学閥を支持している党内の例の資本主義の道をあゆむ実権派、党内にもぐりこんでブルジョア学閥をひ護している例のブルジョア階級の代表人物こそ、本も読まず、新聞も見ず、大衆にも接触せず、なんの学問もなく、もっぱら「独断と威圧」にたよって、党の名をかたる大党閥なのである。

(八) 綱要の作者たちは下心をもって、わざと水をにこらせ、階級の戦線を混乱させ、闘争の目標をそらせ、「確固とした左派」に

たいして「整風」をおこなうよう要求している。かれらがこのようにあわてふためいてこの綱要をもち出した主なねらいは、ほかでもなく、プロレタリア左派をつるしあげることにあつた。かれらはもっぱら、左派についての資料をあつめ、さまざまな口実をもうけては左派に打撃をあたえてきたが、さらに「整風」の名目で左派にいつその打撃をあたえて、左派の隊列をきりくずそうとはかつた。かれらは毛主席が明確に提起した、左派を保護し、左派を支持しなければならず、左派の隊列をつくりあげ、拡大するよう強調した方針に公然とさからつた。また、他方において、かれらは党内にまぎれこんだブルジョア階級の代表人物、修正主義者、裏切り者を「確固とした左派」にしたであげて、それをひ護した。かれらは

このような手口で、ブルジョア右派の志気を助長し、プロレタリア左派の威風を落とそうとした。かれらは、プロレタリア階級にたいしては憎悪にあふれ、ブルジョア階級にたいしては愛情にみちている。これこそ綱要の作者たちのブルジョア的博愛観なのである。

(九) プロレタリア階級が思想戦線でブルジョア階級の代表人物にたいして新たな、激しい闘争をはじめたばかりのところ、しかも多くの分野、多くの地方ではまだ闘争に参加しはじめていないか、あるいは、すでに闘争の火ふたは切ったが、圧倒的多数の党委員会がこの偉大な闘争の指導について、きわめて理解に欠けており、きわめて真剣さに欠けており、きわめて能力に欠けているとき、綱要は

かえって、闘争のなかではいわゆる「上級の指導」がなければならぬとか、「細心で」なければならぬとか、「慎重で」なければならぬとか、「関係指導機関の承認をうけ」なければならぬとかと、くりかえし強調している。これらはすべてプロレタリア左派に多くのワクをはめ、多くのご法度はつとや禁制をもうけ、プロレタリア左派の手足をしばりつけ、プロレタリア文化革命に幾重もの障害をもうけようとするものである。ひと言でいえば、大急ぎでブレーキをかけて、反攻・報復に出ようとするものである。綱要の作者たちは、ブルジョア階級の反動的「権威者」に反撃をくわえたプロレタリア左派の文章にたいし、既発表のものは、それを極端に憎み、未発表のものは、それをおさえた。かれらは、あらゆる妖怪変化にた

いしては思うぞんぶんおもてにとびださせて、なが年らいわれわれの新聞、放送、刊行物、書籍、教科書、講演、文学・芸術作品、映画、演劇、演芸、美術、音楽、舞踊などにはびこらせてきたが、一度もプロレタリア階級の指導を受けることを提唱したためしはなく、承認を求めたためしもなかった。このように対比してみると、綱要の作者たちはいったいどのような立場に立っているかがわかるのである。

(十) 当面の闘争は、毛沢東同志の文化革命の路線を實行するかそれともそれにさからうかという問題である。ところが、綱要は、「われわれは、こんどの闘争をつうじて、また毛沢東思想にみちびかれて、この問題（「學術の分野におけるブルジョア思想を徹底的

にとりのぞく」ことを指す）を解決する道をきりひらかなければならない」などのべている。毛沢東同志の『新民主主義論』、『延安の文学・芸術座談会における講話』、『「追いつめられて梁山にのぼる」をみてのち、延安京劇院にあてた手紙』、『人民内部の矛盾を正しく処理する問題について』、『中国共産党全国宣伝工作会議における講話』などの著作は、はやくから文化・思想戦線において、われわれプロレタリア階級のために道をきりひらいてくれている。ところが、綱要によれば、毛沢東思想はまだわれわれのために道をきりひらいてくれているおらず、あらためて道をきりひらかなければならないというのである。綱要は、「毛沢東思想にみちびかれて」という旗じるしを看板にして、毛沢東思想にあい反する道、す

なわち現代修正主義の道、いいかえればブルジョア階級復活の道をきりひらこうとしているのである。

要するに、この綱要は社会主義革命を最後までやりぬくことに反対し、毛沢東同志をはじめとする党中央の文化革命の路線に反対し、プロレタリア左派に打撃をあたえ、ブルジョア右派をひ護し、ブルジョア階級復活のために世論の準備をおこなうものである。この綱要は党内におけるブルジョア思想の反映であり、徹底した修正主義である。この修正主義路線と闘争することは、けっして小さな事がらではなく、われわれの党と国家の命運にかかり、われわれの党と国家の前途にかかり、われわれの党と国家の将来の姿にかかり、また世界革命にもかかわるもつとも重大な事がらである。

各級党委員会は『当面の学術討論に関する文化革命五人小組の報告綱要』の実行を即時停止しなければならぬ。全党はかならず毛沢東同志の指示にもとづいて、プロレタリア文化革命の大旗を高くかかげ、例の反党、反社会主義のいわゆる「学術権威者」どものブルジョア反動的立場を徹底的に暴露し、学術界、教育界、報道界、文学・芸術界、出版界のブルジョア反動思想を徹底的に批判し、これらの文化領域における指導権を奪取しなければならぬ。このことをなすとげるには、同時に党内、政府内、軍隊内および文化領域の各界にまぎれこんだブルジョア階級の代表人物を批判し、これらのものを一掃しなければならず、一部のものにたいしてはその職務の異動をおこなわなければならない。とりわけ、これらのもの

のを信頼して、文化革命の指導工作にあたらせてはならない。ところが、過去においても、現在においても、ひじょうに多くのものがこのような工作にあたっているのはたしかであり、これはひじょうに危険なことである。

党内、政府内、軍隊内および文化界各方面にまぎれこんだブルジョア階級の代表人物は、一群の反革命修正主義分子であって、いったん機が熟せば、権力を奪いとって、プロレタリア階級独裁をブルジョア階級独裁に変えようとする。これらの人物のうち、あるものはすでにわれわれによって見破られたが、あるものはまだ見破られておらず、あるものは現にわれわれから信頼され、われわれの継承者として養成されている。たとえば、いまわれわれの身邊にひそん

でいるフルシチョフのような人物がそれである。各級の党委員会はこの点に十分注意をはらわなければならない。

この通知は、中央がことしの二月十二日に出した誤った文書とあわせて、県委員会、文化機関の党委員会および軍隊の連隊級党委員会にまで送付し、いったいどちらの文書が誤りなのか、どちらの文書が正しいなのか、かれら自身の認識はどうか、どのような成績があるのか、どのような誤りがあるのかについて討論をくりひろげてほしい。

中国共産党中央委員会の
プロレタリア文化大革命
についての決定

(一九六六年八月八日採択)

一、社会主義革命の新段階

いまくりひろげられているプロレタリア文化大革命は、人びとの魂にふれる大革命であり、わが国社会主義革命発展のより深く、より広い新段階である。

毛沢東同志は、党の第八期中央委員会第十回総会で、およそ国家権力をくつがえすには、まず世論をつくり出すのがつねであり、まずイデオロギーの分野における活動をおこなうのがつねである。革命の階級もそうであり、反革命の階級もそうである、とのべた。実践が立証しているように、毛沢東同志のこの論断はまったく正しいものである。

ブルジョア階級はすでにくつがえされたとはいえ、かれらは搾取階級の旧思想、旧文化、旧風俗、旧習慣によって大衆をむしばみ、人びとの心を征服し、なんとかしてかれらの復活の目的をとげようとする。プロレタリア階級はその正反対であって、かならずイデオロギーの分野におけるブルジョア階級のすべての挑戦に真向から痛

撃をくわえ、プロレタリア階級自身の新思想、新文化、新風俗、新習慣によって社会全体の精神的様相をあらためなければならぬ。当面のわれわれの目的は、資本主義の道をあゆむ実権派を闘争によってたたきつぶし、ブルジョア階級の反動的学術「権威者」を批判し、ブルジョア階級とすべての搾取階級のイデオロギーを批判し、教育を改革し、文学・芸術を改革し、社会主義の経済的土台に適応しないすべての上部構造を改革して、社会主義制度の強化と発展に役だつようにすることである。

二、主流と曲折

「広はんな労働者・農民・兵士、革命的知識分子、革命的幹部は、

この文化大革命の主力部隊である。もとは名も知られなかつた多くの革命的青少年が、勇敢な闘將となつてゐる。かれらは、氣迫があり、知恵がある。かれらは大字報や大弁論の形で、大いに見解をのべ、思うぞんぶん意見を發表し、大いに摘発し、大いに批判し、おもてだった、あるいはかくれたブルジョア階級の代表人物に断固として攻撃をくわえてゐる。このように大きな革命運動のなかでは、かれらにもあれこれの欠点はまぬかれたいが、かれらの革命の大方向は一貫して正しいものである。これがプロレタリア文化大革命の主流である。プロレタリア文化大革命は、いま、この大方向にそつてひきつづき前進してゐる。

文化大革命が革命である以上、阻害する力にあうのは避けられな

い。このような阻害する力は、主として党内にまぎれこんだ、資本主義の道をあゆむ実権派から来るが、また古い社会の習慣の力からも来る。このような阻害する力は、いまのところまだかなり大きく、がん強である。しかし、プロレタリア文化大革命は、とどのつまり、大勢のおもむくところであつて、はばむことができない。多くの事実が物語つてゐるように、大衆を十分に立ちあがらせさえすれば、このような阻害する力は急速におしつぶされるのである。

阻害する力が比較的大きいため、闘争は反復するし、何回も反復する可能性さえある。このような反復は、なんの害もない。プロレタリア階級とその他の勤労大衆、とりわけ若い世代は、そこから鍛えられ、経験と教訓をくみとり、革命の道が平坦ではなく、曲がり

ぐねったものであることを理解するであろう。

三、「敢然」を第一として、

思いきり大衆を立ちあがらせること

党の指導部が敢然と思いきり大衆を立ちあがらせるかどうかは、

この文化大革命の運命を左右するであろう。

いま、文化革命運動にたいする党の各級組織の指導には、四種類の状況がある。

(一)運動の先頭に立って、敢然と思いきり大衆を立ちあがらせることができる。かれらは、「敢然」を第一とする、なにもものをも恐れない共産主義の戦士であり、毛主席のりっぱな学生である。か

れらは大字報や大弁論を提唱して、大衆がすべての妖怪変化を摘発するようにはげまし、同時にまた、大衆がかれらの活動のなかの欠点や誤りを批判するようにはげましている。このような正しい指導は、プロレタリア階級の政治の先行によるものであり、毛沢東思想の先導によるものである。

(二)多くの単位の責任者は、この偉大な闘争の指導について、きわめて理解に欠けており、きわめて真剣さにかけており、きわめて能力に欠けており、そのため軟弱で無能の状態にある。かれらは、「恐れ」がさきに立って、古いやり方にしがみつき、ありきたりのやり方をうち破ろうとせず、進取をもとめない。かれらは大衆の革命的な新しい秩序を唐突に感じており、そのため、指導の方が

情勢に立ちおくれ、大衆に立ちおくられている。

(三) 一部の単位の責任者は、平素からあれこれの誤りがあるため、なおさら、「恐れ」がさきに立って、立ちあがった大衆にしばをつかまはれないかと恐れている。実際には、かれらが真剣に自己批判をし、大衆の批判をうけいれさえすれば、党と大衆はわかつてくれるものである。そうしなければ、ひきつづき誤りをおかし、ついには大衆運動の足手まといとなるであろう。

(四) 一部の単位は、党内にまぎれこんだ、資本主義の道をあゆむ実権派に握られている。これらの実権派は、大衆からあばき出されるのを極度に恐れており、そのため、さまざまの口実をもうけて、大衆運動をおさえつけている。かれらは、目標をそらし、黒を

白といいくるめる手口をつかって、運動をまちがった道へ引きいれようとしている。かれらは、ひじょうに孤立し、どうにもならなくなると、一段と陰謀をたくらみ、うしろ弾うしろたまをうち、デマをとばし、極力革命と反革命のけじめをぼかして革命派に打撃をあたえている。

各級の党委員会にたいする党中央の要求は、ほかでもなく、正しい指導を堅持し、「敢然」を第一として思いきり大衆を立ちあげさせ、軟弱で無能の状態をあらためること、誤りをおかしはしたが改めたいと思っている同志が重荷をおろして、戦闘に参加するようはげますこと、資本主義の道をあゆむ実権派を更迭し、その指導権をプロレタリア革命派の手中に奪いかえすということである。

四、運動のなかで大衆に

自分で自分を教育させること

プロレタリア文化大革命では、大衆が自分で自分を解放するしかなく、なにからなにまで一手に引き上げるようなやり方はすべて採用してはならない。

大衆を信頼し、大衆に依拠し、大衆の創意性を尊重しなければならぬ。「恐れ」を取りのぞかなければならない。騒ぎがおこるのを恐れてはならない。毛主席がつねづねわれわれに教えているように、革命はそんなにお上品で、そんなにみやびやかな、そんなに

おだやかでおとなしく、うやうやしく、つつましくひかえ目のものではない。大衆がこの大革命運動のなかで、自分で自分を教育し、なにごとに正しくて、なにがまちがっているか、どのやり方が正しくて、どのやり方が正しくないかを見合わせるようにしなければならぬ。

大字報や大弁論の形式を十分に運用して、大いに見解をのべ、思うぞんぶん意見を發表させ、それによって、大衆が正しい観点をあきらかにし、誤った意見を批判し、すべての妖怪変化を暴露するようにならなければならない。このようにしてこそ、広はんな大衆は闘争のなかで自覚を高め、才能をのばし、是非を見わけ、敵味方をはっきり区別することができるのである。

五、党の階級路線を断固として実行すること

われわれの敵はだれか。われわれの友はだれか。この問題は革命のいちばん重要な問題であり、文化大革命のいちばん重要な問題でもある。

党の指導部は、左派を見つけ出し、左派の隊列を発展させ、それを拡大するということに長じ、断固として革命的左派に依拠しなければならぬ。こうしてこそ、運動のなかで、もっとも反動的な右派を完全に孤立させ、中間派を獲得し、大多数と団結し、運動をつうじて、最後には九五パーセント以上の幹部と団結し、九五パーセント以上の大衆と団結することができるのである。

力を集中して、ひとにぎりの極反動的ブルジョア右派分子、革命的修正主義分子に打撃をくわえ、かれらの反党・反社会主義・反毛沢東思想の犯罪行為をあますところなくあばき出し、批判し、かれらを最大限に孤立させることである。

今回の運動の重点は、党内の例の資本主義の道をあゆむ実権派をたたくことにある。

反党・反社会主義の右派分子を、党と社会主義を擁護してはいるが若干の誤ったことを言ったり、若干の誤ったことをしたり、あるいは若干のよくない文章やよくない作品を書いたりしたものと、嚴格に区別するよう注意しなければならない。

ブルジョア階級の反動的な学閥、反動的な「権威者」を、一般的

なブルジョアの學術思想をもっているものと、嚴格に區別するよう注意しなければならない。

六、人民内部の矛盾を正しく処理すること

人民内部の矛盾か、それとも敵味方の矛盾かという性質のちがった二種類の矛盾を嚴格に區別しなければならぬ。人民内部の矛盾を敵味方の矛盾にしてはならないし、敵味方の矛盾を人民内部の矛盾ととりちがえてもならない。

人民大衆のあいだに異なった意見が存在すること、これは正常な現象である。いく種類かの異なった意見のあいだの論争は、避けられないことであり、必要なことであり、有益なことである。大衆

は、正常で十分な討論をつうじて、正しいものを確認し、誤ったものを是正し、しだいに一致していくようになる。

討論のなかでは、事実をあげて、道理を説き、道理によって相手を納得させる方法をもちいなければならない。異なった意見をもつ少数のものにたいしても、圧力をかけて押えつけるようなやり方をとることはすべて許されない。ときには真理が少数のものの手にあることもあるのだから、少数のものを保護する必要がある。少数のもの意見が誤っていても、かれらに弁明を許し、自分の意見を留保するのを許すべきである。

討論のさいには、文闘をおこなうべきであって、武闘をおこなうべきではない。

討論のなかでは、一人びとりの革命者が自分の頭でものを考えることに長じなければならず、大胆に考え、大胆にのべ、大胆におこなう共産主義的風格を発揚しなければならない。革命的同志は、大方向で一致しているという前提のもとでは、枝葉の問題をとめどなく論争するようなことを避けて、団結をつよめるようにしなければならない。

七、一部のものが革命的大衆を

「反革命」にしたてゐるのを警戒すること

一部の学校、一部の単位、一部の工作組の責任者は、自分を批判する大字報をはり出した大衆にたいして反撃を組織しており、その

部門あるいは工作組の指導者に反対することは党中央に反対することであり、反党・反社会主義であり、反革命であるなどというスロ―ガンさえうち出している。かれらがこのようなことをすれば、一部の真に革命的な積極分子に打撃をあたえるようになるのは必至である。これは方向の誤り、路線の誤りであって、このようなことをするのは絶対に許されない。

一部のひどく誤った思想をもっている人たち、はなはだしいばあいには一部の反党・反社会主義の右派分子は、大衆運動のなかのいくらかの欠点や誤りにつけこんで、デマやうわさをまきちらし、扇動をおこない、意識的に一部の大衆を「反革命」にしたてあげている。火事場どろぼうに気をつけ、かれらのもてあそんでいるこの手

口をいちはやく摘発しなければならない。

運動のなかでは、殺人、放火、毒薬投入、破壊活動、国家機密の窃取など、確証のある反革命分子の現行犯を法律にもとづいて処分しなければならないが、そのほか、大学、専門学校、中等学校、小学校の学生・生徒のあいだに存在する問題は、いっさい、取りあげないことにする。闘争の主要な目標をそらさないようにするため、大衆をそのかして互いにたたかわせたり、学生をそのかして互いにたたかわせたりすることは、どのような口実をもってしても許されない。真の右派分子であっても、やはり運動の後期になってから事情を考慮したうえて処理しなければならない。

八、幹部の問題

幹部はほぼつぎの四種類に分けられる。

- (一) よい幹部。
- (二) 比較的よい幹部。
- (三) 重大な誤りをおかしてはいるが、まだ反党・反社会主義の右派分子ではない幹部。
- (四) 少数の反党・反社会主義の右派分子。

一般的な状況のもとでは、前の二種類の人びと（よい幹部、比較的よい幹部）が大多数を占めている。

反党・反社会主義の右派分子にたいしては、ぞんぶんにあばき出

し、闘争によってうち倒し、闘争によってたたきつぶし、闘争によって鼻持ちならないものにし、かれらの影響を一掃するとともに、かれらに活路をあたえて、かれらを生まれかわらせるようにしなければならぬ。

九、文化革命小組、文化革命委員会、 文化革命代表大会

プロレタリア文化大革命の運動のなかで、多くの新しい事物が、ぎつぎとあらわれはじめている。多くの学校、多くの単位で大衆が新しくつくり出した文化革命小組、文化革命委員会などの組織形態は、偉大な歴史的意義をもつ新しい事物である。

文化革命小組、文化革命委員会、文化革命代表大会は、大衆が共産党の指導のもとに自分で自分を教育するもつともすぐれた、新しい組織形態である。それは、わが党が大衆と密接にむすびつく、もつともよいかけ橋である。それはプロレタリア文化革命の権力機構である。

プロレタリア階級が、過去数千年らいつすべての搾取階級の残してきた旧思想、旧文化、旧風俗、旧習慣とたたかうには、長い長い期間をかけるなければならない。したがって、文化革命小組、文化革命委員会、文化革命代表大会は、臨時的な組織であってはならず、長期にわたる常設の大衆組織でなければならない。それは学校や機関に適するばかりでなく、工場・鉱山・企業、居住区、農村にも基本

的に適するものである。

文化革命小組と文化革命委員会の成員、文化革命代表大会の代表を選出するには、パリ・コンミュニョンのように、全面的な選挙制をとらなければならない。候補者の名簿は、革命的大衆が十分に下相談したうえで提出し、さらに大衆がくりかえし討論したのち、選挙をおこなわなければならない。

当選した文化革命小組と文化革命委員会の成員、文化革命代表大会の代表にたいしては、大衆はいつでも批判をくわえることができる。もしその職にふさわしくないものがあれば、大衆が討論したうえで、改選あるいは更迭することができる。

学校のなかの文化革命小組、文化革命委員会、文化革命代表大会

は、革命的學生を主体とすべきであるが、同時にまた、一定数の革命的教員、労働者、職員の代表を参加させなければならない。

十、教学改革

ふるい教育制度を改革し、ふるい教学方針、教学方法を改革することは、このプロレタリア文化大革命のきわめて重要な任務のひとつである。

この文化大革命のなかでは、ブルジョア知識分子がわれわれの学校を支配するような現象を徹底的にあらためなければならぬ。

各種の学校のなかでは、かならず毛沢東同志の提起した、教育は

プロレタリア階級の政治に奉仕し、教育を生産労働に結びつけるという方針を貫徹し、教育をうけるものが徳育、知育、体育のそれぞの面で成長し、社会主義的自覚をもつ、学力のある勤労者になるようにしなければならない。

修学期間は短縮しなければならない。課目は精選しなければならない。教材は徹底的に改革しなければならない。あるものはまず繁雑なものを簡素化することから手をつけなければならない。学生は学業を主とし、あわせて他のものを学ばなければならない。つまり、学業にはげむだけでなく、工業、農業、軍事も学ばなければならず、また、ブルジョア階級を批判する文化革命の闘争に随時参加しなければならない。

十一、新聞・雑誌で名指しの批判をする問題

文化革命の大衆運動をおしすすめるばあいには、プロレタリア世界観をおしひろめること、マルクス・レーニン主義、毛沢東思想をおしひろめることを、ブルジョア階級の思想、封建階級の思想を批判すること、うまく結びつけなければならない。

党内にまぎれこんだ典型的なブルジョア階級の代表人物とブルジョア階級の反動的学術「権威者」にたいする批判を組織しなければならない。そのなかには、哲学、歴史学、政治経済学、教育学、文学・芸術作品、文学・芸術理論、自然科学理論などの戦線におけるさまざまな反動的観点への批判がふくまれる。

新聞・雑誌で名指しの批判をするばあいには、同じ級の党委員会での討論をへなければならず、あるばあいには上級の党委員会に報告して承認をえなければならぬ。

十二、科学者、技術者および

一般の工作人員についての政策

科学者、技術者および一般の工作人員にたいしては、かれらが愛国的で、積極的に仕事をし、党と社会主義に反対せず、外国に内通しないものであるかぎり、こんどの運動では、ひきつづき団結、批判、団結の方針をとるべきである。功績のある科学者と科学技術要員は、これを保護しなければならぬ。かれらの世界観と作風にた

いしては、それを一步一步と改造していくよう援助をあたえるべきである。

十三、都市、農村の社会主義

教育運動と結びつける按配の問題

大・中都市の文化教育部門と党・政府指導機関は、当面のプロレタリア文化革命運動の重点である。

文化大革命によって、都市と農村の社会主義教育運動はいっそうゆたかになり、いっそう高まった。かならず両者を結びつけておしすすめなければならない。各地区、各部門は具体的状況にもとづいて按配してよい。

農村や都市の企業で、社会主義教育運動をおこなっているところでは、もし当初の按配が適しており、またりっぱにやられているなら、それをかき乱してはならず、これまでの按配をつづけるべきである。だが、当面のプロレタリア文化大革命の運動で提起された問題は、適当な時期に大衆のあいだに持ちこんで討議させ、それによって、いちだんとプロレタリア思想を大いにおこし、ブルジョア思想を大いになくすようにしなければならない。

あるところでは、プロレタリア文化大革命を中心として、社会主義教育運動をおすすめ、政治を清め、思想を清め、組織を清め、経済を清めている。もしその党委員会が適当だと考えるなら、そういうやり方でもよい。

十四、革命に力をいれて、生産をうながすこと

プロレタリア文化大革命は、人の思想を革命化させるためであって、それによって、それぞれの仕事が多くなり、よりはやく、よりりっぱに、よりむだなくおこなわれるようになる。大衆を十分に立ちあがらせ、適切に按配しさえすれば、文化革命と生産がともに影響をうけないようにし、それぞれの仕事の高い質を保証することができる。

プロレタリア文化大革命は、わが国の社会的生産力を発展させる強大な推進力である。文化大革命を生産の発展と対立させるような考え方は正しくない。

十五、部 隊

部隊での文化革命運動と社会主義教育運動は、中国共産党中央軍事委員会と中国人民解放军総政治部の指示にしたがっておこなう。

十六、毛沢東思想はプロレタリア

文化大革命の行動の指針である

プロレタリア文化大革命では、毛沢東思想の偉大な赤旗を高くかけ、プロレタリア階級の政治による統率を実行しなければならぬ。広はんな労働者・農民・兵士、広はんな幹部、広はんな知識分子のあいだで、毛主席の著作を活学活用する運動をくりひろげ、

毛沢東思想を文化革命の行動の指針としなければならない。

各級の党委員会は、このようにいりくんだ複雑な文化大革命のなかでは、なおさら真剣に毛主席の著作を活学活用しなければならない。とくに、文化革命と党の指導方法にかんする毛主席の著作、たとえば『新民主主義論』、『延安の文学・芸術座談会における講話』、『人民内部の矛盾を正しく処理する問題について』、『中国共産党全国宣伝工作会議における講話』、『指導方法のいくつかの問題について』、『党委員会の活動方法』をくりかえし学習しなければならない。

各級の党委員会は、毛主席の従来からの指示をまもり、大衆のなから大衆のなかへという大衆路線をつらぬき、まず生徒となって

から、そのあとで先生となるようにしなければならない。一面性や
局限性をさけるようつとめなければならない。唯物弁証法を提唱
し、形而上学と煩瑣哲学に反対しなければならない。

毛沢東同志をはじめとする党中央委員会の指導のもとで、プロレ
タリア文化大革命はかならず偉大な勝利をおさめるであろう。

中国共産党第八期中央委員会 第十一回総会の公報

(一九六六年八月十二日採択)

中国共産党第八期中央委員会第十一回総会は、一九六六年八月一
日から十二日まで北京でひらかれた。

第八期中央委員会第十一回総会は、毛沢東同志の主宰のもとにお
こなわれた。中央委員と中央委員候補が会議に出席した。各中央局
と各省・市・自治区の党委員会の同志、中国共産党中央文化革命小

組のメンバー、中央各関係部門の同志、首都の大学・専門学校の革命的教員・学生の代表が会議に列席した。

第八期中央委員会第十一回総会は、『中国共産党中央委員会のプロレタリア文化大革命についての決定』を討議し、採択した。

総会は、一九六二年九月の第八期中央委員会第十回総会以後、中央委員会政治局がおこなった、国内、国際問題についての重要な政策決定と重要な措置を討議し、承認した。

国 内

毛沢東同志は、第八期中央委員会第十回総会で、当時の情勢を正しく分析し、社会主義社会における矛盾、階級、階級闘争について

の理論をかさねて強調した。これは、わが国が社会主義革命と社会主義建設をおしすすめるうえでの指針である。ここ四年らい、わが国の人民は、毛沢東同志をはじめとする中国共産党の指導のもとに、大いに意気込み、つねに高い目標をめざし、多く、はやく、りっぱに、むだなく社会主義を建設するという党の総路線にみちびかれて、階級闘争、生産闘争、科学実験の三大革命運動をくりひろげ、偉大な勝利をおさめてきた。人民公社はさらに強固なものとなり、発展をとげた。全国いたるところに、わきたつような革命的な情景がみられ、新たな全面的躍進の局面があらわれつつある。

わが国の国民経済は、持続的に健全な発展をとげつつある。党中央が提起した調整、強化、充実、向上の方針は、すでに成功裏に実

現された。ことしから、第三次五カ年計画の実施にとりかかっている。工業戦線では、製品の量だけではなく、種類や質の面でも大きな発展と向上をみた。農業戦線では、四年連続の好収穫をおさめた。市場は繁栄し、物価は安定している。三回にわたる核実験の成功は、わが国の科学・技術と工業の発展の新たな水準を集中的に示めたものである。

ここ数年らい、全国の農村、都市、軍隊では、社会主義教育運動がはば広くひろげられてきた。いま、史上かつてみないプロレタリア文化大革命がわが国におこっている。労農兵大衆、革命的知識分子、広はんな幹部が毛沢東同志の著作を活学活用する大衆運動は、勤労人民が直接マルクス・レーニン主義を把握し、運用する新

しい紀元をきりひらいた。

総会は、一九六三年五月二十日の『中国共産党中央委員会の当面の農村工作のいくつかの問題についての決定（草案）』に全面的に同意する。総会は、一九六五年一月十四日、中国共産党中央委員会政治局が招集した全国工作会議の討論記録要綱『農村社会主義教育運動のなかで提起された当面のいくつかの問題』、つまり二十三カ条に全面的に同意する。この二つの文書は、毛沢東同志がみずから指導して作成したものであり、わが国の人民が社会主義革命をおしすすめるうえでの強大な思想的武器である。農村でも都市でも、ひきつづきこの二つの文書にもとづき、プロレタリア文化大革命とむすびつけて、「四清」運動、つまり、政治を清め、思想を清め、組

織を清め、経済を清める社会主義教育運動を最後までやりぬかなければならない。

総会は、毛沢東同志がここ四年間にうちだした、一連の英明な政策決定に全面的に同意する。これらの政策決定の主なもののはつぎのとおりである。

民主集中制の原則を貫徹、実行し、大衆路線の革命的伝統を発揚する問題について。

プロレタリア革命の事業の継承者を養成し、錬成する問題について。

工業は大慶に学び、農業は大寨に学び、全国は人民解放軍に学んで、政治・思想工作を強化しようという呼びかけについて。

戦争にそなえ、自然災害にそなえ、人民のためにという戦略方針について。

外国のワクをうちやぶって、自己の工業発展の道をあゆむという問題について。

経済建設、国防建設の体系と配置の問題について。

全党が軍事に力をいれ、全民皆兵を実施しようという呼びかけについて。

農業機械化をしだいに実現していくための企画と按配の問題について。

人民解放軍、工場、農村、学校、商業、サービス業、党・政府機関がみな革命化の大きな学校にならないといけないという呼びかけ

けについて。

総会は、プロレタリア文化大革命についての毛沢東同志の一連の指示は、当面のわが国文化革命の行動の指針であり、マルクス・レーニン主義の重要な発展である、とつよく指摘する。

総会は、今回の文化大革命をりっぱにやりとげる鍵は、大衆を信頼し、大衆に依拠し、大衆を思いきって立ちあがらせ、大衆の創意性を尊重することにある、と考える。そのためには、大衆のなかから大衆のなかへという路線を堅持しなければならない。まず大衆の生徒になり、そのあとで大衆の先生になることである。敢然と革命をおこない、りっぱに革命をおしすすめなければならない。騒ぎがおこることを恐れてはならない。ブルジョア階級の立場に立って、

右派をかばい、左派に打撃をあたえ、プロレタリア文化大革命をおさえつけることに反対する。さまざまなワクをこしらえて、大衆の手足をしぼることに反対する。役人風や旦那風を吹かせて、大衆の上に立って、でたらめな指揮をすることに反対する。

革命的左派を熱烈に支持し、団結できるすべての人びとと団結するよう気をくばり、力を集中してひとにぎりの反党・反社会主義のブルジョア右派分子に打撃をあたえなければならない。

総会は、毛沢東同志がこの四年間に社会主義革命と社会主義建設について提起した一連の問題は、わが国における社会主義の事業の発展と勝利を大いにはやめるとともに、わが国のプロレタリア階級独裁と社会主義制度を強化し、修正主義が党と国家の指導部をのっ

とるのをふせぎ、資本主義が復活するのをふせぎ、わが国がプロレタリア国際主義を堅持して世界各国人民の革命闘争を積極的に支持していくのを保証し、わが国が将来に共産主義に移行していくのを保証するうえで、きわめて大きな意義をもっている、と考へる。

国 際

第八期中央委員会第十一回総会は、帝国主義、各国反动派、現代修正主義に反対する全世界のマルクス・レーニン主義者と革命的人民の闘争は、いま、ひじょうにすばらしい情勢にある、と考へる。いまは、世界革命の新しい時代にある。さまざまな政治勢力は、大激

動、大分化、大再編の局面をたどりつつある。各国人民の革命運動、とくにアジア、アフリカ、ラテンアメリカの人民の革命運動はさまざまの勢いで発展しつつある。国際情勢の発展にさまざまな曲折と反復が現われるのはさけられないとしても、帝国主義が全面的崩壊にむかい、社会主義が全世界的勝利にむかうという全般的な趨勢は、変えられるものではない。アメリカ帝国主義と各国におけるその手先は、革命的大衆にたいして残酷な弾圧をくわえ、気ちがいじみた攻撃をかけ、買収や欺まんをおこなっているが、けっしてかれらの滅亡の運命を救うことはできず、逆に各国人民の革命的な目ざめをいっそう促すだけである。アメリカ帝国主義と各国におけるその手先がすすめている反人民的、反革命的活動は、各国人民の

革命的活動を促進しつつある。アメリカ帝国主義と各国におけるその手先は、見かけは強そうでも、実際にはひじょうに弱い。長い目で見れば、かれらはみなハリコの虎である。

ソ連共産党新指導集団は、フルシチョフの衣鉢をついで、フルシチョフなきフルシチョフ修正主義をおしすすめている。かれらの路線は、資本主義世界では帝国主義、植民地主義の支配を擁護し、社会主義世界では資本主義の復活をおしすすめることにほかならない。ソ連共産党指導集団は、マルクス・レーニン主義を裏切り、偉大なレーニンを裏切り、偉大な十月革命の道を裏切り、プロレタリア国際主義を裏切り、国際プロレタリア階級と被抑圧人民、被抑圧民族の革命事業を裏切り、偉大なソ連人民と社会主義諸国民の利

益を裏切った。かれらは中国共産党を「教条主義」「セクト主義」「左翼冒険主義」などののしっているが、その実、かれらが攻撃しているのは、ほかでもなくマルクス・レーニン主義である。かれらは、いま、アメリカをかじらとする帝国主義、各国反動派と連合して、反共、反人民、反革命、反中国の新しい神聖同盟を結成しつつある。だが、このような反革命の神聖同盟は、かならず破たんする運命にあり、現に支離滅裂の状態におちいつている。

総会は、ここ数年らい、わが党がフルシチョフ修正主義にたいしておこなってきた全面的、公開的な批判は、まったく正しいものであり、まったく必要なものであった、と考える。一九六三年六月十四日に中国共産党中央委員会が提起した『国際共産主義運動の総路

線についての提案」は、綱領的な文献である。毛沢東同志がみずから指導して作成されたこの文献、および「人民日報」「紅旗」誌編集部の、ソ連共産党中央委員会の公開書簡にたいする九編の論評と「モスクワ三月会議を評す」、それに林彪同志の「人民戦争の勝利万歳」などの論文は、現代の世界革命の一連の重要問題にたいしてマルクス・レーニン主義の科学的分析をくわえたものであり、帝国主義と現代修正主義に反対する強力な思想的武器である。

総会は、帝国主義に反対するにはどうしても現代修正主義に反対しなければならぬ、と考える。マルクス・レーニン主義と現代修正主義との闘争において、けっして中間の道はない。ソ連共産党指導部を中心とする現代修正主義集団にたいしては、はっきりと一線

を画し、労働者階級の奸賊としてのかれらの正体を断固あばき出すべきであつて、かれらと「共同行動」をとるなどということはできない。

総会は、プロレタリア国際主義はわが国の対外政策の最高指導原則である、と指摘する。総会は、アメリカをかしらとする帝国主義とその手先に反対するアジア、アフリカ、ラテンアメリカ諸国人民の正義の闘争を熱烈に支持し、全世界各国人民の革命闘争を支持する。

総会は、アメリカ帝国主義のベトナム侵略戦争拡大の犯罪行為をもっともげしく糾弾する。総会は、ベトナム民主共和国主席ホー・チ・ミン同志のアピールをもっとも熱烈に、もっとも断固と

して支持し、ベトナム人民が抗米救国戦争の最後の勝利をかちとるまでたたかいぬくことを断固として支持する。総会は、ベトナムの抗米闘争支援についてわが党中央とわが国政府がベトナム側ととりきめた、すでにとられていているすべての措置と今後とられるすべての行動に、全面的に同意する。

総会は、ソ連修正主義指導集団がベトナムの抗米闘争の問題で、うわべは支持しながら実際には売りわたすという反革命の二面政策をとっていることをはげしく糾弾する。

総会は、アメリカ帝国主義は全世界人民のもっとも凶悪な共同の敵である、と考える。アメリカ帝国主義を最大限に孤立させ、これに打撃をくわえるためには、アメリカ帝国主義とその手先に反対す

るもっとも広はんな国際統一戦線をうち立てなければならぬ。ソ連修正主義指導集団は、ソ米協調による世界支配の政策をおしすため、国際共産主義運動と民族解放運動のなかで分裂、破壊、転覆活動をおこない、すすんでアメリカ帝国主義に奉仕している。かれらがこの統一戦線にふくまれないのは、当然のことである。

われわれは、かならず帝国主義と植民地主義に反対する世界のすべての人びとと連合し、アメリカ帝国主義とその手先に反対する闘争を最後までやりぬかなければならない。

われわれは、かならず全世界のすべての革命的マルクス・レーニン主義者とともに、現代修正主義に反対する闘争を最後までやりぬき、国際プロレタリア階級と世界人民の革命事業をおしすすめなけ

ればならない。

毛沢東思想の偉大な赤旗を高くかかげる

第八期中央委員会第十一回総会は、全党、全国をあげて毛沢東同志の著作を大いに学ぶことは歴史的な意義をもつ大きな出来事である、とつよく指摘する。毛沢東同志は、現代におけるもっとも偉大なマルクス・レーニン主義者である。毛沢東同志は、天才的、創造的、全面的にマルクス・レーニン主義をうけつぎ、守り、発展させて、マルクス・レーニン主義をまったく新しい段階に高めた。毛沢東思想は、帝国主義が全面的崩壊にむかい、社会主義が全世界的勝利にむかう時代のマルクス・レーニン主義である。毛沢東思想は全

党、全国のすべての活動の指導方針である。総会は、林彪同志が人民解放軍にむかって毛沢東同志の著作を学ぶ大衆運動を全軍でくりひろげるよう呼びかけたことは全党、全国のために輝かしい手本をうちたてたものである、と考える。労農兵大衆、革命的知識分子、広はんな幹部を毛沢東思想で武装させ、人びとの思想の革命化をいちだんと促進することは、修正主義をふせぎ、資本主義の復活をふせぎ、われわれの社会主義、共産主義の事業を勝利させるうえでのもっとも確実で、もっとも根本的な保証である。毛沢東同志の著作を、問題をもって学び、活学活用し、学習と運用を結びつけ、さしこめて必要なものから先に学んで、たちどころに効果があらわれするようにし、運用に思いきり力をいれるという方法は、どこにでも

あてはまる効果的な方法であつて、全党、全国にいちだんと普及すべきである。

中国共産党は偉大な、光榮ある、正しい党である。わが党は、毛沢東同志がつくり、育てあげた党であり、マルクス・レーニン主義と毛沢東思想で武装された党である。わが党は、理論と實際を結合し、人民大衆と密切に結びついた、真剣に自己批判をおこなう精神をもつプロレタリア階級の前衛部隊である。わが党は、歴史上、もつとも激烈で、もつとも苦難にみちた、もつとも長期にわたる、もつとも複雑な闘争をへてきたプロレタリア革命政党である。わが人民は偉大な人民である。わが国は偉大な国家である。わが軍は偉大な軍隊である。偉大な指導者毛沢東同志と中国共産党の指導のも

とで、全国の軍民が自力更生にたより、発奮して富強をはかりさえすれば、かならずすべての困難と障害にうち勝つことができ、かならず歴史がわれわれにあたえた使命をはたすことができ、かならず世界の革命的人民がわれわれによせている期待にそむかないであろう、とわれわれは確信するものである。

第八期中央委員会第十一回総会は、全国の労働者、人民公社社員、人民解放軍の指揮員・戦闘員、革命的幹部、革命的知識分子、革命的教員・学生、科学・技術要員が毛沢東思想の偉大な赤旗をいっそう高くかかげ、団結できるすべての人びとと団結し、反革命的な修正主義と「左」右の日和見主義の各方面からくる阻害する力にうち勝ち、困難にうち勝ち、欠点にうち勝ち、誤りにうち勝ち、

党内と社会の暗い面にうち勝って、プロレタリア文化大革命を最後までおしすすめ、社会主義革命を最後までおしすすめ、第三次五年計画の実現のため、わが国を強大な社会主義国につくりあげるために奮闘するよう、呼びかける。

われわれは、かならずプロレタリア階級の雄大な志をいだいて、前人のあゆんだことのない道を敢然とあゆみ、前人のきわめたことのない高峰に敢然とよじのぼらなければならぬ。われわれは、かならず世界人口の四分の一をしめる社会主義中国をりっぱに建設して、いつまでも変色することのないプロレタリア階級の難攻不落の国家にきずきあげなければならない。われわれはかならず台湾を解放する。われわれは、かならずいく層倍も警戒心を高めて、アメリカ

カ帝国主義とその共犯者の奇襲攻撃をふせがなければならない。かれらがあえてわれわれに戦争をおしつけてくるならば、毛沢東同志と中国共産党に指導される七億の中国人民は、かならず侵略者の背骨を打ちくだき、断固として、徹底的に、きれいに、のこらず、かれらを消滅するであろう。

中国共産党第八期中央委員会 第十二回拡大総会の公報

(一九六八年十月三十一日採択)

中国共産党第八期中央委員会第十二回拡大総会は一九六八年十月十三日から北京でひらかれ、十月三十一日、勝利のうちに閉会した。

中国共産党中央委員会主席毛沢東同志がこの偉大な歴史的意義をもつ会議を主宰し、また、一九六六年八月の党の第八期中央委員会

第十一回総会いらいのプロレタリア文化大革命運動の問題について、きわめて重要な講話をおこなった。

毛沢東主席の親密な戦友林彪副主席が会議に出席し、重要な講話をおこなった。

会議には、中央委員と中央委員候補が出席した。

中国共産党中央文化革命小組のメンバー全員が会議に出席した。

各省・市・自治区革命委員会の主な責任者の同志が会議に出席した。

中国人民解放軍の主な責任者の同志が会議に出席した。

第八期中央委員会第十二回拡大総会は、われわれの偉大な指導者毛沢東同志がみずから起こし、みずから指導しているプロレタリア

文化大革命がわが国のプロレタリア階級独裁という条件のもとで、プロレタリア階級がブルジョア階級およびすべての搾取階級に反対する政治的大革命であることを、一致して確認した。

総会は、第八期中央委員会第十一回総会で毛主席が「司令部を砲撃しよう」という偉大な革命的文献を発表して、こんどのプロレタリア文化大革命に勝利の針路をさししめたことを確認した。

総会は、第八期中央委員会第十一回総会で、毛主席がみずから主宰してさだめた『プロレタリア文化大革命についての決定』および第十一回総会の公報がいずれも正しいものであることを確認した。

総会はつぎのことを確認した。毛主席のプロレタリア革命路線、プロレタリア文化大革命についての毛主席の偉大な戦略的配置、文

化大革命の各時期における毛主席の一連の重要な指示、林副主席のたびたびの講話はいずれも正しいものである。中国共産党中央文化革命小組は毛主席のプロレタリア革命路線を貫徹、実行するたたかいで、重要な役割をはたした。

プロレタリア文化大革命の実践は、毛沢東同志がのべているように、こんどのプロレタリア文化大革命は、プロレタリア階級独裁をうち固め、資本主義の復活を防ぎ、社会主義を建設するうえで、まったく必要なものであり、きわめて時宜にかなったものであることを立証している。毛主席のプロレタリア革命路線の導きのもとに、毛主席を統帥者とし林副主席を副統帥者とするプロレタリア階級司令部の指導のもとに二年らしいきわめて複雑で、きわめて鋭い階級

闘争をへて、これまでにないほど広はんに深く、幾億もの人民大衆が動員され、中国人民解放軍の支持のもとに、階級間のわたりあいをくりかえしたすえ、ついに、劉少奇を代表とする、党をのっとり、政府をのっとり、軍隊をのっとりとうとくらんだブルジョア階級司令部、および各地におけるその代理人を粉砕し、かれらにかすめとられていた部分の権力を奪いかえした。台湾省をのぞく全国二十九の省・市・自治区にはみな、革命委員会が成立した。いま、このさかまく怒濤のようなプロレタリア文化大革命はすでに偉大な、決定的な勝利をおさめた。

総会は、プロレタリア文化大革命の勝利によって、毛沢東同志を指導者とする中国共産党は、偉大な、光榮ある、正しい党であるこ

とが、さらに立証されたことを確認した。総会は、プロレタリア文化大革命のあらしをへて、すでに思想上、政治上、組織上から、党の第九回全国代表大会をひらくための十分な条件がとつたことを確認した。総会は、適当な時期に中国共産党の第九回全国代表大会をひらくことを決定した。

総会は、中央専門案件審査小組の、『裏切り者、敵のまわし者、労働者階級の奸賊劉少奇の罪悪行為についての審査報告』を批准した。この報告は、党内一番の資本主義の道をあゆむ実権派劉少奇が、党内にひそんでいた裏切り者、敵のまわし者、労働者階級の奸賊であり、おびただしい罪悪行為をかさねた、帝国主義、現代修正主義、国民党反動派の手先であることを十分な証拠をあげてあきら

かにしている。総会は、プロレタリア文化大革命のなかで党と革命的大衆が劉少奇の反革命の正体をあばき出したことは、毛沢東思想の偉大な勝利であり、プロレタリア文化大革命の偉大な勝利であることを確認した。総会は、劉少奇の反革命の罪悪行為にたいしてきわめて大きな革命的義憤をしめし、劉少奇を永遠に党から除名し、その党内外におけるあらゆる職務を解任し、ひきつづき劉少奇およびその一味の、党を裏切り国を裏切った罪悪行為を清算するという決議を一致して採択した。総会は、全党の同志と全国の人民がひきつづき革命的な批判を深くくりひろげ、劉少奇ら党内最大のひとにぎりの資本主義の道をあゆむ実権派の反革命修正主義思想を一掃するようよびかける。

総会はずきのように指摘した。二年あまりにわたるプロレタリア文化大革命の歴史は、二つの階級、二つの道、二つの路線のはげしい闘争につらぬかれている。闘争の中心は、権力の問題であり、プロレタリア階級とブルジョア階級とが指導権を争奪する問題であり、党と国家の指導権をマルクス主義者がにぎるか、修正主義者がにぎるかの問題である。搾取階級とその代理人は、滅亡に甘んぜず、さまざまの政治的、経済的手段をつかって、右の面から、または極「左」、つまり形は「左」だが実際には右の面から階級戦線をかきみだし、プロレタリア文化大革命を破壊し、プロレタリア階級にたいして反奪権をおこなおうとたくらんだ。しかし、かれらのさまざまな陰謀も、毛沢東思想を身につけた革命的人民大衆によつ

て、すでにことごとくあばき出された。総会は、搾取階級とその代理人の破壊活動にたいして、ひきつづき警戒心を高めなければならぬということを確認した。

第八期中央委員会第十一回総会の決定に反対し、プロレタリア文化大革命に反対し、毛主席を統帥者とし林副主席を副統帥者とするプロレタリア階級司令部に反対した一九六七年の「二月逆流」を、総会はきびしく批判した。総会は、「二月逆流」を粉砕したこと、「二月逆流」の罪状をくつがえそうとした今年の春の邪風を粉砕したことは、毛主席のプロレタリア革命路線がブルジョア反動路線をうち砕いた大きな勝利であると確認した。

総会はずきのことを確認した。プロレタリア文化大革命の偉大な

勝利は、プロレタリア階級独裁のもとでひきつづき革命をおこなうことについての毛沢東同志の学説が、きわめて深い意義をもっていることをいっそう立証した。毛沢東思想は、帝国主義が全面的崩壊にむかい、社会主義が全世界的勝利にむかう時代のマルクス・レーニン主義であり、われわれ全党、全軍、全国のすべての活動の指導思想である。毛沢東思想は、広はん人民大衆に把握されると、きわめて大きな物質的力を生み出す。プロレタリア文化大革命のなかで、毛沢東思想が幾億もの人民のあいだにすみやかにつたえひろめられ、人びとの心に深く根をおろし、広はん労働者、農民、兵士大衆が闘争のなかで自覚をもって毛沢東思想を活学活用していること、これはプロレタリア階級独裁をうち固め、わが国を永遠に変色

させないための根本的な保証である。全党、全軍と各級の革命委員会は、ひきつづき毛沢東思想の偉大な赤旗を高くかかげ、毛主席を統帥者とし林副主席を副統帥者とするプロレタリア階級司令部のまわりにかくく団結し、毛主席の偉大な戦略的配置にしっかりとしたが、毛主席の最新指示の一つひとつを真剣に実行し、毛主席著作学習の大衆運動をさらにくりひろげ、毛沢東思想学習班をりっぱにつくり、毛沢東思想で認識を統一し、足並を統一し、行動を統一し、反動的なブルジョア階級の「多中心論」を批判して、われわれのすべての活動でひきつづき、たえず新たな勝利をおさめるようにしなければならない。

第八期中央委員会第十二回拡大総会は、全国の労働者、貧農・下

層中農、人民解放軍の指揮員・戦闘員、革命的幹部、革命的紅衛兵、革命的知識分子にたいし、また全国各民族の革命的人民にたいして、労働者階級がすべてを指導しなければならないという毛主席の教えをだんこ実行し、プロレタリア階級が文化の各領域をふくむ上部構造で独裁をおこなうことを実現し、毛主席がうち出した闘争・批判・改革の各段階の任務を達成し、プロレタリア文化大革命をさいごまでやりぬくようよびかける！

われわれはひきつづき毛主席のうち出した革命的大連合と革命的三結合の偉大な原則を実行し、革命的大批判、機構の簡素化、幹部の下放労働、不合理な規則と制度の改革などについての毛主席の指示を真剣に実行して、われわれの新生の革命委員会が、大衆と緊密

にむすびつき、たえず強化され、発展し、完べきものとなり、プロレタリア階級独裁の機能をいっそうりっぱにはたせるようにしなければならぬ。

われわれはひきつづき工場、人民公社、機関、学校、すべての企業部門、事業部門、居民区など各方面で大衆を十分に立ちあがらせて、階級隊列の純潔化の仕事を真剣にやりとげ、広はん大衆のなかにまぎれこんでいるひとにぎりの反革命分子をひきずり出さなければならぬ。

われわれは、党組織は、プロレタリア階級の先進分子によって構成されなければならない、プロレタリア階級と革命的大衆を指導して階級敵と戦うことのできる、生氣はつらつとした前衛組織でなけれ

ばならないという毛主席の指示を実行し、「ふるいものを吐きだし、新しいものをとり入れる」という毛主席の指示を実行し、党の整頓、党の建設の仕事を真剣にやりとげなければならぬ。そして調査の結果、証拠のある、党内にまぎれこんだ裏切り者、特務、あくまでも悔い改めない資本主義の道をあゆむ実権派、墮落変質分子およびその他の階級異分子を党から一掃し、プロレタリア階級の新鮮な血液を党に吸収し、なによりもまず産業労働者のなかの共産主義的自覚をもった先進分子を入党させ、毛主席のプロレタリア革命路線をだんこ実行する優秀な共産黨員を抜てきして、党の指導活動に参加させなければならぬ。

われわれは、プロレタリア教育革命の偉大な歴史的任務を達成し

なければならぬ。知識分子にたいしては、労働者、農民、兵士による再教育をおこない、かれらが労働者、農民とむすびつくようにするべきである。労働者宣伝隊は長期にわたって学校にとどまり、学校におけるすべての闘争・批判・改革の任務に参加するともに、いつまでも学校を指導していかななければならない。農村では、労働者階級のもっとも信頼できる同盟者——貧農・下層中農が学校を管理すべきである。これはプロレタリア文化大革命をさいごまですすめる一つの鍵となる問題である。この光榮ある任務にあたる労働者、貧農・下層中農、人民解放軍の指揮員・戦闘員は、闘争のなかで自分の政治的自覚をたえず高めるべきである。

われわれは、革命に力をいれて、生産をうながし、仕事をうなが

し、戦争への備えをうながし、わが国の社会主義工業、社会主義農業とすべての社会主義事業をいっそうりっぱにききあげなければならぬ。プロレタリア文化大革命は、わが国の社会主義生産の偉大な推進力である。プロレタリア文化大革命はわが国の社会主義建設に新しい飛躍が生まれるのをうながしており、また、ひきつづきうながすであろう。

われわれは、偉大な中国人民解放軍をたえず強化し、国防をいっそうかため、ひきつづき擁軍愛民の活動をりっぱにおこなわなければならぬ。われわれはかならず台湾を解放する。狼のようなアメリカ帝国主義とソ連現代修正主義裏切り者集団にたいし、われわれは、かならず、いく層倍も警戒心を高めなければならぬ。もし

敵があえて戦争をわれわれにおしつけてくるならば、われわれは断固として、徹底的に、きれいに、のこらずこれを消滅する。

総会はずきのことを確認した。まさに毛沢東同志がのべているように、世界革命は偉大な新しい時代にはいつている。全世界各国人民の革命運動はいま、いきおいよく発展している。

アメリカをかしらとする帝国主義者と、ソ連修正主義裏切り者集団をかしらとする現代修正主義者は、多くの矛盾をかかえ、分裂瓦解し、内外ともに苦境に立たされ、まったくゆきづまり、ますますこれまでにはない孤立状態におちいつている。

アメリカ帝国主義とソ連修正主義は、世界の再分割をたくらんで、たがいに結託するとともに、たがいに争奪している。アメリカ

帝国主義がベトナムにたいしてすすめている侵略戦争は、ソ連修正主義から暗黙の了解と支持をえており、ソ連修正主義裏切り者集団が公然と出兵してチェコスロバキアを占領したことも、アメリカ帝国主義から暗黙の了解と支持をえている。かれらのこうした暴露されている。かれらの赤裸々な侵略行為は、帝国主義集団と修正主義集団の内部矛盾をふかめ、アメリカ帝国主義とソ連修正主義の国内の、抑圧されている人民大衆の自覚をうながすと同時に、全世界のプロレタリア階級と広はんな人民の、アメリカ帝国主義とソ連修正主義に反対する新たな、偉大な闘争の高まりをひきおこしている。たたかいの道にどのような曲折があろうとも、また、アメリカ

カ帝国主義、ソ連修正主義がどのようなちりあくたをかきあつめて、反中国、反革命の「神聖同盟」をつくろうとも、「石をもちあげて、自分自身の足を打つ」だけである。われわれはけっして孤立してはおらず、世界の人口の九〇パーセント以上をしめる、革命をもとめる人民はすべてわれわれの友人である。うたがいもなく、歴史の前進の歯車は逆にはまわることはないし、帝国主義、修正主義とすべての反動勢力は、かならず革命的人民によって徹底的に粉砕され、世界のすべての抑圧されている人民、抑圧されている民族はみな、かならず自己の闘争のなかで徹底的な解放をかちとるのであらう！

毛沢東同志の指導のもとにある中国共産党と中国人民は、プロレ

タリア国際主義の原則と政策を堅持し、世界各国の眞のマルクス・レーニン主義者とかたく団結し、英雄的なアルバニア人民の帝国主義反対、修正主義反対の闘争を断固支持し、英雄的なベトナム人民が抗米救国の戦争をさいごまでやりぬくの断固支持し、帝国主義に反対し、修正主義に反対し、各国の反動派に反対する世界各国人民のあらゆる正義の闘争を断固支持する。中国共産党は、アメリカ帝国主義やソ連修正主義、およびその手先に抑圧されているすべての人民は、自己の勝利と解放をより迅速にかちとるために、はば広い統一戦線をつくって、アメリカ帝国主義、ソ連修正主義の世界制覇の陰謀を徹底的に粉碎すべきだと考える。

こんどの総会は、国内、国際のすばらしい情勢のもとでひらかれ

た。これは、プロレタリア文化大革命の全面的勝利をかちとる動員の会議であり、毛主席を統帥者とし林副主席を副統帥者とするプロレタリア階級司令部の指導のもとに全党がこれまでになく団結した会議であり、プロレタリア階級の革命的な活気にみちあふれた会議であった。総会はつぎのように確信する。全党の同志と全国の人民、および世界各国の革命的人民はすべて、われわれのこの会議の成功を大いに喜ぶであろう。われわれのこの会議に恐れをなすのは、ひとにぎりの、アメリカ帝国主義をかしらとする帝国主義者、ソ連修正主義裏切り者集団をかしらとする現代修正主義者と国内外の反動派だけである。

偉大な指導者毛主席にしっかりとしたがって勇躍前進しよう！

勝利はわれわれのものである。

林彪同志が中国共産党中央 軍事委員会常務委員にあてた手紙

常務委員の同志諸君

江青同志がひらいた、部隊の文学・芸術活動についての座談会の記録要綱を送付するから読んでもらいたい。この記録要綱は座談会に参加した同志たちがなんども検討をかさね、さらに毛主席がみずから三度も目をとおして筆をくわえたりっぱな文献である。これは、毛沢東思想によって社会主義の時期の文化革命の多くの重要な

問題に解答をあたえており、きわめて大きな現実的意義をもっているだけでなく、深遠な歴史的意義をもっている。

この十六年らしい、文学・芸術戦線には先鋭な階級闘争が存在しており、どちらがどちらに勝つかの問題はまだ解決されていない。文学・芸術という陣地は、プロレタリア階級が占領しなければ、ブルジョア階級がかならず占領するものであり、闘争は避けられないものである。これは、イデオロギーの分野におけるきわめて広はんで、深刻な社会主義革命であって、下手をすれば、修正主義があらわれるであろう。われわれはかならず毛沢東思想の偉大な赤旗を高くかかげ、確固としてこの革命を最後までやりぬかなければならない。

記録要綱のなかで提起されている問題と意見は、部隊の文学・芸術活動の実際状況にまったく合致するもので、かならず断固として貫徹、実行し、部隊の文学・芸術活動が政治を前面におしだし、人の革命化をうながす面で重要な役割をはたせるようにしなければならぬ。

党中央の審査、承認を求めたいので、記録要綱にたいしてどんな意見があるか知らせてもらいたい。

敬具

一九六六年三月二十二日

林 彪

林彪同志の委託によって江青同志が
ひらいた、部隊の文学・芸術活動
についての座談会の記録要綱

(一九六六年二月二日——二月二十日)

一

一九六六年二月二日から二月二十日にかけて、江青同志は林彪同志の委託により、上海で部隊の一部の同志を招いて、部隊の文学・

芸術活動のいくつかの問題について座談をおこなった。

座談会に参加する部隊の同志たちが上海に来るまえに、林彪同志はかれらにつきのような指示をあたえた。「きのう、江青同志はわたしと話しあった。江青同志は文学・芸術活動の面で政治的にもひじょうに高く、芸術的にも専門家であり、ひじょうに多くの貴重な意見をもっている。諸君はそれを大いに重視し、しかも江青同志の意見を思想と組織の面で実現するよう真剣にとりくまなければならぬ。これから、部隊の文学・芸術についての文書は、江青同志のもとにとどけて目を通してもらわなければならず、なにか消息があれば、そのつど江青同志に連絡して、部隊の文学・芸術活動の状況をつかんでもらい、江青同志に意見を求めて、部隊の文学・芸術活

動を改善するようにしなければならない。部隊の文学・芸術活動は、思想性の面でも、芸術性の面でも、現状に満足してはならず、もっと向上させなければならぬ。」

座談のはじめに、また話しあいのなかで、江青同志はなんどもつぎのようにのべた。わたしは毛主席の著作をあまりよく学んでおらず、毛主席の思想をあまりよくつかんではない。ただ、すこしでも学びとれば、それを断固として実行にうつすだけである。ここ四年のあいだに、かなり集中的に一部の作品に目を通し、意見をいくつか考えた。これらの意見がみな正しいとはかぎらない。わたしたちはみな共産党員であるから、党の事業のために、対等に話しあうべきである。これは昨年やるべきだったが、からだがよくなかった

ために、やれなかった。さいきん、からだもいくぶんよくなったので、林彪同志の指示にもとづいて、同志たちを招いていっしょに相談することにした。

江青同志は、まず作品を見てからいくつかの関係ある文書や資料を読み、そのうえで話しあいに入ることを提案した。江青同志はわれわれに毛主席の關係ある著作を読ませるとともに、部隊の同志と前後八回も個別的な話しあいをかわし、四回にわたって集団的に座談をおこない、さらに、われわれといっしょに映画を十三回、劇を三回見た。映画や劇を見ながらも、そのつど話しあいをおこなった。このほか、われわれに二十一本の映画をみるようすすめた。この期間に、江青同志はまた映画《南海の長城》の試写を見て、《南

海の長城》の監督、カメラマンおよび一部の俳優と会見し、かれらと三回にわたって話しあい、かれらにひじょうに大きな教育とはげましをあたえた。こうした接触をつうじて、われわれは江青同志が毛主席の思想をかなり深く体得していること、また文学・芸術の面に存在する問題について、長期にわたる、かなり十分な調査・研究をおこない、みずから試験田をつくって、ゆたかな実践的経験を積んでいることを感じとった。今回、江青同志は病気をおして仕事にはげみ、謙虚に、熱情をこめて、ねんごろにわれわれと話しあい、ともに映画や劇を見て、われわれにひじょうに大きな啓発と援助をあたえた。

二十日間近くのあいだに、われわれは毛主席の二つの著作と関係資料を読み、江青同志のかずかずのきわめて重要な意見を聞き、よい映画や悪い映画、および大なり小なりの欠点や誤りをもった映画を三十数本も見、また比較的成功した二つの革命的現代京劇、白虎連隊を奇襲する、智取威虎山を見た。それによって、われわれは毛主席の文学・芸術思想への理解をいっそう深め、社会主義文化革命にたいする認識を高めた。以下は、今回の座談会のなかでみんなが討議し、合意にたっしたいくつかの見解である。

一、十六年らい、文化戦線には先鋭な階級闘争が存在していた。

実際には、わが国の革命の二つの段階、つまり新民主主義の段階と社会主義の段階においては、いずれも文化戦線に二つの階級、二つの路線の闘争、つまりプロレタリア階級とブルジョア階級による文化戦線での指導権争奪の闘争が存在している。わが党の歴史における、「左」右の日和見主義に反対する闘争にも、文化戦線での二つの路線の闘争がふくまれていた。王明路線はかつてわが党内にはん濫したブルジョア思想である。一九四二年にはじまった整風運動のなかで、毛主席はまず王明の政治路線、軍事路線および組織路線に理論の面から徹底的な批判をくわえ、つづいてまた王明に代表される文化路線にも理論の面から徹底的な批判をくわえた。毛主席の『新民主主義論』、『延安の文学・芸術座談会における講話』およ

び「『追いつめられて梁山にのぼる』をみてのち、延安京劇院にあつた手紙」は、とりもなおさず文化戦線での二つの路線の闘争にたしする、もっとも完べきな、もっとも全面的な、もっとも体系的な歴史的総括であり、マルクス・レーニン主義の世界観と文学・芸術理論をうけつぎ、発展させたものである。わが国の革命が社会主義の段階にはいつてから、毛主席はまた、「人民内部の矛盾を正しく処理する問題について」と「中国共産党全国宣伝工作会議における講話」の二つの著作を発表した。これはわが国と各国の革命的思想運動、文学・芸術運動の歴史的経験についての最新の総括であり、マルクス・レーニン主義の世界観と文学・芸術理論を新たに発展させたものである。毛主席のこの五つの著作は、われわれプロレタリア

階級が長期にわたって運用していくのに十分なものである。

毛主席の、先の三つの著作が発表されてから今日まですでに二十数年もたっており、あとの二つの著作も発表されてからすでに十年近くもたっている。しかし、文学・芸術界は建国いらい、それを基本的に実行しておらず、毛主席の思想と対立する反党・反社会主義の黒い線がわれわれに独裁をおこなってきた。この黒い線とはほかでもなく、ブルジョア階級の文学・芸術思想、現代修正主義の文学・芸術思想といわゆる三十年代の文学・芸術が結びついたものである。「真実描写」論、「広びろとしたリアリズムの道」論、「リアリズム深化」論、「題材決定」反対論、「中間人物」論、「硝煙臭」反対論、「時代精神合流」論などが、その代表的な論点であ

る。これらの論点のほとんどは、毛主席が『延安の文学・芸術座談会における講話』のなかで、すでに批判をくわえたものである。映画界ではまた、いわゆる「離典背道」論をもちだすものもいた。これはマルクス・レーニン主義、毛沢東思想の經典から離れ、人民革命戦争の道にそむくというものである。こうしたブルジョア階級と現代修正主義の文学・芸術思想の逆流の影響または支配があったために、ここ十数年らい、ほんとうに労働者、農民、兵士の英雄的人物をたたえ、労働者、農民、兵士に奉仕するよい作品、または基本的によい作品は、あるにはあったが、多くはなかった。少なからぬものはどっちつかずの作品であった。そのほかにかなりの反党・反社会主義の毒草もあった。われわれはかならず党中央の指示にも

とづいて、文化戦線での社会主義大革命を断固としておしすすめ、この黒い線を徹底的にとりのぞいてしまわなければならない。この黒い線をとりのぞいてからも、将来また黒い線があらわれるから、ふたたび闘争しなければならない。したがって、これはなみなみならぬ、複雑な、長期にわたる闘争であって、数十年さらには数百年もの努力をへなければならぬ。これはわが国の革命の前途にかかわる大きな事であり、また世界革命の前途にかかわる大きな事からでもある。

過去十数年の教訓は、われわれがそれをつかむのがおそかったということである。一部の個別的な問題をつかんだだけで、全面的、系統的につかまなかった。われわれがつかまなければ、多くの陣地

は黒い線に占領されるままにしておくほかない。これはゆゆしい教訓である。一九六二年の党中央委員会第十回総会で、全国で階級闘争をおこなうという決定がなされてから、文化面でのプロレタリア思想をおこし、ブルジョア思想をほろぼす闘争が一步一步とくりひろげるようになったのである。

二、この三年らい、社会主義の文化大革命にはすでに新しい情勢があらわれている。革命的現代京劇が生まれたことはそのもつともきわだったあらわれである。京劇革命にたずさわった文学・芸術活動家は、毛主席をはじめとする党中央の指導のもとに、マルクス・レーニン主義、毛沢東思想を武器として、封建階級、ブルジョア階級、現代修正主義の文学・芸術にたいして、勇敢で、ねばりつよい

攻撃をくりひろげた。そのほこ先のむかうところ、京劇というこのもつとも堅いとりでも、思想から形式にいたるまで、きわめて大きな革命をおこさせ、それがまた文学・芸術界の革命的な変化をうながすこととなった。革命的現代京劇《紅灯記》、《沙家浜》、《智取威虎山》、《白虎連隊を奇襲する》などやバレエ《赤軍女性中隊》、交響音楽《沙家浜》、塑像《収租院》などは、すでに広はんな労働兵大衆の承認を得ており、内外の観衆からこのうえなく歓迎されている。これはこれまでになかった壮挙であり、社会主義文化革命に深遠な影響をおよぼすであろう。このことは、京劇というこのもつとも堅いとりでも攻め落とし、革命化することができるし、バレエ、交響曲のような外来の古典的芸術形式も改造して利用

することが出来るものであり、ましてその他の芸術の革命にたいしては、なおさら確信をもつべきだということを力つよく立証している。あるものは革命的現代京劇は京劇の伝統を捨て去り、京劇の基本的技巧を捨て去ったといっている。事實はそれと正反対で、革命的現代京劇こそ京劇の伝統を批判的にうけつぎ、真に、ふるきをしりぞけて、新しきを出しているのである。京劇の基本的技巧は捨て去られたのではなく、それだけでは不足を感じるようになったのである。新しい生活を表現できない一部のは、捨て去るべきであり、またせひそうしなければならぬ。そして、新しい生活を表現するには、われわれは生活のなから京劇の基本的技巧を精練し、創造して、それをしだいに発展させ、ゆたかにする必要に迫られて

いるのである。同時に、これらの事實はまた、さまざまな保守派や、いわゆる「切符売上げ高」論、「外貨獲得高」論、「革命的作品輸出不可」論などに力つよい反撃をくわえている。

この三年らしいの、社会主義文化革命のもう一つのきわだったあらわれは、思想戦線、文学・芸術戦線における労働者、農民、兵士の広はん大な大衆的活動である。労農兵大衆のなから、数多くのすぐれた、実際から出発して毛沢東思想をめぐりにあらわした哲学論文がつぎつぎとあらわれている。同時にまた、わが国の社会主義革命の偉大な勝利をたたえ、社会主義建設の各戦線での大躍進をたたえ、われわれの新しい英雄的人物をたたえ、われわれの偉大な党と偉大な指導者の英明な指導をたたえた数多くのすぐれた文学・芸術

作品もつぎつぎとあらわれている。とくに労働者、農民、兵士が壁新聞や黒板新聞に発表したおびただしい詩歌は、内容からいっても、形式からいっても、まったく新しい時代を画するものである。

もちろん、これらはみな社会主義文化革命の初歩的な成果であって、万里の長征の第一歩をふみだしたにすぎない。この成果をまもり、発展させて、社会主義文化革命を最後までやりぬくには、われわれは長期にわたる、なみなみならぬ努力をはらわなければならない。

三、文学・芸術戦線での二つの道の闘争は必然的に軍隊の内部に反映してくるものである。軍隊は真空のなかで生活しているわけではないから、けっしてその例外ではありえない。中国人民解放軍は

中国のプロレタリア階級独裁の主要な道具であり、中国人民と世界の革命的人民のよりどころであり、希望である。人民の軍隊がなければ、革命の勝利もありえないし、プロレタリア階級独裁もありえないし、社会主義もありえないし、人民のすべてもありえない。そのため、敵はかならず各方面からわが軍を破壊しようとするし、かならず文学・芸術という武器を利用して、わが軍を思想的にむしばもうとたくらむものである。ところがあるものは、毛主席が文学・芸術界は十五年らい党の方針を基本的に実行していないと指摘したのちも、部隊での文学・芸術の方向の問題はすでに解決済みであって、主な問題は芸術的水準の向上にあるといっている。こうした見方はあやまっており、具体的な分析を欠いている。実際には、軍隊

の文学・芸術には、方向が正しく芸術的水準も比較的高いものもあれば、方向が正しくても芸術的水準の低いものもあり、政治的方向と芸術的水準のどちらにも重大な欠陥あるいは誤りがあるものもあれば、また反党・反社会主義の毒草もある。八・一映画製作所では「壮丁狩り」のような悪質な映画をつくった。このことは軍隊の文学・芸術活動も程度の差こそあれ、黒い線の影響をうけていることを物語っている。同時に、われわれがみずから養成した、創作面で真に筋金入りの人材はまだ比較的少なく、創作思想の面でも問題がひじょうに多く、組織の面でも不純なものがまだいくらかある。これらの問題にたいして、われわれは適切に分析をくわえ、解決しなければならぬ。

四、社会主義文化革命のなかで、解放軍は重要な役割をはたさなければならぬ。林彪同志が中国共産党中央軍事委員会の仕事を主宰するようになってから、文学・芸術活動にひじょうに力を入れ、多くのひじょうに正しい指示をおこなってきた。中国共産党中央軍事委員会拡大会議の『軍隊の政治・思想工作を強化することについての決議』は、部隊の文学・芸術活動の任務は、「かならず部隊の任務や思想状況と密接にむすびつけて、プロレタリア思想の高揚とブルジョア思想の消滅、および戦闘力の強化と向上に奉仕する」とであるとはっきり規定している。軍隊のなかには、われわれ自身で養成し、革命戦争の鍛練をへた文学・芸術の中堅がだいぶいるし、また一部のすぐれた作品も創作している。したがって、社会主

義文化革命のなかで、解放軍はかならずしかるべき役割をはたし、勇敢に、確固たる態度で、文学・芸術を労働者、農民、兵士に奉仕させ、社会主義に奉仕させるという方針をつらぬき通すためにたたかなければならない。

五、文化革命では、うち破りながらうち立てていかなければならず、指導者がみずから指導してすぐれた模範作品をつくりださなければならぬ。ブルジョア階級には反動的ないわゆる「新しいものを創作するうえで独白」があるが、われわれは新しいものをかかげ、独特なものをうち立てなければならぬ。われわれのいう、新しいものをかかげ、独特なものをうち立てるとは、社会主義の新しいものをかかげ、プロレタリア階級の独特なものをうち立てること

である。労働者、農民、兵士の英雄的人物をつくりあげるようにつとめなければならず、これは社会主義文学・芸術の根本的な任務である。こうした模範作品があり、この面で成功した経験があつてこそ、はじめてわれわれは説得力をもつことができ、陣地をしっかりと占領することができ、また反動派のこん棒をたたきおとすことができるのである。

この問題では、劣等感をもつてはならず、誇りをもつべきである。いわゆる三十年代の文学・芸術にたいする盲信をうち破らなければならぬ。当時、左翼文学・芸術運動は、政治的には王明の「左翼」日和見主義路線をとり、組織的には閉鎖主義、セクト主義をとっていた。その文学・芸術思想は、実際にはロシアのブルジョア文

芸評論家ベリンスキー、チェルヌイシェーフスキー、ドブロリユーボフおよび演劇界のスタニスラフスキーの思想であった。かれらは帝政ロシア時代のブルジョア民主主義者であつて、その思想はマルクス主義ではなく、ブルジョア思想であつた。ブルジョア民主主義革命は、ある搾取階級が他の搾取階級にとつてかわる革命であつて、プロレタリア階級の社会主義革命だけがあらゆる搾取階級を最終的に消滅する革命なのである。したがつて、どのようなブルジョア革命家の思想をも、けつしてわれわれプロレタリア階級の思想運動と文学・芸術運動の指導方針としてはならない。三十年代にも、すぐれたものはあつた。それはほかでもなく、魯迅をはじめとする戦闘的な左翼文学・芸術運動である。三十年代のなかごろにな

ると、当時の左翼の一部の指導者は王明の右翼投降主義路線の影響をうけて、マルクス・レーニン主義の階級的観点にそむき、「国防文学」というスローガンをうち出した。このスローガンはブルジョア階級のスローガンにはかならない。これにたいして、「民族革命戦争の大衆文学」というプロレタリア階級のスローガンは魯迅がうち出したものである。一部の左翼文学・芸術活動家、とくに魯迅は、文学・芸術は労働者、農民に奉仕すべきであり、労働者、農民はみずから文学・芸術を創作すべきであるというスローガンもうち出したが、文学・芸術と労働者、農民、兵士との結合という根本的な問題を体系的には解決しなかつた。当時の左翼文学・芸術活動家の圧倒的多数はやはりブルジョア民族民主主義者であつて、一部のもの

は民主主義革命の関所さえこえることができなかつたし、また一部
のものは社会主義の関所をほんとうにこえてはいない。

中国と外国の古典文学にたいする盲信をうち破らなければなら
ない。スターリンは偉大なマルクス・レーニン主義者であつた。かれ
はブルジョア階級の現代派文学・芸術にひじょうにするどい批判を
くわえたが、ロシアとヨーロッパのいわゆる古典を無批判にうけつ
いで、悪い結果をもたらした。中国の古典的文学・芸術、ヨーロッ
パ（ロシアをふくむ）の古典的文学・芸術、さらにはアメリカ映画
が、わが国の文学・芸術界にあたえた影響は小さくなく、一部のも
のはそれらを經典として全面的にうけいれている。われわれはスタ
ーリンの教訓をくみとるべきである。昔の人や外国の人のものも研

究しなければならず、その研究をこぼむのは誤りである。しかし、
かならず批判の目をもって研究し、昔のものを今に役立て、外国の
ものを中国に役立てるようになければならない。

十月革命ののちにあらわれた、一連の比較的すぐれたソ連の革命
的文学・芸術作品にたいしても、分析をくわえるべきで、盲目的に
崇拜したり、まして盲目的に模倣したりしてはいけない。盲目的な
模倣は芸術にはなりえない。文学・芸術の源は人民の生活以外には
なく、人民の生活だけが文学・芸術の唯一の源である。古今東西の
文学・芸術の歴史的過程はこのことを立証している。

世界ではこれまで新生の勢力が腐敗した勢力にうち勝ってきた。
わが人民解放軍も最初は弱小であつたが、ついには弱小から強大に

なり、アメリカ・蔣介石、反動派にうち勝ったのである。内外のすばらしい革命的情勢と光榮ある任務を前にして、われわれは徹底した革命派としての誇りを感じなければならない。確信をもち、勇氣をふるいおこして、先人がやらなかったことをやらなければならぬ。なぜなら、われわれの革命は搾取階級と搾取制度を最終的に一掃し、人民大衆を毒しているすべての搾取階級のイデオロギーを根底からとりのぞく革命だからである。われわれは党中央と毛主席の指導のもとに、マルクス・レーニン主義、毛沢東思想にみちびかれて、われわれの偉大な国家、偉大な党、偉大な人民、偉大な軍隊の名に恥じない、社会主義の革命的な新しい文学・芸術を創造しなければならぬ。この文学・芸術は人類の歴史に新しい紀元を切りひ

らく、もっとも輝かしい新しい文学・芸術である。

しかし、すぐれた模範作品をつくりあげるのはけっしてなまやさしいことではない。われわれは創作のなかでぶつかる困難にたいしては、戦略的にはかならずそれをべつ視しなければならぬが、戦術的にはかならずそれを重視しなければならぬ。すぐれた作品を創作することはきびしい過程である。創作の指導にあたる同志はけっして上役風を吹かせてはならないし、またけっしていいかげんな態度をとってはならず、創作者と苦楽をともにして、ほんとうにひたむきな努力をはらわなければならない。できるだけナマの材料を手にいれるようにし、それができないばあいでも間接的な材料を手にいれるようにしなければならない。失敗を恐れたり、誤りを犯す

ことを恐れたりしてはならない。失敗を許し、誤りを犯すことを許さなければならぬし、また誤りを改めることを許さなければならぬ。大衆に依拠し、大衆のなかから出て大衆のなかにはいり、長期にわたって実践をくりかえし、善美をつくして、革命的な政治的内容とできるかぎり完全な芸術的形式とを統一させるようにつとめなければならぬ。実践のなかで時をうつつさず経験を総括し、各種の芸術の法則を一步一步把握していかなければならぬ。そうしなければ、すぐれた模範作品をつくりあげることはいかならない。

われわれは社会主義革命と社会主義建設の題材を十分に重視すべきである。このことを無視するのはまったく誤りである。

遼瀋、淮海、平津三大戦役やその他の重要な戦役をあつかう文学・芸術の創作も、これらの戦役を指導し、指揮した同志が健在であるうちに、いそいでとりかからなければならぬ。多くの重要な革命史の題材や現代の題材についていえば、われわれは計画的に、段取りを追ってその創作を組織する必要にせまられている。今南海の長城はかならずりっぱに撮りあげなければならず、今万水千山はかならずりっぱに手をくわえなければならぬ。また、これらの創作をつうじて、真のプロレタリア階級の文学・芸術の中堅となる隊列を養成し、鍛えあげなければならぬ。

六、文学・芸術活動のなかでは、指導者も創作者も党の民主集中制を実行し、「大衆に意見を発表させる」ことを提唱し、「ひとり

できめてしまう」ことに反対し、大衆路線をあゆまなければならぬ。これまで、一部のものは一つの作品を仕上げると、指導者に称賛や認可を強要したが、これはひじょうに悪い作風である。創作の指導にあたる幹部は文学・芸術の創作にたいして、つぎの二点をつねに銘記しておくべきである。第一は広はん大衆の意見によく耳を傾けること、第二はこれらの意見をよく分析して、よいものはいれ、よくないものはとりいれないようにすることである。完全無欠の作品などはない。基調さえよければ、その欠陥や誤りを指摘して、りっぱに改めるようにしなければならぬ。悪い作品はかくしてはならず、それを大衆のまえにもち出して批評させなければならぬ。われわれは大衆を恐れてはならず、断固として大衆を信頼し

なければならぬ。大衆はわれわれに多くの貴重な意見を出してくれるものである。こうすればまた、大衆の識別能力を高めることもできる。一本の映画をつくるには数十万元あるいは百万元もかかる。悪い映画をそのままくしておいたのでは、むざむざ浪費してしまうことになる。それをもち出して上映して、創作者や人民大衆を教育することをなせないのか。そうすれば国家の経済的損失をつぐなうこともでき、思想と経済の両面で大きな収穫が得られるのではないか。映画会兵は城下にせまるゞは長い間上映されたのに、だれも批判していない。「解放軍報」は論文を書いて批判してはどうか。

七、革命的、戦闘的、大衆的な文芸批評を提唱し、少数のいわゆ

る「文芸批評家」（つまり方向をあやまった、軟弱無能な批評家たち）による文芸批評の独占をうち破り、文芸批評の武器を広はんが勞農兵大衆に握らせ、専門批評家と大衆の批評家とを結びつけなければならぬ。文芸批評においては、戦闘性を強化し、無原則的で俗悪なおだてあげに反対しなければならぬ。文風をあらため、わかりやすい短文を多く書くことを提唱し、文芸批評をあいくちや手投げ弾に変えて、二百メートル以内の接近戦での筋入りの腕を磨きあげなければならぬ。もちろん系統的な、理論的にも高い、比較的長い文章も書かなければならぬ。専門用語をならべて人をおどかすことに反対すべきである。こうしてはじめて、いわゆる「文芸批評家」たちの武装を解除することができるのである。『解放軍

報』、『解放軍文芸』は定期的に、または不定期的に文芸批評欄をもうけて、よい作品、または基本的によい作品を熱情をこめて支持しなければならぬ。またその欠点にたいしては善意をもって指摘すればよい。悪い作品にたいしては、原則的な批判をくわえなければならぬ。文芸理論の面における、一部の代表的なあやまった論点や、一部のものが『中国映画発展史』、『中国新劇運動五十年史料集』、『京劇劇目初探』などの本のなかで歴史を偽造し、自分もちあげようとするたくらみ、およびかれらがまきちらした多くのあやまった論点にたいしては、計画をもって徹底的な批判をくわえなければならぬ。われわれは、人からこん棒だとののしられるのを恐れてはならない。われわれのことを単純すぎて乱暴だという意見に

たいしては、分析をくわえる必要がある。われわれのある批判は大
体正しいが、分析に欠け、論拠が不十分で、説得力に乏しい。これ
は改善すべきである。一部の人は認識不足から、はじめのうちわれ
われのことを単純すぎて乱暴だといっているが、やがていわなく
なる。敵がわれわれの正しい批判を単純すぎて乱暴だとのしる
ことにたいしては、かならず断固としてそれをはねかえさなければ
ならない。文芸評論を恒常的な活動とすべきであり、文学・芸術闘
争をくりひろげる重要な方法、つまり党が文学・芸術活動を指導す
る重要な方法とすべきである。正しい文芸評論がなければ、創作を
繁栄させることはできない。

八、文学・芸術の面で外国の修正主義に反対する闘争では、チ
フライのような小物だけをとりえてはならない。大物をとらえるべ
きであり、シヨロホフをとらえ、敢然とかれにぶつかっていくべ
きである。かれは修正主義文学・芸術の元祖である。かれの『静か
なるドン』、『開かれた処女地』、『人間の運命』は、中国の一部
の作家と読者に大きな影響をあたえている。軍隊は一部の人を組織
して、これらの作品を研究し、分析があり、論拠も十分で、説得力
のある批判論文を書いてはどうか。このことは中国にたいし、また
世界にたいしてもひじょうに大きな影響をあたえるであろう。国内
の作品にたいしても、このようにやるべきである。

九、創作方法については、革命的リアリズムと革命的ロマンチシ
ズムとを結びつける方法をとる、ブルジョア階級の批判的リアリズ

ムとブルジョア階級のロマンチズムをとり入れてはならない。

党の正しい路線にみちびかれて、つぎつぎとあらわれた労働者、農民、兵士の英雄的人物、そのすぐれた品性は、プロレタリア階級の階級性の集中的なあらわれである。われわれはあふれるばかりの熱情をかたむけ、あらゆる手をつくして労働者、農民、兵士の英雄像をつくりあげなければならない。典型をつくりあげることについて、毛主席は、「文学・芸術作品に反映されている生活のほうが普通の実際生活にくらべて、より高度で、より強烈で、より集中的で、より典型的で、より理想的で、したがって、より普遍性をもつことができ、また、そうあるべきである」とのべている。実在人物や事実の制約をうけてはならない。一人の英雄が死んではじめて

その英雄について書くというようではいけない。実際には、生きている英雄の方が死んだ英雄よりもはるかに多いのである。だからわれわれの作家は、長期にわたる生活の蓄積のなかから集中的に概括をおこない、さまざまな典型的人物をつくり出すようにしなければならない。

革命戦争を書くばあい、まず戦争の性格をあきらかにし、われわれは正義であって、敵は正義にもとるということをはっきりさせなければならぬ。作品のなかでは、かならずわれわれの刻苦奮闘と英雄的な犠牲をあらわさなければならぬが、同時に革命的英雄主義と革命的楽観主義をあらわさなければならぬ。戦争の残酷さをえがくばあい、戦争の恐ろしさを誇張したり、礼賛したりしては

ならないし、また革命闘争のきびしさをえがくばあい、苦しさを誇張したり、礼賛したりしてはならない。革命戦争の残酷さと革命的英雄主義、革命闘争のきびしさと革命的樂觀主義は、いずれも対立面の統一であるが、かならずなにも矛盾の主要な側面であるかをはつきりさせなければならぬ。そうしないで、この関係をとりちがえたならば、ブルジョア平和主義の傾向が生まれてくる。このほか、人民革命戦争をえがくばあいには、遊撃戦を主とし、運動戦を従とする段階であろうと、また運動戦を主とする段階であろうと、党の指導する正規軍、遊撃隊、民兵の關係、武装した大衆と武装していない大衆との關係を正しくえがかなければならぬ。

題材を選ぶには、生活に深くはいつていき、よく調査・研究しなければならぬ。そうしてはじめて、正しく的確に選ぶことができるのである。シナリオ作家は長期にわたって、無条件に、はげしい闘争生活のなかに深くはいつていくべきであり、監督、俳優、カメラマン、美術担当者、作曲家などの人びとも生活に深くはいつていき、よく調査・研究しなければならぬ。これまで、一部の作品は歴史的事実をねじまげ、正しい路線をあらわさず、もっぱらあやまった路線を書いていた。一部の作品は英雄的人物をとりあげても、みな規律を犯す人物としてえがき、あるいは英雄像をつくりあげても、かれを死なせて、作爲的に悲劇的結末でおわらせている。一部の作品は英雄的人物をえがかず、もっぱら中間的人物、実際には立ちおくれた人物をえがき、労働者、農民、兵士の形象を戯面化し

ている。ところが、敵をえがくばあいには、人民を搾取し、抑圧する敵の階級の本質を暴露せず、はては敵を美化さえしている。また、一部の作品はもっぱら恋愛や低俗な趣味をあつかい、「愛」と「死」は永遠の題材だなどといっている。これらはみなブルジョア的、修正主義的なものであって、断固として反対しなければならぬ。

十、文学・芸術関係の幹部を再教育し、文学・芸術の隊列を再編成すること。全国が解放される前は、歴史的原因によって、われわれプロレタリア階級が敵の支配下で自分の文学・芸術活動家を養成することには、いくらかの困難があった。われわれの教育程度もわりに低く、経験もわりに少なかった。われわれの多くの文学・芸術

活動家はブルジョア階級の教育をうけて養成されたものであり、革命的文学・芸術活動に従事する過程で、一部のものは敵の迫害に耐えられずに革命を裏切るか、あるいはブルジョア思想の腐食に耐えられずに墮落変質してしまった。根拠地において、われわれはかなりの多くの革命的文学・芸術活動家を養成したことがある。とくに『延安の文学・芸術座談会における講話』が発表されたのちには、かれらは正しい方向をもち、労働者、農民、兵士と結びつく道をあゆみ、革命の過程で積極的な役割を果たした。問題は、全国解放後、大都市にはいってから、多くの同志がわれわれの文学・芸術の隊列にたいするブルジョア思想の侵食に抗しきれず、そのため、あるものが前進の途上で落後してしまったことである。われわれの文

学・芸術はプロレタリア階級の文学・芸術であり、党の文学・芸術である。プロレタリア階級の党性の原則は、われわれと他の階級とを区別するもっともはっきりした目じるしである。他の階級の代表人物にもかれらなりの党性の原則があり、しかも、それはひじょうに根づよいものであることを知っておかなければならない。創作思想の面でも、組織路線の面でも、また工作作風の面でも、プロレタリア階級の党性の原則を堅持して、ブルジョア思想の侵食に反対しなければならぬ。ブルジョア思想とは一線を画さなければならず、けっして平和共存してはならない。いま、文学・芸術界に存在しているいろいろな問題は、大多数の人についていえば、それは思想的な認識の問題であり、教育して高める問題である。毛主席の著

作をしんげんに学習し、活学活用し、思想と結びつけ、実際と結びつけ、問題をもって学習しなければならぬ。そうしてこそ、ほんとうに理解でき、精通し、身につけることができるのである。長期にわたって生活に深くはいつていき、労働者、農民、兵士と結びつき、階級的自覚を高め、思想を改造し、名利を追わず、誠心誠意人民に奉仕しなければならぬ。一生涯マルクス・レーニン主義、毛主席の著作を読み、一生涯革命をおこなうよう、われわれの同志を教育しなければならない。とりわけプロレタリア階級の晩節を全うするよう心がけなければならない。晩節を全うするということはなかなか容易なことではないのである。

座談をつうじて、われわれは前にのべた問題にたいして比較的はつきりとした認識をもつようになった。これらの問題にたいする見解は、みな軍隊の文学・芸術活動の実際状況にも合致している。これによってわれわれの自覚は高まり、社会主義文化革命にたいする決意と責任感がつよまった。われわれはひきつづき毛主席の著作をりっぱに学び、しんげんに調査・研究をおこない、試験田をりっぱにつくり、模範作品をみごとにつくって、プロレタリア思想をおこしブルジョア思想をほろぼすこの文化革命闘争のなかで、りっぱに率先的な役割を果たさなければならぬ。

林彪同志が工業・交通戦線での

毛主席著作活学活用

についてかいた手紙

工業・交通部門は政治による統帥、政治の先行を強調しているが、これはひじょうによいやり方であり、労働者階級の政治的自覚の向上にとっても、わが国社会主義建設の強化にとってもひじょうに有益である。このようにすれば、労働者階級の積極性と創意性をいちだんと高めて、われわれの社会主義事業をいっそう盛んにす

ることができる。みなさんが毛主席の著作を大いに学ぶことを、工業・交通部門の全活動方針の第一項目にしているのは、ひじょうに結構なことである。

わが国は偉大なプロレタリア階級独裁の社会主義国で、七億の人口を擁しており、統一された思想、革命的な思想、正しい思想が必要である。それはほかでもなく毛沢東思想である。この思想があつてこそ旺盛な革命的意気^{むっけい}ごみを保つことができ、確固とした正しい政治的方向をもつことができるようになる。

毛沢東思想は、国内、国際の階級闘争の客観的法則を反映しており、プロレタリア階級、勤労人民の根本的利益を反映している。毛沢東思想は、勤労人民が自然発生的に生み出したものではなく、

毛主席が偉大な革命的实践を基礎として、天才的にマルクス・レーニン主義の思想をうけつぎ発展させたものであり、国際共産主義運動の新しい経験を総合して、マルクス・レーニン主義をまったく新しい段階に高めたものである。

したがって、毛主席の著作の活学活用をつうじて、毛主席の思想を労働者、農民のなかにそそぎこまなければならぬ。そうしてはじめて、勤労人民の精神的様相を改めることができ、精神的力を巨大な物質的力に転化させることができるのである。

ここ数年らい、工業・交通部門はこのようにやり始めているが、今回の工業・交通部門の会議は、さらにその経験を総括して、新しいやり方を提起した。これによっていちだんと効果があがるにちが

いない。

林 彪

一九六六年三月十一日

プロレタリア文化大革命を祝う
大衆大会における林彪同志の演説

(一九六六年八月十八日)

同志のみなさん、学生のみなさん

わたしはまず、わたしたちの偉大な指導者毛主席を代表して、みなさんにあいさつをおくりします。また、わたしは党中央を代表して、みなさんにあいさつをおくりします。

わたしたちは、あなたがたの、大胆に突進し、大胆におこない、

大胆に革命をやり、大胆に造反するプロレタリア階級の革命的精神を、断固として支持します。

今回のプロレタリア文化大革命の最高司令官はわたしたちの毛主席です。毛主席が統帥者です。わたしたちが偉大な統帥者の指揮のもとに、わたしたちの統帥者——毛主席の教えによくしたがうなら、文化大革命はかならず順調に発展し、かならず偉大な勝利をかちとることができるにちがありません。

毛主席の提起したプロレタリア文化大革命は、共産主義運動におけるはじめての偉大な壮挙であり、社会主義革命のはじめての偉大な壮挙であります。

プロレタリア文化大革命は、ブルジョア思想を消滅し、プロレタ

リア思想をうち立て、人の魂を改造し、人の思想の革命化を実現し、修正主義の根をとりのぞき、社会主義制度を強化し、発展させるものなのです。

わたしたちは資本主義の道をあゆむ実権派をうち倒し、ブルジョア階級の反動的な権威者をうち倒し、すべてのブルジョア王党派をうち倒し、革命に圧迫をくわえる種々さまざまな行為とたたかい、あらゆる妖怪変化をうち倒さなければなりません。

わたしたちは、搾取階級のあらゆる旧思想、旧文化、旧風俗、旧習慣を大いにうちこわし、社会主義の経済的土台に適應しないあらゆる上部構造を改革しなければなりません。わたしたちは、すべての害虫を退治し、すべての足手まといをとりのぞかなければなりません。

せん。

わたしたちは、プロレタリア階級の權威を大いにうち立て、プロレタリア階級の新思想、新文化、新風俗、新習慣を大いにうち立てなければなりません。ひと言でいえば、毛沢東思想を大いにうち立てなければならぬということです。わたしたちは、なん億という人民に毛沢東思想を掌握させ、毛沢東思想にあらゆる思想の陣地を占領させ、毛沢東思想によって社会全体の精神的様相をあらため、毛沢東思想という偉大な精神的力が偉大な物質的力に変わるようにしなければなりません。

今回の文化大革命は、わたしたちの党と国家の運命にかかわる大事であり、わたしたちの党と国家の前途にかかわる大事でありま

す。

この文化大革命をりっぱにやりとげるために、わたしたちはなにしたよるのでしょうか。偉大な毛沢東思想にたより、大衆の知恵と力にたよるのです。

毛主席は、現代におけるプロレタリア階級のもっともすぐれた指導者であり、現代におけるもっとも偉大な天才であります。毛主席は、もっとも大衆を信頼し、もっとも大衆に関心をよせ、もっとも大衆の革命運動を支持しており、毛主席の心は革命的大衆の心とかけなく結びついています。

毛沢東思想は、マルクス・レーニン主義の発展におけるまったく新しい段階であり、現代最高の水準のマルクス・レーニン主義であ

り、人びとの魂を改造する現代のマルクス・レーニン主義であり、プロレタリア階級のもっとも強力な思想的武器であります。

人民大衆は歴史の創造者です。人民大衆は毛沢東思想を掌握すれば、もっとも聡明で、もっとも勇敢になり、限りない力を発揮することができます。

わたしたちは、毛主席のすぐれた指導をうけ、毛沢東思想というこのもっとも鋭い武器を掌握すれば、あらゆる障害をとりぞき、すべての敵にうち勝ち、プロレタリア文化大革命の完全な勝利をかちとることができるのです。

最近、党中央が公布した『プロレタリア文化大革命についての決定』は、偉大な指導者毛主席がみずから主宰して制定されたもので

あり、プロレタリア文化大革命の偉大な綱領であり、毛沢東思想の最新の具体的あらわれであります。わたしたちは、かならず断固としてこの決定どおりに事をはこび、思いきって大衆を立ちあがらせ、なにもかもひきうけて代行することにあくまで反対し、確固として革命的左派に依拠し、中間派を獲得し、大多数の人びとと団結し、力を集中して、ひとにぎりのもっとも反動的な右派に打撃をあたえ、プロレタリア文化大革命を最後までおしすすめなければなりません。

文化大革命は長期の任務です。その間には、大きな戦役もあれば、小さな戦役もあり、それはひじょうに長い期間にわたってつづけられるでしょう。ブルジョア思想が存在するかぎり、わたしたち

はどこまでも戦わなければならず、最後まで戦いつづけなければなりません。

今回は大きな戦役であり、ブルジョア階級およびあらゆる搾取階級の思想にたいする総攻撃です。わたしたちは、毛主席の指導のもとに、ブルジョア階級のイデオロギーや旧風俗、旧習慣の力にたいして、猛烈な攻撃をくりひろげなければなりません。また、反革命修正主義分子、ブルジョア右派分子、ブルジョア階級の反動的な権威者を徹底的にうち倒し、たたきつぶし、かれらの威風をうちほらい、永久に立ちあがれないようにしなければなりません。

プロレタリア文化大革命万歳！

偉大な中国人民万歳！

偉大な中国共産党万歳！

偉大な毛沢東思想万歳！

偉大な指導者毛主席万歳！ 万歳！ 万万歳！

各地から上京した革命的教員・学生と
会見するための大会における

林彪同志の演説

(一九六六年八月三十一日)

同志のみなさん、学生のみなさん、紅衛兵戦士のみなさん

わたしは、わたしたちの偉大な教師、偉大な指導者、偉大な統帥者、偉大な舵手毛主席を代表して、各地からきた学生のみなさんにあいさつをおくります。あいつをおくりません。参会者のみなさんにあいさつをおくりません。わたしはまた、党中央を代表してみなさんにあいさつをおくり

ます。

学生のみなさん、あなたがたは北京にきて、北京の革命的教員・学生と、文化大革命の経験を交流しました。みなさん、ご苦労さまでした。わたしたちは、みなさんが帰ってから、かならずいっそうりっぱに毛主席の指示にしたがい、党中央の十六カ条（すなわち「中国共産党中央委員会のプロレタリア文化大革命についての決定」＝訳注）にしたがい、すべての阻害する力をつき破り、さまざまな困難をのりこえて、プロレタリア文化大革命をいっそうすさまじい勢いでくりひろげるものと信じています。

当面のプロレタリア文化大革命の情勢は、ひじょうにすばらしいものです。

紅衛兵および他の青少年の革命組織は、まるで雨後の竹の子のように発展しています。かれらは街頭にくり出て、「四旧」（旧思想、旧文化、旧風俗、旧習慣＝訳注）を一掃しています。文化大革命は、すでに政治にふれ、経済にふれるにいたっています。学校での闘争・批判・改革が、すでに社会での闘争・批判・改革にまで発展しています。大衆の革命的奔流は、旧社会が残してきたあらゆるきかない泥やけがれた水を洗いさり、わが国社会の全貌をすっかり改めつつあります。

革命的少勇将のみなさん、毛主席と党中央は、あなたがたの、大胆に考え、大胆にのべ、大胆におこない、大胆に突進し、大胆に革命をやるプロレタリア階級の革命的精神を熱烈に賞賛しています。

あなたがたはたくさんのよい事をし、たくさんのよい提案をしました。わたしたちはたいへん喜んでおり、熱烈にあなたがたを支持します。そして、あなたがたを抑圧することに断固反対します。あなたがたの革命的行動は実にすばらしいものです。わたしたちはあなたがたに歓呼の声をおくり、あなたがたに敬意を表します。

同志のみなさん、学生のみなさん

わたしたちは、かならず毛主席の教えにしたがって、大胆にたたかい、大胆に革命をやり、りっぱにたたかい、りっぱに革命をやらなければなりません。わたしたちは毛沢東思想をプロレタリア文化大革命の指針とし、真剣に、全面的に、徹底的に、完全に十六カ条をつらぬかなければなりません。

わたしたちは、かならず毛主席の教えにしたがって、だれがわたしたちの敵であり、だれがわたしたちの友であるかを、はっきりと区別しなければなりません。そして、大多数の人びとと団結し、力を集中して、ひとにぎりのブルジョア右派分子に打撃をあたえるよう注意しなければなりません。打撃の重点、それは党内にもぐりこんだ資本主義の道をあゆむ実権派です。かならずこの闘争の大方向をつかまなければなりません。

わたしたちは、かならず毛主席の教えにしたがって、文闘をおこなうべきであって、武闘をおこなうべきではありません。手をだして人をなぐってはなりません。資本主義の道をあゆむ実権派と闘争するばあいも、地主分子、富農分子、反革命分子、悪質分子、右派

分子と闘争するばあいも、そのとおりです。武闘は、肉体にふれるだけです。文闘によってはじめて魂にふれることができますのです。文闘をおこない、あますところなく暴露し、深くつっこんで批判してこそ、かれらの反革命の正体を徹底的にあばき出し、かれらを最大限に孤立させ、鼻持ちならぬものにし、たたきつぶし、うち倒すことができるのです。

各大学、中等学校の紅衛兵および他の青少年の革命組織は、文化大革命の急先鋒であり、人民解放軍の強大な予備軍です。

学生のみなさん、紅衛兵戦士のみなさん、あなたがたは永遠に党に忠実であり、人民に忠実であり、毛主席に忠実であり、毛沢東思想に忠実でなければなりません。そして、毛主席の著作の活学活用

に努力し、運用に思いきり力をいれなければなりません。また、誠心誠意人民に奉仕し、大衆と緊密に結びつき、党の政策を模範的に実行し、人民の利益をまもり、国家の財産を大切にし、三大規律・八項注意をまもらなければなりません。

学生のみなさん、わたしたちがしんげんに毛主席の著作を読み、毛主席の教えにしたがい、毛主席の指示どおりに仕事をしさえすれば、プロレタリア文化大革命はかならず偉大な勝利をかちとることができるのです。帝国主義、現代修正主義、すべての反動派を、わたしたちの勝利のまえにふるえあがらせましょう。

プロレタリア文化大革命万歳！

中国共産党万歳！

無敵の毛沢東思想万歳！
偉大な指導者毛主席万歳！ 万歳！ 万万歳！

全国各地から上京した革命的教員・

学生と会見するための大会における

林彪同志の演説

(一九六六年九月十五日)

同志のみなさん、学生のみなさん、紅衛兵戦士のみなさん
あなたがたは、プロレタリア文化大革命をりっぱにやりぬくため
に、全国各地から北京に、わたしたちの偉大な指導者毛主席のそば
にきました。ご苦労さまでした。わたしは、毛主席を代表し、党中
央を代表して、あなたがたにあいさつをおくります。わたしたちは

あなたがたを熱烈に歓迎します。

わが国のプロレタリア文化大革命は、毛主席の指導のもとに、毛主席が主宰して制定された十六カ条を指針として、いま、全国で勝利のうちに発展しています。情勢はひじょうにすばらしく、ますますすばらしくなっています。

紅衛兵戦士のみなさん、革命的學生のみなさん、あなたがたの闘争の大方向は終始正しいものです。毛主席と党中央はあなたがたを断固支持しています。広はんな労働兵大衆もあなたがたを断固支持しています。あなたがたの革命的な行動は、社会全体をゆり動かし、ふるい世界が残してきた残さいをゆり動かししました。あなたがたは「四旧」を大いにうちこわし、「四新」(新思想、新文化、新

風俗、新習慣) 詛注) を大いにうちたてるたたかいのなかで、輝かしい戦果をあげました。あなたがたは、資本主義の道をあゆむ実権派、ブルジョア階級の反動的「権威者」、吸血鬼や寄生虫どもをあわてふためかせました。あなたがたは正しいことをやっており、それをりっぱにやっています。

毛主席は、プロレタリア文化大革命が解決しなければならぬ根本的な矛盾は、プロレタリア階級とブルジョア階級の二つの階級、社会主義と資本主義の二つの道の矛盾であると、わたしたちに教えています。今回の運動の重点は、党内の例の資本主義の道をあゆむ実権派と闘争することです。司令部を砲撃するとは、つまり、ひとにぎりの資本主義の道をあゆむ実権派を砲撃することです。わたし

たちの国家はプロレタリア階級独裁の社会主義国家です。わたしたちの国家の指導権はプロレタリア階級の手にながられています。ひとにぎりの資本主義の道をあゆむ実権派を闘争によってうち倒すのは、まさに、わたしたちのプロレタリア階級独裁をうちかため、強化するためであります。ひとにぎりの反動的なブルジョア分子、まだよく改造されていない地主分子、富農分子、反革命分子、悪質分子、右派分子など五種類の分子はわたしたちとは違い、プロレタリア階級を先頭とする広はんな革命的人民大衆のかれらにたいする独裁に反対し、わたしたちプロレタリア階級の革命的な司令部を砲撃しようとしていることは、明らかであります。わたしたちのかれらがそうするのを許すことができるでしょうか。できません。わたし

たちはこれら妖怪変化の陰謀詭計を粉碎し、かれらを見破らなければならず、かれらの陰謀を実現させてはなりません。かれらはほんのひとにぎりにすぎませんが、ときにはいちぶのよい人たちをだますこともできます。わたしたちにはかならず闘争の大方向をしっかりとつかんでいなければなりません。この大方向から離れば、あやまった道をあゆむことになります。

プロレタリア文化大革命のなかで、広はんな労働兵大衆と革命的学生の目標は共通しており、方向は一致しています。みんなは毛沢東思想の旗じるしのもとに団結し、手をたずさえて前進しなければなりません。

いま、いちぶの人びとは、毛主席の指示にそむき、十六カ条にそ

むいて、労農大衆の党と毛主席にたいする深い階級的感情を利用して、労農大衆と革命的學生との対立をつくり出し、労農大衆をそのかして革命的學生とたたかわせています。わたしたちはけっしてかれらの手にのつてはなりません。

毛主席をはじめとする中国共産党の指導下にある労農兵大衆は、これまでずっとわが国の革命の主力軍でした。こんにち、かれらはわが国の社会主義革命と社会主義建設の主力軍であり、また、わが国のプロレタリア文化大革命の主力軍でもあります。

わたしたち労農兵大衆は、かならず毛主席の教えにしたがい、生産の部署をしっかりと守り、戦闘の部署をしっかりと守らなければなりません。断固として革命的學生の側に立ち、かれらの革命的な

行動を支持し、かれらの力づよい後だてにならなければなりません。

紅衛兵とすべての革命的青少年は、わが国人民のすぐれた子女です。あなたがたは労農兵に学ばなければなりません。かれらのもっとも断固とした革命的立場、もっとも徹底した革命的精神に学ばなければなりません。かれらの高度の組織性、規律性とすべてのすぐれた品性を学ばなければなりません。労農兵のように、永遠に毛主席に忠実であり、毛沢東思想に忠実であり、党に忠実であり、人民に忠実であり、革命闘争のあらしのなかで、自分をプロレタリア革命事業の継承者に鍛えあげなければなりません。

わたしたちの偉大な指導者、偉大な教師、偉大な統帥者、偉大な

舵手毛主席の指導のもとに、毛沢東思想の旗じるしのもとに、労農兵大衆と革命的學生は団結し、すべての革命的同志は団結して、プロレタリア文化大革命を最後までおしすすめましょう。

プロレタリア文化大革命万歳！

偉大な中国共産党万歳！

無敵の毛沢東思想万歳！

偉大な指導者毛主席万歳！ 万歳！ 万万歳！

中華人民共和国成立十七周年

祝賀大会における

林彪同志の演説

(一九六六年十月一日)

同志のみなさん、友人のみなさん

きょうは中華人民共和国成立十七周年の偉大な祝日です。わたしは、わたしたちの偉大な指導者毛主席を代表し、党中央を代表し、

中華人民共和国政府を代表して、全国の労働者・農民・兵士、全国の革命的教員・学生、革命的紅衛兵とその他の戦闘的な青少年組

織、全国各民族の革命的人民、全国の革命的幹部に、もつとも熱烈なあいさつをおくりまします。また、世界各国から来られた友人のみなさんに、ここからの歓迎の意を表します。

中華人民共和国が成立してから十七年になりますが、これは平凡でない十七年でした。わが国では、天地をくつがえすような十七年でした。世界でも、天地をくつがえすような十七年でした。

毛沢東同志は、わが国の人民を指導して革命をおこなない、かぎらずの困難にみちた、曲がりくねった道をあゆんできました。国内外の敵は強大でしたが、ついに中国人民にうち倒され、追い出されました。アメリカをかしらとする帝国主義者、すべての反動派、現代修正主義者——これらのハリコの虎はみな、中国人民と各国の革命

的人民によってつき破られました。

中国人民は、わずか十七年のあいだに過去の様相をまったくあらためました。これは、毛沢東同志に指導された中国人民大衆の偉大な功績です。わたしたちは、全世界のすべての被抑圧人民と被抑圧民族が自国の状況にもとづいて自分の道をあゆみ、中国人民のよう最後の勝利をかちとるものとかく信じております。

きょう、わたしたちはプロレタリア文化大革命の高まりのなかで、この偉大な祝日を祝っております。このプロレタリア文化大革命は、プロレタリア階級が権力を奪いとったのちにおすすめてい、まったく新しい創造的な大革命です。この大革命で、党内のひとにぎりの資本主義の道をあゆむ実権派を闘争によってたたきつぶ

し、社会のすべての妖怪変化を一掃し、搾取階級の四旧をうちこわし、プロレタリア階級の四新をうち立てなければなりません。その目的は、プロレタリア階級独裁をさらに強固なものにし、社会主義制度をさらに発展させることにあります。国際プロレタリア階級独裁の歴史的経験がわたしたちに教えているように、もし、わたしたちがそのようにしないならば、修正主義の支配があらわれ、資本主義の復活がおこるでしょう。わが国に、もし、このような状況があらわれたならば、植民地・半植民地、封建・半封建のふるい道に逆もどりしてしまい、帝国主義と反動派がまたび人民の頭上にのさばりかえるでしょう。わたしたちのこの文化大革命の重要性は、ひじょうにはつきりとしています。

いま、なん億という人民大衆が立ちあがっています。革命的人民は意気さかんであり、反動的ブルジョア階級は威風をたたきおとされています。わたしたちはいま前進しつつあります。わたしたちはすでに偉大な勝利の局面の基礎をかためたのです。

プロレタリア文化大革命は、人びとの思想の革命化をうながし、それによって、わが国の社会主義的生産を発展させる強大な推進力となっています。ことしは第三次五カ年計画の最初の年です。ことしの工業生産計画は、超過達成できる見込みであり、農業は、また好収穫をあげることでしょう。わが国の科学・技術は、いま、新しい高峰を目ざしつつあります。わたしたちの偉大な祖国は、これほど栄えたことがなく、これほど活気にみちあふれたことがありません。

ん。わたしたちの国防も、これほど強大になったことがありません。

毛主席が早くから指摘されているように、社会主義の歴史的時期全体をつうじて、プロレタリア階級とブルジョア階級とのあいだの階級闘争が存在し、社会主義と資本主義との二つの道の闘争が存在しています。プロレタリア文化大革命は、この二つの階級、二つの道の闘争の新しい段階にほかなりません。プロレタリア文化大革命のなかで、毛主席に代表されるプロレタリア階級の革命路線とブルジョア階級の革命反対の路線との闘争は、いまひきつづきおこなわれています。誤った路線にしがみついている人びとはほんのひとりにすぎず、かれらは、人民から浮きあがり、人民に反対し、

毛沢東思想に反対しているのです、かならず失敗する運命にあります。

同志のみなさん、友人のみなさん。いま、世界はじつにすばらしい情勢にあります。ここ数年らいの世界の大激動は、アメリカをかしらとする帝国主義者、現代修正主義者、各国反動派の寿命が長くないことを物語っています。

アメリカ帝国主義は、世界戦争をひきおこすことによってなんとか活路を見いだそうとしています。わたしたちはこれに真剣に対処しなければなりません。当面のたたかいの焦点はベトナムにあります。わたしたちはすでにあらゆる準備をととのえています。わたしたちは最大の民族的犠牲をほらっても、兄弟のベトナム人民が抗米

救国戦争を最後までやりぬくの断固支持する決意です。アメリカをかしらとする帝国主義者と、ソ連共産党指導部を中心とする現代修正主義者は、いま、ぐるになって悪事をはたらいており、和平交渉の欺まんの陰謀をさかんにすすめています。かれらのねらいは、ベトナム人民の反米民族革命戦争の烈火を消しとめ、アジア、アフリカ、ラテンアメリカ諸国の民族革命闘争の烈火を消しとめ、世界革命の烈火を消しとめることにあります。全世界人民が大きく目を見ひらいておれば、かれらの陰謀はけっして実現するものではありません。二十年前に毛主席がのべられたように、全世界人民はアメリカ帝国主義に反対する統一戦線を結成して、アメリカ帝国主義をうちやぶらなければなりません。世界各国の革命的人民

は、いま、この道を進みつつあります。

毛主席は、「全世界人民は勇気もち、敢然とたたかい、困難をおそれず、あとからあとと身を挺してつき進んでゆくべきであり、そうすれば、全世界はかならず人民のものである。すべての悪魔はのこらず一掃されるであろう」とのべています。世界の前途は、かならずこのようになるでしょう。

中国人民は、ひきつづき、マルクス・レーニン主義の旗を高くかけ、プロレタリア国際主義の旗を高くかけて、全世界のマルクス・レーニン主義者、各国の革命的人民とともに、アメリカ帝国主義とその手先に反対するたたかいを最後までやりぬき、ソ連共産党指導部を中心とする現代修正主義に反対するたたかいを最後までや

りぬきます。

同志のみなさん、友人のみなさん

わたしたちのすべての成果、すべての勝利はみな、毛主席のすぐれた指導のもとでかちとられたものであり、毛沢東思想の勝利であります。わたしたちは、毛沢東思想で全党の思想を統一し、全国の人民大衆の思想を統一しなければなりません。わたしたちは、かならず、毛沢東思想の偉大な赤旗を高くかけ、毛主席の著作を活学活用する大衆運動を全国で一步すすんでくりひろげなければなりません。わたしたちは、全国を毛沢東思想の大きな学校にしなければなりません。わたしたちは、偉大な祖国をさらに強大で、さらに繁栄した国にきざきあげなければなりません。これは、わが国の人民

が必要としていることであり、また、世界各国の人民がわたしたちにかけている希望でもあります。

中国の各民族人民万歳！

世界人民の大団結万歳！

中華人民共和国万歳！

中国共産党万歳！

無敵の毛沢東思想万歳！

偉大な指導者毛主席万歳！ 万歳！ 万万歳！

全国各地から上京した革命的教員・

学生と会見するための大会における

林彪同志の演説

(一九六六年十一月三日)

学生のみなさん、同志のみなさん、紅衛兵戦士のみなさん

プロレタリア文化大革命の新たな高まりが全国的にもり上がって
いるとき、みなさんは、偉大な指導者毛主席にたいする限りない熱
愛と限りない忠誠の心をいだいて、毛主席に会見し、同時に革命の
経験を交流するために、北京にきました。わたしは、毛主席を代表

し、党中央を代表して、みなさんにもっとも熱烈な歓迎の意を表します。

毛主席は、きょう、みなさんとの会見をひじょうに喜んでおられます。ここ二ヶ月余りの間に、毛主席は、全国各地からきた革命的教員・学生、紅衛兵と、国慶節をふくめて、六回も会見されるわけです。毛主席は、もっとも偉大なプロレタリア革命家であり、いつも大衆とともにあって、十分に大衆を信頼し、大衆と心を一つにし、運命とともにし、全身全霊をかたむけて革命的な大衆運動を支持されています。毛主席は、全党の同志たち、若い世代のために、もっとも輝かしい手本をうち立てました。

現在、プロレタリア文化大革命の情勢は、ひじょうにすばらしいものです。きわめて大規模な大衆運動がすさまじい勢いでもり上がり、日一日と深まっています。社会全体の様相にも、人びとの精神の様相にも、それぞれ大きな変化がおこりました。偉大な毛沢東思想は、いっそう広まり、いっそう深く人びとの心に浸透しています。毛主席の「革命に力をいれて、生産をうながす」という呼びかけのもとに、文化大革命は、人びとの思想の革命化をうながし、工業生産と科学・技術の飛躍的發展をおしすすめました。さいきんのミサイル核兵器発射実験の成功は、毛沢東思想の偉大な勝利であり、プロレタリア文化革命の偉大な勝利であります。

党の第八期中央委員会第十一回総会は、毛主席に代表されるプロレタリア革命路線の勝利を告げ、ブルジョア反動路線の破産を宣告

しました。ここ二ヵ月余りの間に、毛主席の正しい路線は、広はんな大衆の前に明らかにされ、広はんな大衆に把握されて、誤った路線にたいする批判がくりひろげられてきました。国家の大事に関心をもたなければならぬという毛主席の呼びかけは、ほんとうに、広はんな大衆の行動になりました。これは実にすばらしいことです。これはプロレタリア文化大革命を最後までやりぬくための重要な保証です。

毛主席の路線は、大衆に自分で自分を教育させ、自分で自分を解放させる路線であり、まず「敢然」を第一とする路線であり、大胆に大衆を信頼し、大胆に大衆に依拠し、大胆に思いきって大衆を立ちあがらせる路線であります。これは党の大衆路線を文化大革命の

なかに運用し、新たに発展させたものであります。これはプロレタリア文化大革命の路線であります。

ブルジョア路線は、大衆路線に反対するものであり、大衆が自分で自分を教育し、自分で自分を解放することに反対する路線であり、大衆をおさえつけ、革命に反対する路線であります。このブルジョア反動路線は、闘争のほこ先を、党内のひとにぎりの資本主義の道をあゆむ実権派と社会における妖怪変化にむけるのではなく、反対に、革命的な大衆にむけ、さまざまな方式で大衆をそのかして大衆とたたかわせ、学生をそのかして学生とたたかわせています。毛主席のプロレタリア革命路線は、ブルジョア反動路線と絶対にあいられないものです。ブルジョア反動路線を徹底的に批判し、こ

の路線の影響をとり除かないかぎり、毛主席の路線を正しく、完全に、徹底的に実行することはできません。

毛主席の正しい路線にみちびかれて、わが国の広はんな革命的大衆は、プロレタリア階級独裁のもとで大民主を発展させる新たな経験を生みだしました。このような大民主とは、ほかでもなく、党がなにも恐れることなく、大鳴（大いに見解をのべること＝訳注）、大放（思うぞんぶん意見を発表すること＝訳注）、大字報、大弁論、大交流などの方式を広はんな大衆に運用させて、党と国家の各級の指導機関、各級の指導者を批判させ、監督させることです。同時にそれは、パリ・コンミュニョンの原則にしたがって、人民の民主的権利を十分に実現することです。こうした大民主がなければ、ほんと

うのプロレタリア文化大革命をおこすことはできず、人びとの魂の奥底にふれる大革命を実現することはできず、プロレタリア文化大革命を深く掘りさげて徹底させることはできず、修正主義の根をとり除くことはできず、プロレタリア階級独裁を強固にすることはできず、わが国が社会主義、共産主義の道にそって前進するのを保証することはできません。このような大民主は、毛沢東思想を広はんな大衆と結合させる新たな形式であり、大衆が自分で自分を教育する新たな形式であります。このような大民主は、プロレタリア革命とプロレタリア階級独裁にかんするマルクス・レーニン主義の学説にたいする毛主席の新たな貢献であります。

国際プロレタリア階級独裁の歴史的経験が証明しているように、

このような徹底的なプロレタリア文化大革命をおこなわないならば、また、このような大民主を實行しないならば、プロレタリア階級独裁は弱まり、変質し、資本主義がさまざまな形式で復活し、搾取階級がふたたび人民の頭上にのさばることになるのです。

このような大民主は、指導者と大衆のあいだで徹底的に實行されなければならぬだけでなく、大衆のなかでも、大衆相互間でも、完全に、徹底的に實行されなければなりません。大衆のあいだに、このような大民主がなく、話し合いがうまくやられず、異なった意見に耳を傾けることがうまくやられず、事実をならべて道理を説くことがうまくやられず、頭をはたらかせて問題を考えることがうまくやられなければ、大衆は、自分で自分を教育し、自分で自分を解放

することはできず、左派の隊列を發展させ、大多数を結集して、ひとにぎりのブルジョア右派を孤立させるといふ目的を達成することはできず、われわれの偉大な教師——毛主席が提起したプロレタリア文化大革命の路線を忠実に實行することができません。

毛主席は、同志たちが徒歩で革命の交流をおこなうことを支持しています。徒歩による革命交流の長所は、広く大衆と接触し、社会の各方面と接触し、社会主義社会の階級闘争をいっそう深く理解することができることにあります。また、労働者、農民にいっそうよく学び、いっそう広い範囲にわたって毛沢東思想を広めることができることにあります。この方法をとれば、革命的教員・学生が毛沢東思想をいっそうよく会得し、毛主席の正しい路線をいっそう

よく会得するうえで、大いに役立ちます。もちろん、このような徒歩による革命交流は計画的に、組織的に、準備をもっておこなわれなければなりません。

党中央は、プロレタリア文化大革命がすでに数カ月の経験をつみあげたので、今後もいっそうりっぱにすすめられ、いっそう大きな成果をかちとるものと信じています。

毛沢東思想の偉大な旗じるしのもとに前進しよう！

毛主席の路線の勝利万歳！

プロレタリア文化大革命の勝利万歳！

中国共産党万歳！

毛主席万歳！ 万歳！ 万万歳！

中華人民共和国成立十八周年

祝賀大会における

林彪同志の演説

(一九六七年十月一日)

同志のみなさん、友人のみなさん

きょうは中華人民共和国成立十八周年にあたります。この輝かしい祝日に、わたしは、わたしたちの偉大な指導者毛主席を代表し、党中央を代表し、中華人民共和国政府を代表し、党中央軍事委員会を代表し、党中央文化革命小組を代表して、全国の労働者のみなさ

ん、農民のみなさん、人民解放軍の指揮員・戦闘員のみなさんに、全国の紅衛兵のみなさんに、全国の革命的幹部、革命的知識分子のみなさんに、また全国の各民族人民のみなさんに、もつとも熱烈なあいさつをおくります。そして、世界各国から来られた同志のみなさん、友人のみなさんに、心から歓迎の意をあらわします。

きょう、わたしたちはプロレタリア文化大革命が偉大な勝利をおさめているとき、また国内外に一面のすばらしい情勢があらわれているときに、中華人民共和国成立十八周年を祝っています。

毛主席がみずからおこし、みずから指導しているプロレタリア文化大革命運動は、全中国に普遍的に広がっています。何億という人民が立ちあがっています。首都から辺境にいたるまで、都市から農

村にいたるまで、工場の職場から労働者の家庭にいたるまで、十いくつの子供から白髪の人老にいたるまで、みな国家の大事に関心をよせ、プロレタリア階級独裁を固め、強化することに関心をよせています。これまでの大衆運動で、今回のように広く、深く大衆が動員されたことはありません。広はんな労働大衆、広はんな人民解放軍の指揮員・戦闘員、広はんな紅衛兵、広はんな革命的幹部と革命的知識分子は、この一年らしい闘争をつうじて、一步一步連合し、堂々たる革命の大軍をつくりあげました。かれらは、毛主席をはじめとする党中央の指導のもとに、中国のフルシチョフをかしらする党内のひとにぎりの資本主義の道をあゆむ実権派を徹底的にたたきのめし、全面的に崩壊させています。

中国のプロレタリア文化大革命に肝をつぶしたアメリカ帝国主義、ソ連修正主義、各国反動派は、かつてこの大革命がわが国の国民経済を混乱させることに期待をかけていました。しかし、事實は、これらの旦那がたの願いととはまったく逆でした。プロレタリア文化大革命は生産力をいちだんと解放しました。わたしたちの工業生産の勝利の吉報が、いま、ひっきりなしに伝わってきています。わたしたちの農業は連続六年目の好収穫をあげました。わたしたちの市場は活気にあふれ、物価は安定しています。わが国が水素爆弾の実験に成功したことは、わが国の科学・技術が新たな発展水準にたつたことを示しています。さらに重要なことは、今回の文化大革命が、大衆を教育し、青年を教育し、大いに全国人民の思想の革

命化を促進し、各民族人民の大団結を促進し、幹部を鍛え、人民解放軍の全指揮員・戦闘員を鍛えたことです。わたしたちの偉大な祖国が、今日のように強大になったことはかつてありませんでした。

わたしたちのプロレタリア文化大革命は、すでに決定的な勝利をおさめています。これは国際共産主義運動の歴史において、プロレタリア階級独裁の国家で、プロレタリア階級のみずからおこした最初の大革命です。これは毛主席がマルクス・レーニン主義にもたらした天才的、創造的、画期的な、新しい発展です。

わたしたちは毛主席の偉大な呼びかけにこたえ、組織面からブルジョア階級司令部を徹底的にたたきつぶさなければならぬだけで

なく、また、より広はんな、より深刻な革命的大批判をくりひろげ、中国のフルシチョフをかしらとする党内のひとにぎりの資本主義の道をあゆむ実権派を、政治、思想、理論の各面から批判してうち倒し、鼻持ちならないものにし、かれらを永遠に立ちあがれないようにしなければなりません。こうした大批判は、それぞれの単位の闘争・批判・改革とむすびつけて、毛沢東思想の偉大な赤旗をすべての陣地にくまなくおし立てなければなりません。

わたしたちの当面しているもっとも重要な任務は、毛主席の教えにしたがい、毛主席のプロレタリア階級独裁のもとにおける革命についての理論、路線、方針、政策にもとづき、毛主席のさし示した革命闘争の大方向をしっかりとつかみ、毛主席の戦略配置にしか

りとしたがって、革命的大批判のなかで、それぞれの単位の闘争・批判・改革とむすびつけながら、革命的大連合を強化、発展させ、革命的三結合を強化、発展させ、それぞれの単位の闘争・批判・改革をうばにやりとげ、プロレタリア文化大革命を最後までおしすすめることです。

さいきん、毛主席はわれわれに、私心とたたかい、修正主義を批判しなければならぬと指示しました。私心とたたかうとは、マルクス・レーニン主義、毛沢東思想を運用して、自分の頭のなかにある「私」とたたかうことです。修正主義を批判するとは、マルクス・レーニン主義、毛沢東思想を運用して、修正主義に反対し、党内のひとにぎりの資本主義の道をあゆむ実権派と闘争すること

す。この二つの事がらは互いにつながっているものであり、闘争によって十分に「私」をとりのぞかなければ、修正主義反対の闘争をいっそうりっぱにやりぬくことはできません。わたしたちは毛主席の偉大な呼びかけにこたえ、「私心とたたかい、修正主義を批判する」ことをかなめにして、軍隊の幹部、地方の幹部、紅衛兵にたいする思想教育を強化しなければなりません。いろいろな学習班を中央につくり、地方につくり、またそれぞれの革命的大衆組織にもつくって、全国を毛沢東思想の大きな学校にしなければなりません。

学習のなかで、わたしたちの古い幹部、新しい幹部、革命的小勇將が毛沢東思想を活学活用し、自分の頭のなかにあるさまざまな非プロレタリア思想を改造し、思想・政治水準を高め、人民のために新

しい功績を立てるよう互いに援助しなければなりません。

わたしたちは、毛主席の偉大な呼びかけにこたえて、「革命に力をいれて、生産をうながし」、わたしたちの工業業生産の発展を大いに促進し、わたしたちの科学・技術水準を急速に高めなければなりません。

わたしたちは、毛主席の偉大な呼びかけにこたえて、「軍隊を擁護し、人民を愛護する」運動をくりひろげなければなりません。また、プロレタリア階級独裁を強化し、国内外の階級敵の破壊活動を断固として鎮圧しなければなりません。

プロレタリア文化大革命は、毛沢東思想と広はんな人民大衆とがむすびつく運動です。いったん毛沢東思想が何億という大衆ににぎ

られると、それは無敵の物質的な力となり、わたしたちのプロレタリア階級独裁が永遠に変色しないよう保証することができるのです。また、わが国の社会主義革命と社会主義建設を毛沢東思想の道にそって勝利のうちに前進させることができるのです。

プロレタリア革命派は連合し、毛沢東思想の偉大な赤旗を高くかかげて、プロレタリア文化大革命を最後までおしすすめよう！

全世界のプロレタリアは団結しよう、全世界のプロレタリアは被抑圧人民、被抑圧民族と団結しよう！

アメリカをかしらとする帝国主義を打倒しよう！

ソ連修正主義指導集団を中心とする現代修正主義を打倒しよう！
ベトナム人民の偉大な抗米救国戦争を断固として支持しよう！

アジア、アフリカ、ラテンアメリカ諸国人民の革命闘争を断固として支持しよう！

世界各国人民の革命闘争を断固として支持しよう！
かならず台湾を解放する！

全国各民族人民の大団結万歳！
中華人民共和国万歳！

偉大な、光榮ある、正しい中国共産党万歳！
偉大なマルクス・レーニン主義万歳！

無敵の毛沢東思想万歳！

われわれの偉大な教師、偉大な指導者、偉大な統帥者、偉大な舵手
毛主席万歳！ 万歳！ 万万歳！

首都人民の十月革命五十周年

記念集会における

林彪同志の演説

(一九六七年十一月六日)

同志のみなさん、紅衛兵小勇将のみなさん、友人のみなさん

きょう、わが国の人民は全世界のプロレタリア階級、革命的人民とともに、偉大な十月社会主義革命五十周年を盛大に記念しています。

偉大なレーニンの指導した十月革命は、人類史の転換点であります。

しました。ここ二ヵ月余りの間に、毛主席の正しい路線は、広はんな大衆の前に明らかになされ、広はんな大衆に把握されて、誤った路線にたいする批判がくりひろげられてきました。国家の大事に関心をもたなければならぬという毛主席の呼びかけは、ほんとうに、広はんな大衆の行動になりました。これは実にすばらしいことです。これはプロレタリア文化大革命を最後までやりぬくための重要な保証です。

毛主席の路線は、大衆に自分で自分を教育させ、自分で自分を解放させる路線であり、まず「敢然」を第一とする路線であり、大胆に大衆を信頼し、大胆に大衆に依拠し、大胆に思いきって大衆を立ちあがらせる路線であります。これは党の大衆路線を文化大革命の

なかに運用し、新たに発展させたものであります。これはプロレタリア文化大革命の路線であります。

ブルジョア路線は、大衆路線に反対するものであり、大衆が自分で自分を教育し、自分で自分を解放することに反対する路線であり、大衆をおさえつけ、革命に反対する路線であります。このブルジョア反動路線は、闘争のほこ先を、党内のひとにぎりの資本主義の道をあゆむ実権派と社会における妖怪変化にむけるのではなく、反対に、革命的な大衆にむけ、さまざまな方式で大衆をそそのかして大衆とたたかわせ、学生をそそのかして学生とたたかわせています。毛主席のプロレタリア革命路線は、ブルジョア反動路線と絶対にあいられないものです。ブルジョア反動路線を徹底的に批判し、こ

中国人民は偉大な指導者毛主席の指導のもとに、民族民主革命の勝利をかちとったのち、さらに社会主義革命と社会主義建設の偉大な勝利をかちとりました。社会主義の中国は、すでに世界革命の堅固なとりでになっています。英雄的なアルバニア人民は、十月革命の道をまもりぬき、ヨーロッパにあざやかな赤旗をうち立てました。ベトナム人民の抗米救国戦争は、全世界人民の反帝闘争に輝かしい手本をうち立てました。アジア、アフリカ、ラテンアメリカの民族民主革命運動はいま、すさまじい勢いで発展しています。マルクス・レーニン主義の隊列はたえず強大になっており、国際共産主義運動には新しい局面があらわれてきています。

半世紀まえにくらべると、現在の世界プロレタリア革命の内容は

はるかに深刻であり、その規模ははるかに大きく、その闘争ははるかに激烈です。新しい歴史的時代はマルクス・レーニン主義者のまえに、一連の新しい重大な問題を提起しています。しかし、それも結局、やはり権力を奪取し、権力を強固にするというこのもっとも根本的な問題に帰着します。

毛主席は、「世界のすべての革命闘争は、みな権力を奪取し、権力を強固にするためのものである」とのべたことがあります。これはマルクス・レーニン主義の偉大な真理です。

マルクス・レーニン主義と修正主義との闘争は、従来から、この根本問題に集中されてきました。フルシチョフとその継承者ブレジネフ、コスイギンの手合いに代表される現代修正主義は、世界人民

の革命に気違いのように反対し、プロレタリア階級独裁を公然と解消し、ソ連で資本主義の全面的な復活をすすめています。これは十月革命にたいする大きな裏切りです。これはマルクス・レーニン主義にたいする大きな裏切りです。これは偉大なソ連人民と全世界人民にたいする大きな裏切りです。そのため、現代修正主義の気違いじみた進政を完全に粉碎せず、偉大なレーニンのきりひらいた十月革命の道をまもるために断固として立ちあがらず、また新しい歴史的条件のもとでこの道にそってひきつづき前進し、どのようにして権力を奪取し、権力を強固にするかという問題を徹底的に解決しないならば、プロレタリア階級は最後の勝利をかちとることができず、たとえ権力を奪取しえたとしても、ふたたび権力を失い、ソ連

人民のように、新しいブルジョア特権階層に支配されるおそれがあります。

われわれにとって喜びにたえないのは、毛沢東同志がプロレタリア革命とプロレタリア階級独裁にかんするマルクス、エンゲルス、レーニン、スターリンの学説を全面的にうけつぎ、発展させたために、世界プロレタリア革命のこのもっとも根本的な問題、つまり権力を奪取し、権力を強固にする道の問題が、理論の面と実践の面でもより高い段階にひきあげられたことです。われわれの偉大な指導者毛主席は、マルクス・レーニン主義をまったく新しい高峰に発展させました。無敵の毛沢東思想は、ほかでもなく、帝国主義が全面的崩壊にむかい、社会主義が全世界的勝利にむかう時代のマルクス・

レーニン主義です。

毛主席は中国革命の偉大な闘争を指導するなかで、武力による国家権力奪取をめぐる一連の複雑な課題を天才的に解決しました。毛主席の指導のもとに、中国人民は世界プロレタリア革命史上もっとも長期の、もっとも激烈な、もっとも困難な、もっとも複雑な人民革命戦争をおこなって、プロレタリア階級独裁の赤色政権をうち立てたのです。

毛主席が中国人民を指導して武力で国家権力を奪取した道は、これを概括しますと、プロレタリア政党的指導のもとに、農村で農民大衆を立ちあがらせて遊撃戦争をおこない、土地革命をくりひろげ、農村根拠地をうち立て、農村をもって都市を包囲し、最後に都

市を奪取するという道にほかなりません。これは十月革命の武力による国家権力奪取の道の新しい、偉大な発展です。

毛主席は、「革命の勝利は、いつも、反革命勢力のわりに弱いところから、さきにはじまり、さきに発展し、さきに勝利する」とのべています。現代では、すべての反動支配階級がいつも中心城市をしっかりと押えているため、革命的政党は反動支配の弱い環、弱い地帯を利用して、大衆を十分に立ちあがらせ、遊撃戦争をおこない、革命的な、強固な根拠地をつくりあげ、それによってみずから力をたくわえ、鍛えあげ、長期の戦闘をつうじて革命の完全な勝利を一步一步かちとっていかなければなりません。したがって、大衆に依拠し、農村革命根拠地をうち立て、農村をもって都市を包囲

することは、こんにち、世界の被抑圧民族と被抑圧人民が武力による国家権力奪取をめざして奮闘するさい、しんげんに考え、解決しなければならぬ歴史的問題です。

毛沢東同志はプロレタリア階級による国家権力奪取の問題でレーニン主義を創造的に発展させたばかりでなく、プロレタリア階級独裁を強固にし、資本主義の復活を防ぐという、現代におけるもっとも重要な問題でもレーニン主義を画期的、創造的に発展させました。

レーニンは十月革命が勝利したその日から、新生のソビエト政権を強固にすることをひじょうに重視しました。レーニンはプロレタリア階級独裁のもとでの階級闘争の鋭さ、長期性を見てとっていま

した。そして、「資本主義から共産主義への移行は、歴史的一時代である。この時代が終わらないあいだは、搾取者には必然的に復活の望みがのこされていて、この望みは復活の行動に転化する」と指摘しました。

ソ連やその他いくつかの社会主義国に資本主義の復活があらわれまじた。これは、ここ五十年らしいの国際共産主義運動の歴史でもっとも大きな教訓です。この冷酷な事実は、どのようにしてプロレタリア階級独裁を強固にし、資本主義の復活を防ぐかという問題を、全世界のマルクス・レーニン主義者のまえに、きわだった形で提起しました。

ほかでもなく、現代の世界のプロレタリア階級の偉大な教師

毛沢東同志が、新しい歴史的條件のもとで、国際プロレタリア階級独裁の歴史的経験を系統的に総括し、社会主義社会の矛盾を科学的に分析し、社会主義社会における階級闘争の法則を深くほりさげて解明して、プロレタリア階級独裁のもとでひきつづき革命をおこなうことについての一連のまとまった理論、路線、方針、方法、政策を提起したのです。毛主席はその偉大な気迫、高度の英知をもって、史上はじめてのプロレタリア文化大革命を勝利のうちに指導しました。これはマルクス・レーニン主義が毛沢東思想の段階にまで発展したことを示すきわめて重要なめじるしです。

プロレタリア文化大革命の勝利は、世界人口の四分の一を占める中国に、プロレタリア階級独裁を強固にし、社会主義革命を最後ま

でおしすすめる、光明にみちた大道をきりひらきました。いま帝国主義、現代修正主義、各国反動派とたたかっている全世界のプロレタリア階級と革命的人民はみな、われわれのプロレタリア文化大革命をだんこ支持しており、かれらはわが国のプロレタリア文化大革命の勝利のなかから、このうえない励ましをうけ、光明にみちた前途をみてとり、勝利への確信を深めています。

アメリカをかしらとする帝国主義者とその手先現代修正主義者、各国反動派は、あらゆる悪知恵をしぼって、われわれのプロレタリア文化大革命をのしり、ひぼうしていますが、それはまさに、われわれの勝利が敵にどれほど手痛い打撃をあたえたかということ、かれらはかならず滅亡する一群の吸血鬼にすぎないということ、

反面から裏付けているのです。

世界はまえへ、まえへと発展していくものです。世界の法則を反映する理論もたえず発展していきます。

毛沢東思想はわれわれの時代の旗じるしです。

毛沢東思想という現代の最高水準のマルクス・レーニン主義をしつかりとにぎれば、被抑圧民族と被抑圧人民は、みずからの闘争によって解放をかちとることができます。

毛沢東思想という現代の最高水準のマルクス・レーニン主義をしつかりとにぎれば、すでにプロレタリア階級独裁をうち立てた国家は、みずからの闘争によって資本主義の復活を防ぐことができます。

毛沢東思想という現代の最高水準のマルクス・レーニン主義をしつかりとにぎれば、修正主義に権力をのっとられた国家の人民も、みずからの闘争によって修正主義の支配をうち倒し、プロレタリア階級独裁を再建することができます。

マルクス・レーニン主義、毛沢東思想が全世界各国人民の革命的実践とむすびつけば、ふるい世界全体を徹底的にうち砕くことができます。

同志のみなさん、紅衛兵小勇将のみなさん、友人のみなさん

十月革命以後の五十年は、社会主義が資本主義と、マルクス・レーニン主義が現代修正主義と激しく格闘し、つきつきと勝利をおさめてきた五十年です。帝国主義制度はすでに、日は西山にせまり、

氣息奄々というありさまです。フルシチョフ修正主義の出現は、帝国主義政策の産物であり、帝国主義の断末魔のあがきの反映です。帝国主義と修正主義はこれからも結託して攪乱をおこなうでしょうが、反動の逆流は、結局、主流になることはありえません。歴史の弁証法は、はばむことのできないものです。今後、世界のプロレタリア階級と革命的人民は、マルクス・レーニン主義、毛沢東思想の偉大な赤旗をいっそう高くかかげ、十月革命によってきりひらかれた道を堂々と前進していくことでしよう。

十月革命を裏切ったものはみな、ぜったいに歴史の懲罰をまぬかれることはできません。フルシチョフはとくに失脚しました。ブレジネフ・コスイギン集団はいっそう拍車をかけて裏切り政策を実

行していますが、かれらの寿命もそう長くはありません。光栄ある革命の伝統をもつソ連のプロレタリア階級と勤労人民は、偉大なレーニンとスターリンの教えをけっして忘れないでしよう。かれらはかならずレーニン主義の旗じるしのもとに立ちあがって革命をおこない、修正主義反動集団の支配をうち倒して、ソ連をふたたび社会主義の軌道に立ちもどらせるでしょう。

同志のみなさん、紅衛兵小勇将のみなさん、友人のみなさん
われわれの偉大な祖国はすばらしい情勢を迎えています。プロレタリア文化大革命は、偉大な指導者毛主席の最新指示にみちびかれて、勝利のうちに前進しています。

われわれは、かならず十月革命の偉大な旗じるしをいっそう高く

かかげ、マルクス・レーニン主義、毛沢東思想の偉大な旗じるしを
いっそう高くかかげて、プロレタリア文化大革命を最後までやりぬ
かなければなりません。

われわれは、かならずわたしたちの偉大な祖国をいっそう強大な
世界革命の根拠地にきざしあげなければなりません。

われわれは、かならず世界のプロレタリア階級と各国人民の革命
闘争をいっそう力づよく支援しなければなりません。

われわれは、かならず全世界の革命的人民とともに、アメリカを
かじらとする帝国主義、ソ連修正主義裏切り者集団を中心とする現
代修正主義に反対する闘争を最後までやりぬかなければなりません。

われわれは、かならずいっそう努力して毛沢東思想を学習し、つ
かみ、毛沢東思想を全世界にいっそうひろめなければなりません。

これは歴史がわが国人民にあたえた光栄ある使命であり、わが国
人民の当然果たすべき国際主義の義務であります。

われわれの偉大な指導者毛主席は、「全世界のマルクス・レーニ
ン主義者は団結し、全世界の革命的人民は団結して、帝国主義を打
倒し、現代修正主義を打倒し、各国の反動派を打倒しよう。帝国主
義もなく、資本主義もなく、搾取制度もない新しい世界は、かなら
ずうち立てられる」と呼びかけています。

われわれは毛主席のこの偉大な呼びかけを実現するために勇敢に
たたかおうではありませんか！

偉大な十月社会主義革命万歳！

偉大なプロレタリア文化大革命万歳！

全世界のプロレタリアは団結しよう！

全世界のプロレタリアは被抑圧人民、被抑圧民族と団結しよう！

無敵のマルクス主義・レーニン主義・毛沢東思想万歳！

偉大な教師、偉大な指導者、偉大な統帥者、偉大な舵手毛主席万

歳！ 万万歳！

中華人民共和国成立十九周年

祝賀大会における

林彪同志の演説

(一九六八年十月一日)

同志のみなさん、友人のみなさん

わたしたちの偉大な指導者毛主席がみずからつくりあげ、指導している偉大な中華人民共和国は、社会主義の大道を勝利のうちに前進して十九年になりました。

この輝かしい祝日を祝うにあたって、わたしは、偉大な指導者

毛主席を代表し、党中央、中国政府、党中央軍事委員会、党中央文化革命小組を代表して、プロレタリア文化大革命のなかですばらしい功績を立てた労働者階級、貧農・下層中農、人民解放軍、紅衛兵小勇將、革命的幹部、革命的知識分子にもっとも熱烈なあいさつをおくります。世界各国から来られた同志のみなさん、友人のみなさんにもっとも熱烈な歓迎の意を表します。

いま、わが国のプロレタリア文化大革命は、すでに偉大な勝利をおさめました。台湾省をのぞく全国二十九の省、市、自治区のすべてに革命委員会が成立しました。工業、農業、科学・技術、革命的文学・芸術は、活気にあふれ栄えています。資本主義を復活させようとした中国のフルシチョフおよび各地区におけるそのひとにぎり

の代理人の反革命の陰謀は、完全に破産してしまいました。わが国のプロレタリア階級独裁は、十九年らしい階級闘争をへて、とくにこんどのプロレタリア文化大革命のあらしをへて鍛えられ、これまでになく強固になり、これまでになく強大になりました。

これらすべての勝利、すべての成果は、みな、わたしたちの偉大な指導者毛主席の英明な指導のもとで、全国のいく億もの革命的大衆が英雄的に奮闘した結果であります。

いま、わたしたちの前におかれている中心任務は、毛主席の偉大な教えにしたがって、闘争・批判・改革を真剣にりっぱにやりとげることです。これはつまり、革命委員会を強化し発展させ、大批判をりっぱにやりとげ、階級隊列の純潔化をりっぱにやりとげ、党

の整頓、党の建設をりっぱにやりとげ、教育革命をりっぱにやりとげ、機構の簡素化をりっぱにやりとげ、不合理な規則と制度を改革し、革命に力をいれ、生産をうながして、プロレタリア文化大革命を最後までやりぬくことであります。

毛主席は、労働者階級がすべてを指導しなければならぬ、と指摘されました。毛主席の指示にもとづいて、全国のいく千いく万という産業労働者によって組織された労働者毛沢東思想宣伝隊が、人民解放軍毛沢東思想宣伝隊の協力のもとに、大学、中等学校、小学校および知識分子がかたまっているすべてのところにはいり、またはいりつつあり、上部構造の各領域の闘争・批判・改革の政治舞台にのびりました。これは二十世紀六十年代の偉大な出来事であ

ります。日がまだ割合あさいとはいえ、長いあいだ英雄的にたたかってきた中国の労働者階級が、毛主席をはじめとする中国共産党の指導のもとに、その強固な同盟者である貧農・下層中農とともに、広はんな革命的大衆とともに、かならずいっそう輝かしい功績を立てるにちがいないことは、革命の実践がすでに立証しており、またひきつづき立証するであります。

わたしは毛主席をはじめとするプロレタリア階級司令部を代表して、全国のプロレタリア革命派が、毛主席の偉大な戦略的配置にしっかりとしたが、毛主席の最新指示を全面的に実行にうつし、プロレタリア文化大革命の全面的勝利をかちとるなかで、たえず新しい功績を立てるよう、呼びかけます。同時に、中国人民解放軍の全

指揮員・戦闘員は、つねに警戒心をたもち、戦争への備えをつよめ、国防をかため、プロレタリア階級独裁をまもり、プロレタリア文化大革命をまもらなければなりません。わたしたちはかならず台湾を解放しなければならず、あえて侵入してくるすべての敵を消滅するよういつでも準備をととのえておかなければなりません。

いま、国際、国内の情勢はひじょうにすばらしいものであります。全世界の革命的人民の闘争はあらしのようにもりあがっています。アメリカ帝国主義の立場は苦しくなり、ソ連現代修正主義の立場は苦しくなり、各国反動派の立場は苦しくなっています。かれらの反革命的支配ももう長くはありません。かれらを待っているのは、資本主義旧世界が全面的に崩壊することであり、プロレタリア

社会主義革命が全世界的勝利にむかうことであります。

全世界のプロレタリアは団結しよう！ 全世界のプロレタリアは被抑圧人民、被抑圧民族と団結しよう！

アメリカ帝国主義を打倒しよう！

ソ連現代修正主義を打倒しよう！

各国の反動派を打倒しよう！

アメリカ帝国主義とソ連現代修正主義が結託して世界を分割しようとする陰謀を粉碎しよう！

プロレタリア文化大革命の全面的勝利万歳！

毛主席のプロレタリア革命路線の勝利万歳！

プロレタリア階級独裁万歳！

偉大な中華人民共和国万歳！

偉大な中国共産党万歳！

無敵のマルクス主義・レーニン主義・毛沢東思想万歳！

わたしたちの偉大な指導者毛主席万歳！ 万歳！ 万万歳！

中華人民共和国成立二十周年

祝賀大会における

林彪副主席の演説

(一九六九年十月一日)

同志のみなさん、友人のみなさん

きょうは偉大な中華人民共和国成立二十周年にあたります。全国人民がこの輝かしい祝日を喜び祝うにさいし、わたしは、偉大な指導者毛主席を代表し、中国共産党中央委員会を代表し、中華人民共和国政府を代表して、全国各民族の労働者階級、貧農・下層中農、

紅衛兵、革命的幹部、革命的知識分子に敬意を表します！ 英雄的な中国人民解放軍に敬意を表します！ 社会主義祖国を熱愛するすべての人びとと海外の華僑の同胞に敬意を表します！ 世界各国から来られた同志のみなさん、友人のみなさんに熱烈な歓迎の意を表し、あなたがたにあいさつをおくります！

中華人民共和国成立の前夜、偉大な指導者毛主席は全世界にむかって、人類総数の四分の一をしめる中国人はここに立ちあがった、とおごそかに宣言しました。偉大な社会主義の新中国はうまれるやいなや、東の空にさしのぼる太陽のように、自己の輝く光であまねく大地を照らしました。わが国の歴史はこのときからまったく新しい時代にはいりました！

二十年このかた、全中国人民は、偉大な指導者毛主席の英明な指導のもとに、毛主席のプロレタリア革命路線にそって、独立自主をつらぬき、自力更生にたより、発奮して富強をはかり、刻苦奮闘し、立ちおくれた半封建・半植民地の旧中国を、先進的な社会主義の新中国に改造してきました。わたしたちの祖国には、天地もくつがえるような変化がおこりました。

二十年にわたる闘争のなかで、わたしたちはプロレタリア階級の権力をうち固め、国内外の敵による転覆の陰謀と破壊活動を勝利のうちに粉碎し、社会主義革命と社会主義建設の偉大な成果をおさめました。わたしたちは経済戦線における社会主義革命をすすめると同時に、政治戦線、思想戦線、文化戦線における社会主義革命

をもすすめてきました。毛主席がみずからおこし指導しているプロレタリア文化大革命は、裏切り者、敵のまわし者、労働者階級の奸賊劉少奇をかしらとするブルジョア階級司令部を徹底的にたたきつぶし、かれらの資本主義復活の陰謀をうちくだきました。偉大な毛沢東思想はかつて見ないほど広く普及し、いく億もの人民に把握されて、人びとの精神的様相をこのうえなく大きく変え、わが国の社会主義事業のたえまない発展を促進しています。わたしたちの社会主義祖国は生きいきとして富みさかえ、日とともに向上しています。わが国各民族の人民はかつて見ないほど団結しています。プロレタリア階級独裁はいっそう強固になりました。偉大な社会主義の中国は、巨人のように世界の東方に毅然と立ち、反帝、反修の強大

な政治的勢力となっています。

わたしたちのすべての勝利はみな、毛沢東思想の勝利であり、毛主席のプロレタリア革命路線の勝利です。わが国の社会主義革命の実践が立証しているように、偉大な指導者毛主席のうちだした、プロレタリア階級独裁のもとでひきつづき革命をおこなうことについての理論、路線、方針、政策は、マルクス・レーニン主義の理論と実践にきわめて重要な新しい貢献をし、プロレタリア階級が権力を奪取したのち、プロレタリア階級独裁を強固にし、資本主義の復活を防ぎ、社会主義革命を最後までやりぬく輝かしい道をきりひらきました。全国人民は長期にわたる闘争のなかから、偉大な指導者毛主席にすっかりしたがっていくことこそ勝利である、という真

理をひきだしました。

「深遠な歴史的意義をもつ党の第九回全国代表大会で、毛主席は「団結して、いっそう大きな勝利をかちとろう」という偉大なよびかけをおこない、全国人民の闘志をこのうえなくふるいたたせました。」

「現在、わたしたちはひきつづき九全大会の団結、勝利の旗を高くかかげ、全面的に、九全大会の提起した戦闘的諸任務を実行にうつし、毛主席の提起したプロレタリア階級の諸政策を実行にうつさなければなりません。毛沢東思想を活学活用する大衆運動をいっそう広げ、ふかくくりひろげ、思想の革命化をいっそうりっぱにやりとげなければなりません。革命的大批判に力をいれ、闘争・批

判・改革を真剣にりっぱにやりとげ、プロレタリア文化大革命を最後までおしすすめて、プロレタリア階級独裁をいっそう強固にしなければなりません。「戦争にそなえ、自然災害にそなえ、人民のため」という毛主席の偉大な戦略方針をだんこ貫徹・実行し、革命に力をいれて、生産をうながし、仕事をうながし、戦争への備えをうながし、また、大いに意気こみ、つねに高い目標をめざし、多く、はやく、りっぱに、むだなく社会主義を建設し、革命と生産の新しい高まりをもちあげなければなりません。」

「同志のみなさん！ わたしたちは毛主席を統帥者とする党中央のまわりにいっそうかたく団結し、党の集中統一の指導をつよめなければなりません。わたしたちはかならず毛主席の教えにしたがっ

て、謙虚で、慎重で、おごりをいましめ、あせりをいましめ、ひきつづきプロレタリア階級の生氣はつらつとした革命精神を発揚し、永遠に刻苦奮闘の光榮ある革命的伝統をたもち、広範な大衆の積極性と創意性を十分に發揮させて、社会主義祖国をいっそう富みさかえた強大な国に建設し、わたしたちの国防力をいっそう強大なものに建設しなければなりません。

二十年このかた、国際情勢にはきわめて大きな変化がおこりました。各国人民の革命運動は空前の高まりをみせており、アメリカ帝国主義、社会帝国主義は、これまでになく孤立しています。アメリカ帝国主義、社会帝国主義は、内外ともにゆきづまっている苦境から抜けだすため、たがいに結託し、争奪しあっており、軍備拡張と

戦争準備をおしすすめ、さらには、わが国にたいする侵略戦争を画策し、わが国にたいして公然と核恐かつをおこなっています。国と国との間では、わが国はこれまでずっと平和共存の五原則を堅持してきました。相手がおかしてこなければこちらもおかさない、相手がおかしてくればこちらもおかす、これがわたしたちの立場です。全国人民は、警戒心を高め、戦争への備えを強化し、つねに準備をととのえて、あえて侵犯してくるすべての敵をせん滅しなければなりません。わたしたちはかならず台湾を解放します。われわれは、アメリカ帝国主義、社会帝国主義に警告する。毛沢東思想で武装した英雄的な中国人民と中国人民解放軍はうち破ることのできないものである。もし、きみたちがどうしても戦争を中国人民に

おしつけるなら、われわれはだんこ最後までつきあう！ わが国の
広大な土地はどこもみな、きみたちの墓場になるであらう！

わたしたちは、永遠にプロレタリア国際主義を堅持して、英雄的
なアルバニア人民の帝国主義反対、修正主義反対の闘争をだんこ支
持し、英雄的なベトナム人民が抗米救国の戦争を最後までおしす
めるのをだんこ支持し、ラオス人民の、アメリカ帝国主義とタイ国
反動派のラオス侵入に反対する正義の闘争をだんこ支持し、パレス
チナ人民とアラブ諸国人民の、アメリカ帝国主義とシオニズムに反
対する正義の闘争をだんこ支持し、五大州のすべての被抑圧民族と
被抑圧人民の革命闘争をだんこ支持します！

全世界人民は団結して、いかなる帝国主義、社会帝国主義のひき

おこす侵略戦争にも反対し、とりわけ原子爆弾を武器として使用す
る侵略戦争に反対しましょう！ もしこのような戦争がおこったな
らば、全世界人民は革命戦争によって侵略戦争を消滅すべきであ
り、いまからその準備をしておかなければなりません！

偉大な中華共和国万歳！

偉大な、光栄ある、正しい中国共産党万歳！

毛主席のプロレタリア革命路線の勝利万歳！

無敵のマルクス主義・レーニン主義・毛沢東思想万歳！

偉大な指導者毛主席万歳！ 万歳！ 万万歳！

プロレタリア文化大革命の
重要文献集

*

1970年 初版発行
出版者 外文出版社（北京）
発行者 中国国際書店
番号：（日）3050-2138
定価 140 円
1-J-1210pc
00109

